ThinkVantage System Migration Assistant 5.0

ユーザーズ・ガイド

ThinkVantage System Migration Assistant 5.0

ユーザーズ・ガイド

お願い: 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 137 ページの『付録 F. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第1刷 2005.7

目次

図

本書について

本書は、ThinkVantage® System Migration Assistant (SMA) 5.0 のインストールと使用について説明しています。

本書の構成

1 ページの『第 1 章 Migration Assistant の紹介』では、SMA の概要と機能を紹介します。

11 ページの『第 2 章 SMA のインストールとアンインストール』では、SMA のインストールとアンインストールの手順を示しています。

17 ページの『第 3 章 GUI モードでの移行の実行』では、SMA グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して標準移行を実行する方法を説明しています。

75 ページの『第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行』では、移行をバッチ・モードで実行する方法について説明しています。

95 ページの『第 5 章 拡張管理トピック』では、SMA GUI のカスタマイズ、レジストリー設定の移行、カスタム・アプリケーション・ファイルの作成など、追加アプリケーション設定の移行を可能にするための拡張管理用タスクについて説明しています。

117 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』には、サポートされるアプリケーションと移行が可能な設定の詳細リストが含まれています。

125 ページの『付録 B. ファイルおよびレジストリーの除外』には、移行から除外されたファイル、ディレクトリー、およびレジストリー項目に関する情報が含まれています。

129 ページの『付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性』では、SMA 5.0 と SMA 4.2 以前のバージョンとの互換性情報を提供します。

135 ページの『付録 E. ヘルプおよび技術援助の入手』には、ヘルプおよび技術支援を受けるための ThinkVantage Support Web サイトへのアクセスについての情報が含まれています。

137 ページの『付録 F. 特記事項』には、製品の特記事項と商標が含まれています。

本書で使用している通知

本書では、重要情報を強調して示すために以下のような通知を記載しています。

- **注:** この通知は、重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。
- **重要:** この通知は、不便な状態または困難な状態を回避するのに役立つと思われる情報またはアドバイスを提供します。

- **アテンション:** この通知は、プログラム、装置、またはデータに損傷が生じる可能性があることを示します。損傷の発生につながる可能性のある手順または状態の直前に、この「アテンション」の通知が挿入されます。

本書で使用している構文規則

本書での構文は、以下の規則に準拠しています。

- コマンドは小文字で示される。
- 変数はイタリックで示され、そのすぐ後に説明が続く。
- オプションのコマンドまたは変数は、大括弧で囲まれる。
- 複数のパラメーターのうちの 1 つを入力する必要がある場合、それらのパラメーターは垂直バーで分離される。
- デフォルト値には下線が引かれる。
- 反復可能パラメーターは、中括弧で囲まれる。

ワールド・ワイド・ウェブの ThinkVantage System Migration Assistant リソース

以下の Web ページは、SMA とシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするためのリソースを示しています。

ThinkVantage System Migration Assistant 5.0 ホーム・ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=MIGR-50889

最新の SMA ソフトウェアおよび資料をダウンロードする場合に、この Web ページにアクセスします。

ThinkVantage Personal Computing Support - ThinkVantage Technologies ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=TVAN-START

ThinkVantage Technologies の情報を検索する場合に、この Web ページを参照します。

ThinkVantage Personal Computing Support ページ

http://www.lenovo.com/think/support

ThinkVantage Personal Computing Support の Web サイトにアクセスする場合に、この Web ページに進みます。

第 1 章 Migration Assistant の紹介

System Migration Assistant (SMA) は、システム管理者がユーザーの*作業環境* を、あるコンピューターから別のコンピューターに移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。ユーザーの作業環境には、次のものがあります。

- オペレーティング・システム設定 (たとえば、デスクトップおよびネットワーク接続設定)
- ファイルとフォルダー
- カスタマイズされたアプリケーション設定 (たとえば、Web ブラウザーのブックマーク、Microsoft® ワードの編集設定)
- ユーザー・アカウント

システム管理者は SMA を使用して、企業の標準作業環境をセットアップしたり、個々のユーザーのコンピューターをアップグレードしたりできます。個々のユーザーは SMA を使用して、コンピューターをバックアップしたり、設定とファイルを 1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム (たとえば、デスクトップ・コンピューターからモバイル・コンピューター (ラップトップ)) に移行したりできます。

概要とコンポーネント

このセクションでは、SMA とそのコンポーネントを示します。

SMA の機能

SMA は、コンピューターの作業環境のスナップショットを取って作業します。次に、このスナップショットを原画として使用して、作業環境を別のコンピューターに複写します。 SMA がスナップショットを取るコンピューターは*ソース・コンピューター* です。スナップショットが複写されるコンピューターは*ターゲット・コンピューター* です。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、物理的に別々の場所に設置することもでき、さらにそれぞれ異なる時間帯にあってもかまいません。 SMA を使用して設定とファイルをバックアップまたは復元すると、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、同一コンピューターにすることができます。

SMA で 1 つのコンピューターの作業環境を別のコンピューターに移行する場合、*取り込み* フェーズ (すべてのユーザーが行う)、*適用* フェーズ (ローカル管理者としてコンピューターにログオンしているユーザーが行う)、そして*遅延適用* フェーズ (管理者特権を持たないユーザーが行う) の 3 つのフェーズを経て作業が行われます。

移行には、「*簡易移行*」および「*カスタム移行*」の 2 つのタイプがあります。簡易移行は、グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して実行することができ、すべてのユーザーにお勧めする移行タイプです。カスタム移行は、GUI、コマンド行プロンプトのいずれかを使用して実行できます。このタイプの移行では SMA に関する高度な知識が必要であるため、IT 管理者などのユーザーにお勧めします。

管理者としてログオンしている 1 人のユーザーが行う簡易移行の*取り込みフェーズ*では、以下の項目がソース・コンピューターからコピーされます。これらの項目は事前に選択されており、その選択を解除することはできません。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定

この他、「ファイルとフォルダー」もコピーすることができます。これらの設定およびファイルは、*SMA 移行ファイル* に保存されます。

適用フェーズ では、SMA で移行ファイルがターゲット・コンピューターの管理者ユーザーに適用されます。この場合、移行ファイル全体を適用するか、移行ファイルの中から適用するコンポーネントを指定するかを、ユーザーが選択できます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*取り込みフェーズ* では、ソース・コンピューターから以下の項目を選択およびコピーすることができます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとフォルダー
- バックグラウンド・ユーザーのユーザー・プロファイル

これらの設定およびファイルは、SMA 移行ファイルに保存されます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*適用フェーズ* では、SMA で以下の 2 つのタスクが行われます。

- 移行ファイルをターゲット・コンピューターの管理者ユーザーに適用する。この場合、移行ファイル全体を適用するか、移行ファイルの中から適用するコンポーネントを指定するかを、ユーザーが選択できます。
- 他のユーザーのために遅延適用タスクの準備をする。

管理特権を持たないユーザーが初めてコンピューターにログオンすると、そのユーザーのプロファイルの設定は自動的に適用されます。

SMA コンポーネント

SMA には、以下のコンポーネントが含まれています。

1. 実行可能コンポーネント:

sma.exe

設定とファイルをソース・コンピューターから取り込み、移行ファイルにコピーする実行可能ファイル。この実行可能ファイルによっても、移行ファイルがターゲット・コンピューターに適用されます。

smabat.exe
: バッチ・モードで使用するためのコマンド行インターフェースを提供する実行可能ファイル。

2. DLL ライブラリー:
   - SMA5.0 DLL
   - システム・プラグイン DLL
   - 取り込み/適用プラグイン DLL
3. 制御ファイル:

commands.XML
: 取り込みおよび適用プロセスをで駆動するために使用するコマンド・ファイル。

config.ini
: SMA.EXE および GUI をカスタマイズするために使用する構成ファイル。

<アプリケーション名>.xml
: SMA によるアプリケーションの取り込みおよび適用方法を定義するために使用するアプリケーション・ファイル。

システム要件

このセクションでは、ハードウェアおよびユーザー・アカウントの要件、サポートされるオペレーティング・システム、およびサポートされる移行のシナリオについて説明します。

ハードウェア要件

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- サポートされる Microsoft Windows® オペレーティング・システムがインストール済みである。
- ハード・ディスクが、SMA インストール・ファイル用に 30 MB の空きスペースを持っている。
- ソース・システムのハード・ディスクに、取り込みフェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。必要なディスク・スペースは、作成される SMA 移行ファイルのサイズによって異なります。
- ターゲット・コンピューターが SMA 移行ファイルにアクセスできる。この場合、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、リムーバブル・ディスク (ZIP ディスクなど)、またはイーサネット・クロスケーブルを使用することができます。
- PC から PC への移行の場合、ターゲット・コンピューターのディスク上には、SMA 移行ファイル・サイズの 2 倍のフリー・スペースが必要です。
- ファイル転送による移行の場合、ソース・コンピューターのディスクには、移行ファイル・サイズの 3 倍のフリー・スペースが必要です。

ユーザー・アカウントの要件

- SMA 取り込みタスクまたは SMA 適用タスクを起動するには、ユーザーはローカル管理特権を持つアカウントを使用してログオンする必要があります。
- 遅延適用フェーズでは、プロファイルが移行されているユーザーは、ローカル管理者アカウント、ローカル制限ユーザー・アカウント、またはドメイン・クライアント・ユーザー・アカウントを使用してターゲット・コンピューターにログオンできます。

サポートされるオペレーティング・システム

SMA 5.0 は、以下のオペレーティング・システムにインストールできます。

- Windows 98 (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 98 Second Edition (SE) (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows NT® 4.0 Workstation (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home
- Windows XP Professional
- Windows XP Tablet PC Edition 2005

これ以降、Windows 98 と Windows 98 SE を Windows 98 と呼び、Windows XP Home と Windows XP Professional を Windows XP と呼びます (ただし、各ペアの 2 つのオペレーティング・システム・バージョンを区別しなければならない場合を除く)。

注:

1. ユーザー・プロファイルの移行は、Windows NT 4.0 Workstation、Windows 2000 Professional、Windows XP Home、および Windows XP Professional でサポートされます。
2. Windows 98 では、SMA は現在ログオンされているユーザーの作業環境のみを移行できます。
3. Windows 98 では、マルチユーザー・プロファイルの移行はサポートされていません。
4. SMA 5.0 は Microsoft Internet Explorer 5.0 以降をサポートします。

サポートされる移行シナリオ

次の表は、有効な移行シナリオを示したものです。

表 1. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム			
	Windows 2000 Professional	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**	**Windows XP Tablet PC Edition 2005**
Windows 98	はい	はい	はい	いいえ
Windows 98 SE	はい	はい	はい	いいえ
Windows NT 4.0 Workstation	はい	いいえ	はい	いいえ

表 1. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ (続き)

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム			
	Windows 2000 Professional	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**	**Windows XP Tablet PC Edition 2005**
Windows 2000 Professional	はい	いいえ	はい	はい
Windows XP Home	いいえ	はい	はい	はい
Windows XP Professional	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows XP Tablet PC Edition 2005	いいえ	いいえ	はい	はい

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターでは、同じ言語で Windows を実行している必要があります。 SMA は、Microsoft Windows の 64 ビット・バージョンでは一切サポートされません。

ログオンについての考慮事項

SMA を使用してシステム設定を移行するには、ローカル・コンピューターの管理特権を持つユーザー・アカウントを使用してログオンする必要があります。

移行しなければならないシステム・リソースの一部は、アクセスするのに高い特権を必要とします。それらを取り込み、適用するには、管理特権を持つユーザー・アカウントが必要です。それ以外のアカウントから移行しようとすると、SMA は操作を終了し、エラー・メッセージを出します。

注: マルチユーザー・プロファイルの移行時には、フォアグラウンド・ユーザーに管理特権が必要です。

マルチユーザー・プロファイルの移行

SMA マルチユーザー移行には、3 種類のユーザーが関係しています (図 1 を参照してください)。

1. フォアグラウンド・ログオン・ユーザー

   移行時にコンピューターにログオンしているユーザー。このユーザーは管理特権を持つ必要があります。SMA はこのユーザー・アカウントから起動する必要があります。

   このユーザー名は、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」の 1 つとして表示されます。このチェック・ボックスは常時選択されており、クリアすることはできません。
2. バックグラウンド・ローカル・ユーザー

   現在ローカル・コンピューターにログオンしていない、ローカル・コンピューターのユーザー・アカウント。それらは、管理特権を持たない一般ユーザー・アカウントの場合があります。

これらのユーザーは、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」として表示されます。

3. バックグラウンド・ドメイン・ユーザー

   現在ローカル・システムにログオンしていない、ネットワーク・ドメインでのユーザー・アカウント。ドメイン・コントローラーはそれらのアカウント情報を制御し、ローカル・クライアント PC はそれらのプロファイル情報を所有しています。

   これらのユーザーは、ローカル・コンピューターの 「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ネットワーク・ユーザー」としてリストされます。また、コントローラー PC のローカル・ポリシーでユーザーがローカルでコントローラー PC にログオンできるように指定されている場合は、ドメイン・コントローラーの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ローカル・ユーザー」としてリストされます。
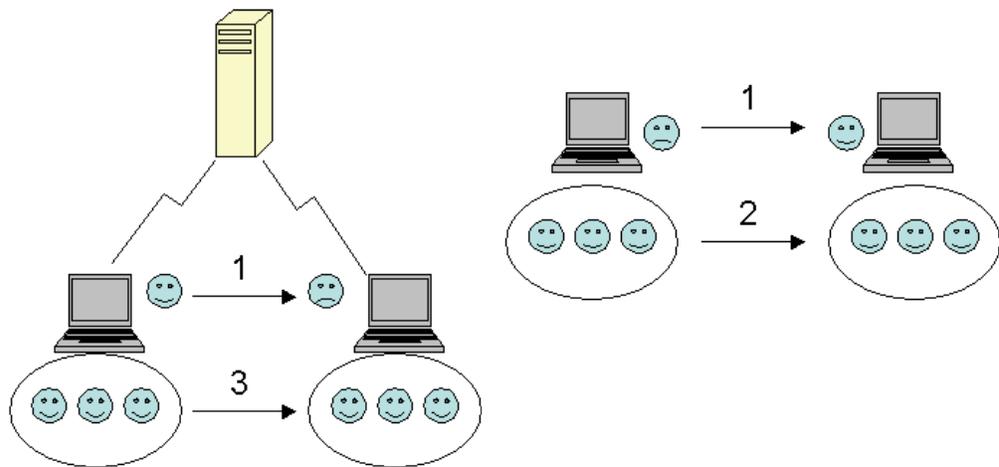
図 1. System Migration Assistant の紹介: マルチユーザーの移行

ソース・システムとターゲット・コンピューターにログオンされているフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの移行方法については、 17 ページの『第 3 章 GUI モードでの移行の実行』を参照してください。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、 92 ページの『バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、 93 ページの『バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

フォアグラウンド・ログオン・ユーザーには以下の制約事項が適用されます。

- ログオン・ユーザーは、ソース側とターゲット側の両方で管理者特権アカウントを持つ必要があります。

マルチユーザー・プロファイル移行には以下の制約事項が適用されます。

- ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が一致していないと、バックグラウンド・ユーザーの設定は移行されません。ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。
- 稼働しているアカウントは、ローカル・コンピューターの管理者アカウントである必要があります。 SMA はドメイン・ユーザー・アカウントでは使用できません。
- 設定を適用するには、ドメイン・コントローラーがネットワーク上で認識されることが必要です。検索のためには、ドメイン・ユーザーが PDC になければなりません。
- ローカル・ユーザーの PC から PC への移行の場合はクロスケーブルを使用できますが、ドメイン・ユーザーの移行には使用できません。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルを適用するには、まずネットワーク・ドメイン設定を移行する必要があります。詳しくは、ステップ 27 (28 ページ) を参照してください。
- ドメイン・ユーザーの一部の設定のみを移行し、すべての設定を移行するわけではない場合は、ローミング・ユーザー・プロファイルを選択しないでください。これを選択すると、デフォルトですべての設定が移行され、選択内容が指定変更されてしまいます。
- バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはドメイン・ユーザーのユーザー・プロファイルを移行する前に、ターゲット・コンピューターに、移行対象のものと同じ名前のユーザー・アカウントとフォルダーが存在していないか確認してください。特に、「C:¥Documents and Settings」フォルダーを確認してください。

SMA 5.0 移行ファイルのデータ・フォーマットは SMA 4.x 以前のバージョンと互換性がありません。 SMA 4.x によって取り込まれた SMA プロファイルは、SMA 5.0 によっては適用できず、その逆もまた同様です。

注: 移行ファイルはターゲット・コンピューターのローカル・ハード・ディスク上に保存する必要があります。別の場所に保存すると、バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはバックグラウンド・ドメイン・ユーザーの設定が、遅延適用フェーズで正しく適用できません。 SMA では、ネットワーク・ドライブやリムーバブル・ディスク・ドライブにある移行ファイルは見つけられません。これらのドライブは、ユーザーがコンピューターにログオンした直後は使用準備ができていない可能性があるためです。

PC から PC への移行

移行ファイルをソース・コンピューターから直接ターゲット・コンピューターに移行するには、PC から PC への移行を実施します。 PC から PC への移行は、ソース・コンピューターに移行ファイルを保存する空きディスク領域が十分に確保できない場合に有効です。また、この移行では、実行するステップが標準移行の場合よりも少なくて済むため、時間も節約できます。

PC から PC への接続のセットアップ

PC から PC への移行を行うには、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方にネットワーク・インターフェース・カード (NIC) が装備されてい

る必要があります。TCP/IP プロトコルが使用可能に設定され、両方のコンピューターが同じローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 内のノードであることも必要です。

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターを接続する必要があります。以下のいずれかの接続オプションを使用することができます。

LAN を介して
: イーサネットまたはトークンリングのいずれかを使用できます。トークンリングを使用する場合は、Windows 2000 と Windows XP がサポートされます。

イーサネット・ケーブル
: イーサネット・クロスケーブルを使用して、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間の直接接続を作成することができます。いずれかのコンピューター (ターゲットまたはソース、あるいは両方でも可) にギガビット・イーサネット・カードが装備されている場合は、PC から PC への接続に、通常のイーサネットのストレート・ケーブルを使用することもできます。この場合、必ず両方のコンピューターの IP アドレスが同じネットワークを指定していることを確認してください。 Windows 2000 と Windows XP では、IP アドレスは自動的に発行されます。 Windows 98 と Windows NT では、IP アドレスを手動で入力しなければなりません。

ファイル転送による移行

ファイル転送による移行では、ネットワーク接続を確立せずに移行を行うことができます。この場合、移行ファイルの保存用に、USB メモリー・キーなどの、十分なフリー・スペースを持つリムーバブル・ディスクが必要です。ファイル転送による移行は、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターが別の場所にあり、相互のネットワーク接続を確立することが不可能な場合に便利です。

前のリリースからのアップグレード

SMA 5.0 には SMA 4.1 または SMA 4.2 からのアップグレードが可能です。 SMA 5.0 をインストールする前に、古いバージョンの SMA をアンインストールする必要はありません。

SMA 5.0 の新機能

SMA 5.0 には、以下の新機能と拡張機能が含まれます。

- 新しく使いやすいグラフィカル・ユーザー・インターフェース
- 以前に選択されたオプションを復元する機能
- ユーザー・インターフェースをカスタマイズできる改良された機能
- 複数ユーザーの設定を移行する機能 (マルチユーザー・プロファイル移行)
- 以下のアプリケーションのサポート:
  - Adobe Reader バージョン 7.x
  - Symantec Antivirus 9.x
  - ThinkVantage Access Connections

- ThinkVantage Rescue and Recovery
- 改良された移行結果要約報告書
- 単一パッケージ内の多言語サポート

第 2 章 SMA のインストールとアンインストール

この章では、SMA のインストールとアンインストールについて説明します。

SMA 5.0 のインストール

SMA のインストールには、次の 2 つのタイプがあります。

- **標準インストール**: SMA の標準インストールを実行するには、まず管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してローカル側からコンピューターにログオンし、そのコンピューターからインストールを実行する必要があります。
- **サイレント・インストール**: ユーザーが対話を行わずに SMA をインストールする場合は、ネットワークで接続された環境にログオンし、SMA を 1 台以上のコンピューターにインストールします。サイレント・インストールは、通常リモート側で実行します。

標準 SMA インストールの実行

SMA をインストールするには、次のようにします。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してコンピューターにログオンします。
2. SMAsetup.EXE プログラムを実行します。
3. SMA の「ようこそ」ウィンドウが開きます。
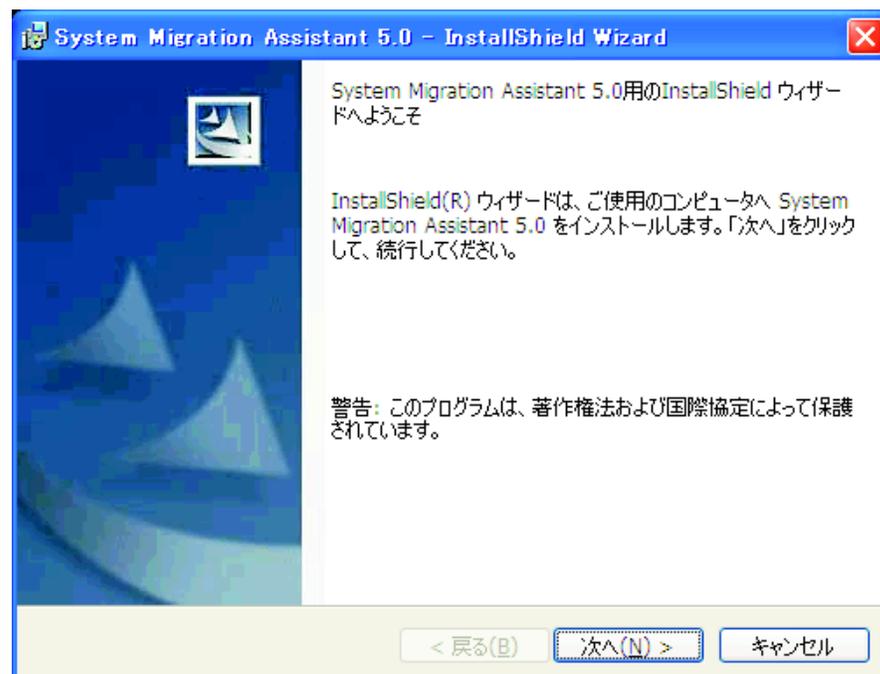
図 2. SMA のインストール: SMA の「ようこそ」ウィンドウ

4. 「**次へ**」をクリックします。「使用許諾契約」ウィンドウが開きます。「使用許諾契約の条項に同意します。」を選択します。
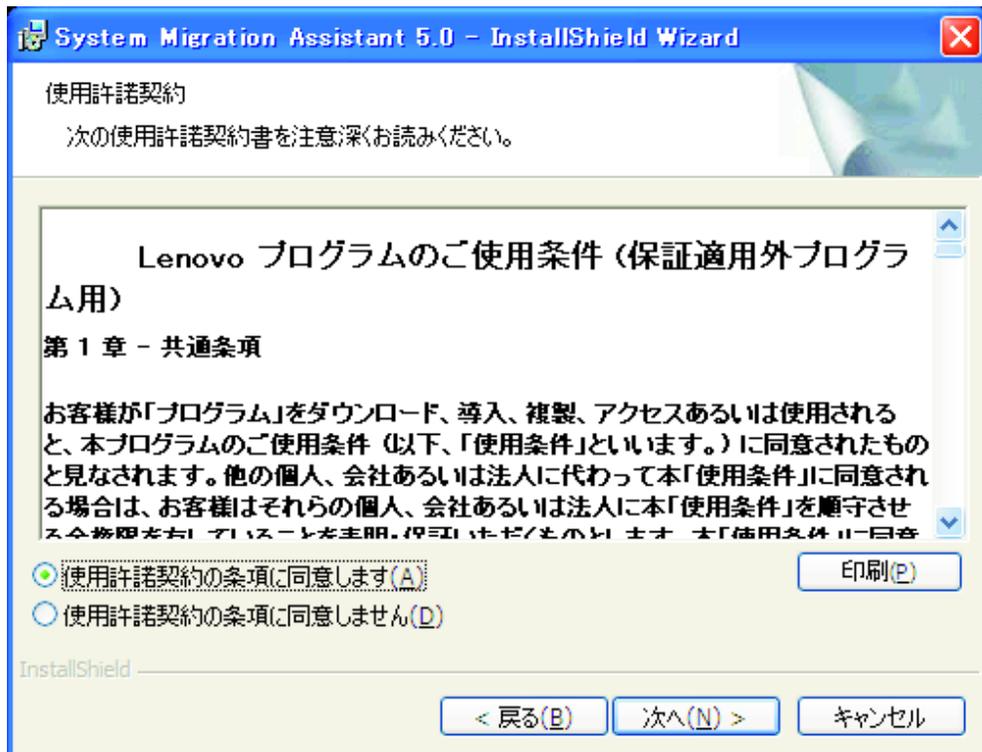
図 3. SMA のインストール: 「使用許諾契約」ウィンドウ

5. 「**次へ**」をクリックします。「インストール先のフォルダー」ウィンドウが開きます。

6. デフォルトでは、SMA が *d*:¥Program Files¥IBM ThinkVantage¥SMA にインストールされます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。SMA を別の場所にインストールするには、「**変更**」をクリックした後、代替フォルダーを選択します。
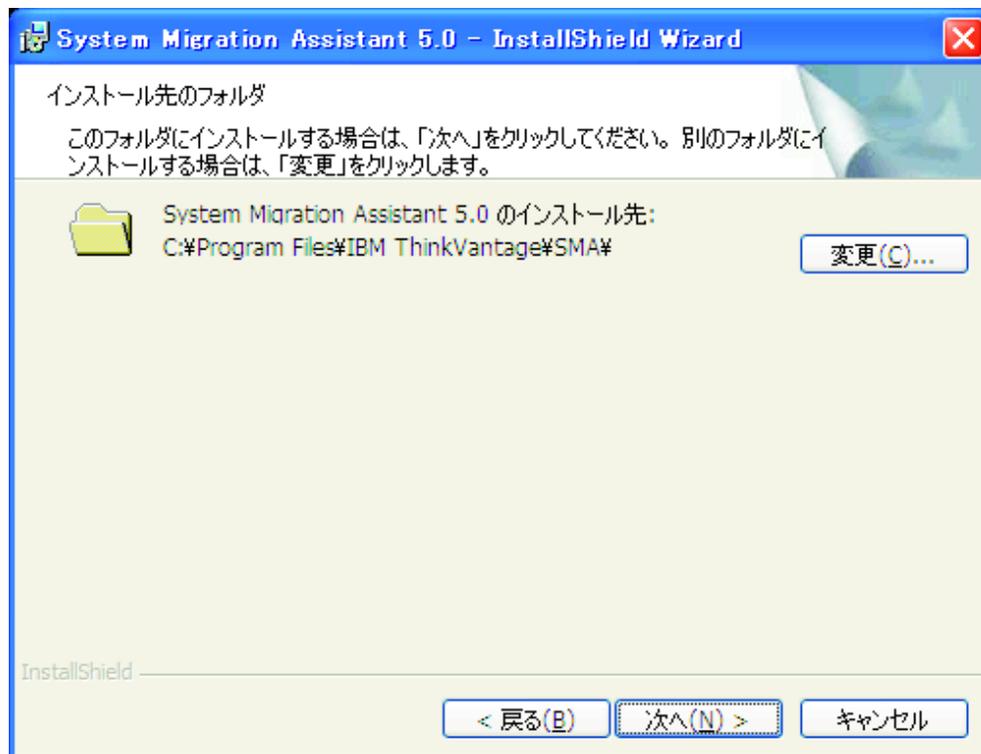
図 4. SMA のインストール: 「インストール先のフォルダー」ウィンドウ

7. 「**次へ**」をクリックします。「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウが開きます。
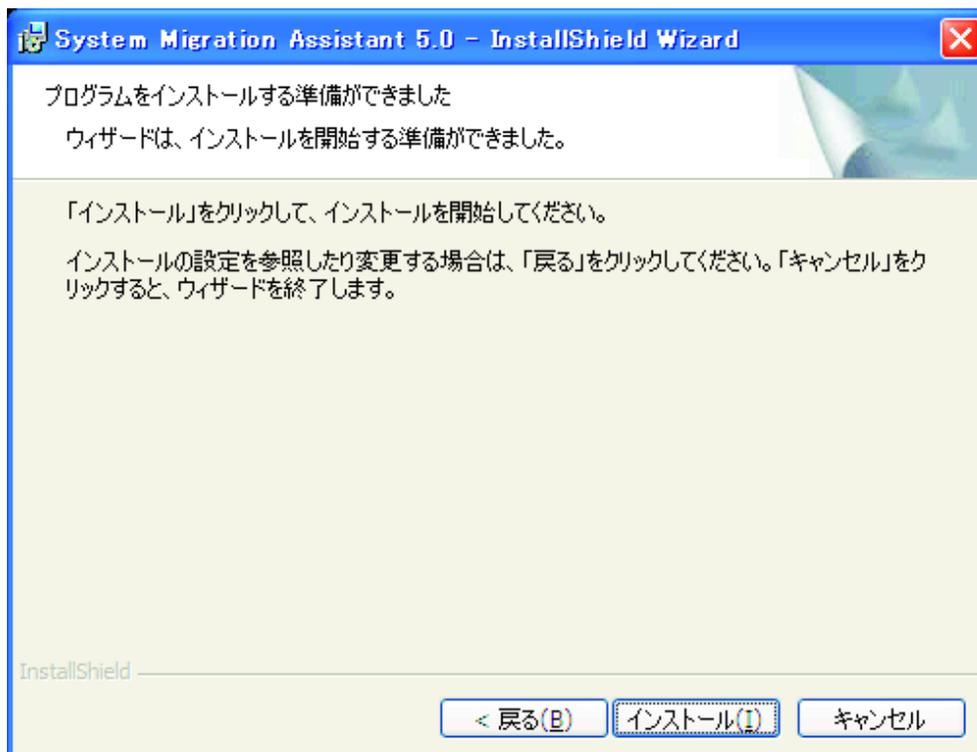
図 5. SMA のインストール: 「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウ

8. 「**インストール**」をクリックします。

   注: SMA のインストールでは、更新済みダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) ファイルが必要になる場合があります。ご使用のコンピューターに更新済み DLL ファイルがない場合は、その旨を通知するウィンドウが開き、インストールを完了するために必要なステップが示されます。

9. InstallShield ウィザードによって SMA がインストールされると、「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウが開きます。
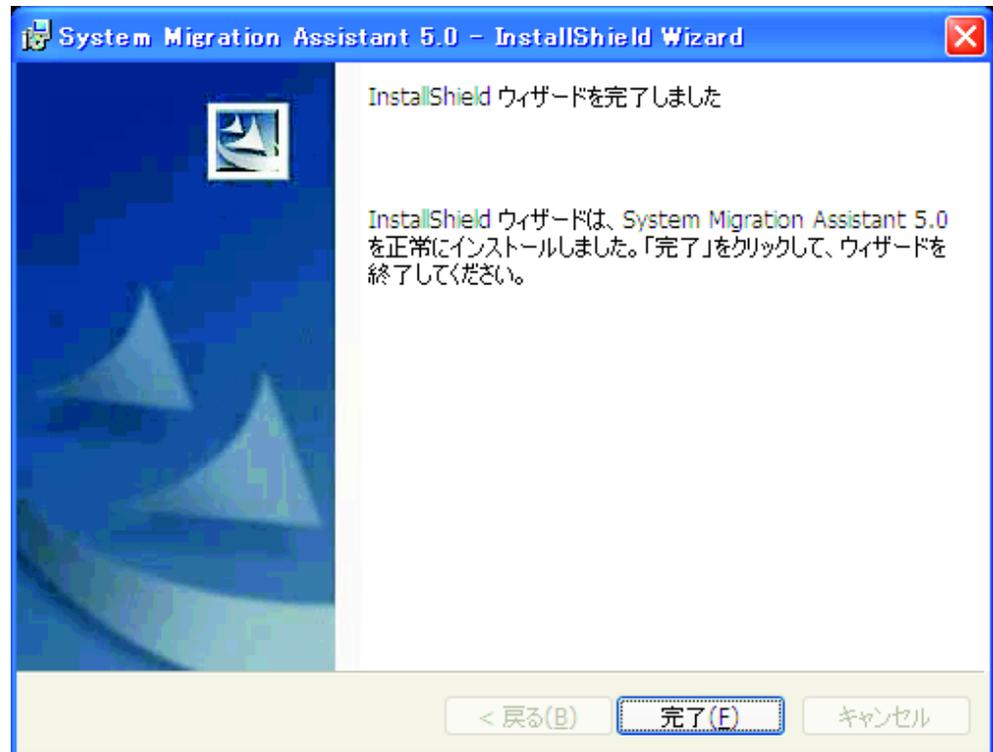
図 6. SMA のインストール: 「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウ

10. 「**完了**」をクリックします。

サイレント SMA インストールの実行

コマンド・プロンプトからの SMA のインストール

SMA をコマンド・プロンプトからインストールする場合は、次のようにします。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用して、SMA のサイレント・インストールを実行したいコンピューターにログオンします。
2. SMAsetup.EXE をコンピューターにコピーし、SMAsetup.EXE がコピーされたディレクトリーに移動します。または、SMAsetup.EXE が保存されているネットワーク・ディレクトリーに移動してもかまいません。
3. コマンド行プロンプトで、コマンド `SMAsetup.EXE /s /v"/qn"` を入力します。Enter を押します。

注: コマンド・プロンプトから SMA をインストールする前に、必ず前のバージョンの SMA をアンインストールしてください。

SMA のアンインストール

SMA をアンインストールするには、次のようにします。

1. 「**スタート**」→「**コントロール・パネル**」をクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが開きます。
2. 「**プログラムの追加と削除**」をダブルクリックします。「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「**System Migration Assistant 5.0**」をクリックします。
4. 「**削除**」をクリックします。確認ウィンドウが開きます。
5. 「**はい**」をクリックして、画面の指示に従います。

SMA のアンインストールでは、必ずしもすべての SMA ファイルが削除されない場合があります。手動で以下のファイルを削除する必要があります。

- SMA を実行しているときに生成された SMA ログ・ファイル。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合、このファイルは同じディレクトリー内にあります。
- SMA に固有の一時ファイル。デフォルトでは、これらのファイルは *d*:¥Install location¥etc¥data に保存されています。*d* は、ハード・ディスクのドライブ名です。
- SMA 移行ファイル。これらは拡張子 .sma が付いたファイルです。

第 3 章 GUI モードでの移行の実行

SMA 5.0 では、「ターゲット開始による移行シナリオ」と「標準移行シナリオ」の 2 つのタイプの移行シナリオを行うことができます。

ターゲット開始による移行シナリオ
: ターゲット・コンピューターにすでに SMA をインストールしている場合は、ソース・コンピューターに SMA をインストールせずに移行を開始できます。ターゲット・コンピューターの SMA によって、SMA インストール・パッケージがリムーバブル・ディスクまたはメモリー・キーにコピーされ、さらにソース・コンピューターに SMA がインストールされた後に移行が開始されます。

標準移行シナリオ
: 両方のコンピューターに SMA を別個にインストールする必要があります。SMA のインストール後、ソース・コンピューターで移行プロセスを開始することができます。

上記それぞれの移行シナリオの中で、さらに「簡易移行」か「カスタム移行」のどちらの移行タイプにするかを選択できます。

簡易移行タイプ
: 移行するファイルを選択する必要があります。ファイルの選択後、選択したファイルと、すべてのアプリケーション・データおよび設定が移行されます。このタイプは、簡単で迅速な移行方法です。

カスタム移行タイプ
: 移行するすべてのデータ、設定、およびファイルをユーザーが選択する必要があります。選択プロセスの実行中、いくつかのウィンドウが表示されます。

PC から PC へのターゲット開始による移行を始めるには、 18 ページの『PC から PC への移行』を参照してください。

リムーバブル・ディスクを使用してターゲット開始による移行を始める場合は、 37 ページの『ファイル転送による移行』を参照してください。

PC から PC への標準移行を開始するには、 53 ページの『PC から PC への移行』を参照してください。

リムーバブル・ディスクを使用して標準移行を開始するには、 63 ページの『ファイル転送による移行』を参照してください。

ターゲット開始による移行シナリオの実行

> **重要**
>
> 移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

PC から PC への移行

PC から PC へのターゲット開始による移行を行う場合、SMA GUI を使用して SMA 移行ファイルの取り込みと適用を行います。最初にターゲット・コンピューターに接続し、次に、移行する設定とファイルを選択します。

PC から PC へのターゲット開始による移行シナリオを行うには、次のようにします。

1. 移行するオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターに同時にログオンします。ターゲット・コンピューターで、USB メモリー・キーなどのリムーバブル・ディスクを準備します。
2. ターゲット・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

図 7. GUI モードでの移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
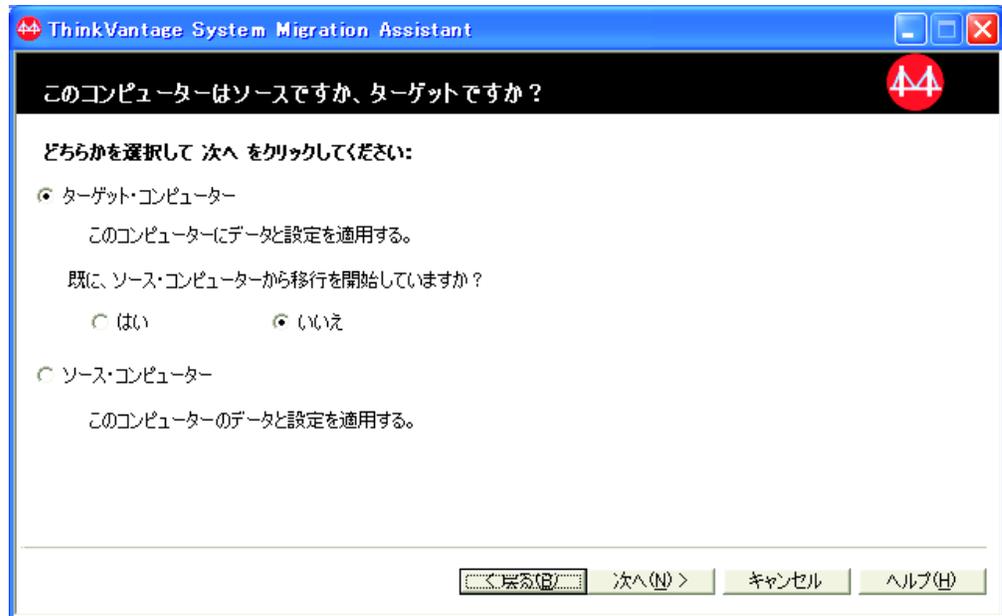
図 8. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

4. 「**ターゲット・コンピューター**」と「**いいえ**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。

図 9. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

5. 移行タイプを選択します。「**カスタム移行**」を選択する場合は、追加オプションとして「**PC からPC へ**」を同時に選択します。
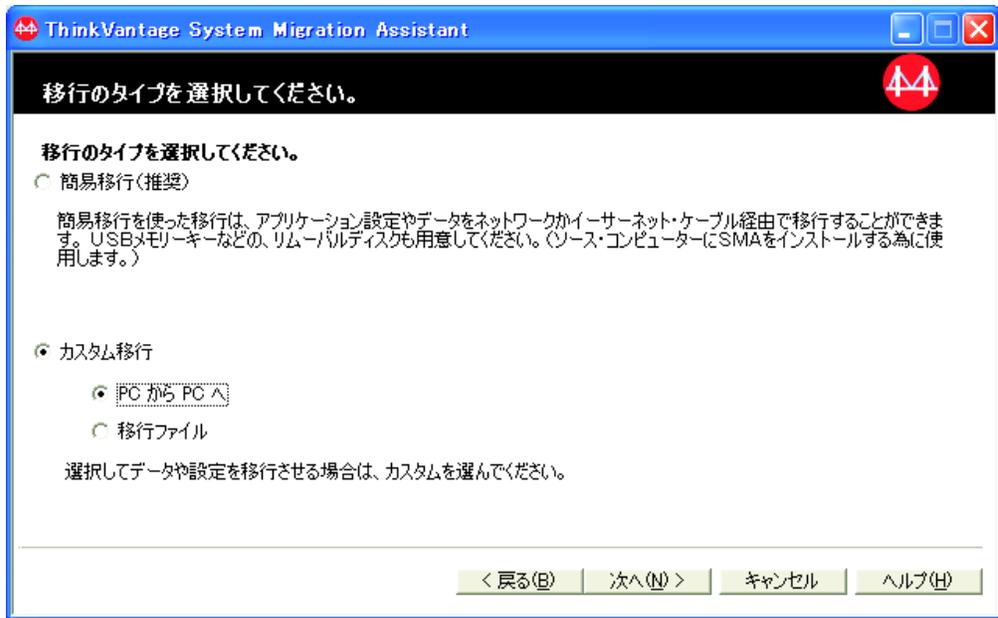
図 10. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

6. 「**次へ**」をクリックします。「System Migration Assistant のコピー」ダイアログが開きます。

図 11. GUI モードでの移行の実行: 「System Migration Assistant のコピー」ダイアログ

7. リストからリムーバブル・ディスクを選択し、「**コピー**」をクリックします。コピー・プロセスが開始します。
8. パッケージのコピーが完了すると、ソースでのインストールを待機中であることを示すダイアログが開きます。

図 12. GUI モードでの移行の実行: 「System Migration Assistant のコピーが終了しました」ダイアログ

9. リムーバブル・ディスクをターゲット・コンピューターから取り外し、ソース・コンピューターに取り付けます。メディアを開き、**セットアップ・プログラム**をクリックします。
10. ソース・コンピューターでの導入が完了すると、導入が正常に完了したことを示すウィンドウが開きます。

図 13. GUI モードでの移行の実行: 「正しく導入されました」ウィンドウ

11. 「**次へ**」をクリックします。PC から PC に接続中であることを示すダイアログが開きます。
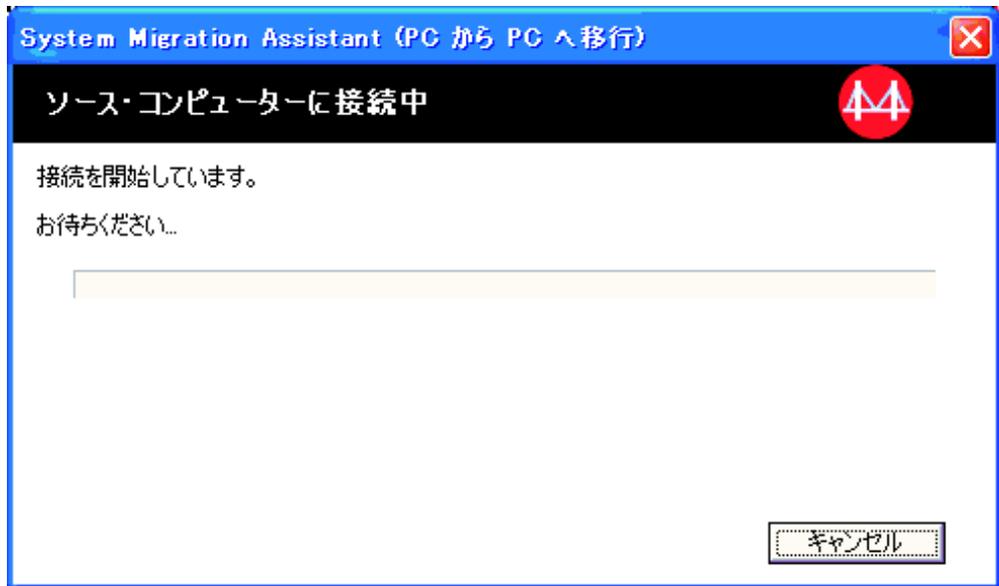
図 14. GUI モードでの移行の実行: 「ソース・コンピューターに接続中」ダイアログ

12. ターゲット・コンピューターの、ソースでのインストールを待機中であることを示すウィンドウで「**OK**」をクリックします。 PC から PC への接続が確立されます。
13. 接続が確立されると、接続が確立されたことを示すダイアログが開きます。
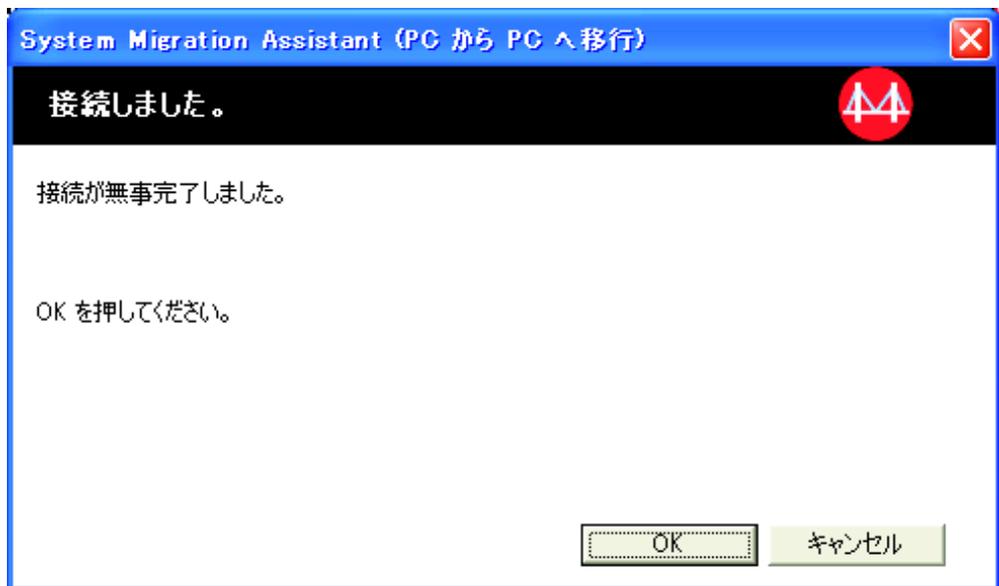
図 15. GUI モードでの移行の実行: 「接続しました」ダイアログ

14. ソース・コンピューターの「接続が無事完了しました」ダイアログで「**OK**」をクリックします。

15. ステップ 5 (19 ページ) で「**カスタム移行**」を選択した場合、「移行オプション」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 31 (29 ページ) へ進みます。

図 16. GUI モードでの移行の実行: 「移行オプション」ウィンドウ

16. 取り込みたいカテゴリーを選択します。
17. 「**次へ**」をクリックします。ステップ 16 で「**ユーザー・プロファイル**」チェック・ボックスを選択した場合、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 20 (24 ページ) へ進みます。

図 17. GUI モードでの移行の実行: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ

18. 移行したいユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルについて詳しくは、 5 ページの『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。バックグラウンド・ローカル・プロファイルの場合は、ユーザー・パスワードは移行されずに、ユーザー名にリセットされます。

    ユーザー・プロファイルには以下の制約事項が適用されます。

    - ユーザー・プロファイルを Windows 2000 または Windows XP に移行するには、管理者権限を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用する必要があります。
    - Windows 98 を実行しているソース・コンピューターから Windows 2000 Professional または Windows XP を実行しているターゲット・コンピューターにユーザー・プロファイルを移行することはできません。
19. 「**次へ**」をクリックします。
20. ステップ 16 (23 ページ) で「**デスクトップ**」チェック・ボックスを選択した場合は「デスクトップ設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 23 (26 ページ) へ進みます。

図 18. GUI モードでの移行の実行: 「デスクトップ設定」ウィンドウ

21. 移行したいデスクトップ設定を選択します。

    ユーザー補助
    キーボード、サウンド、マウス、およびその他の設定に対するユーザー補助設定

    アクティブ・デスクトップ
    アクティブ状態 (Windows NT4 Workstation ではサポートされません)

    カラー デスクトップおよびウィンドウのカラー

    デスクトップ設定 (デスクトップ・テーマ/カラー・スキーム/視覚効果)
    デスクトップ・テーマ、カラー・スキーム、視覚効果

デスクトップ・アイコン
すべてのデスクトップ・コンテンツ (フォルダー、ファイル、ショートカット、およびアイコンを含む)

注: デスクトップ・アイコンは Windows XP と Windows 2000 のみに移行できます。 Windows NT 4 はサポートされていません。アイコンの場所も移行されません。

ディスプレイ
デスクトップの幅、高さ、およびカラー深度

注: ディスプレイ・プロパティーの設定は、コンピューターのビデオ・デバイスによって異なります。 SMA では、ディスプレイ・プロパティーのうち、共通の汎用設定のみが移行されます。

アイコンのフォント
デスクトップのアイコンに使用されるフォント

キーボード
キーボードの反復速度、カーソルの明滅間隔、および遅延

マウス マウスの右利きと左利きの設定、速度、およびダブルクリック間隔

パターン
デスクトップで使用するパターン (Windows XP Professional ではサポートされません)

スクリーン・セーバー
現在のスクリーン・セーバー設定

「送る」メニュー
「送る」メニューの設定

シェル 表示のソート順、表示のタイプ (大きいアイコンまたは小さいアイコン)、ステータス・バー、およびツールバーの状況 (表示/非表示)

サウンド
サウンドの設定

「スタート」メニュー
「スタート」メニュー・コマンド

注: 「スタート」メニューはフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの場合にのみ移行されます。バックグラウンド・ユーザーの設定は移行されません。

タスクバー
ドッキング・エッジ、サイズ、常に手前に表示、自動非表示、時計表示、「スタート」メニューでの小さいアイコンの表示

注:

a. タスクバー位置の移行は Windows XP ではサポートされていません。
b. タスクバー設定の移行は、Windows 2000 および Windows XP でサポートされます。

タイム・ゾーン
タイム・ゾーンの設定

壁紙 デスクトップの壁紙

ウィンドウ・メトリック
最小化ウィンドウのスペーシングと配置、ダイアログ・メッセージのフォント、メニュー・サイズ、スクロール・バーのサイズ

デスクトップ設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ユーザー補助:**
  - Windows 98 から Windows 2000 Professional に移行する場合、ShowSounds、SoundSentry、および Stickykeys 設定の移行はできません。
  - 「カーソル」オプション、ポインター速度、および「通知」オプションの移行はできません。
- **アクティブ・デスクトップ:** 壁紙を含むアクティブ・デスクトップを移行するには、壁紙の設置も選択しなければなりません。
  - デスクトップ・アイコン間の垂直および水平スペーシングは、正確には移行されません。
  - 現行ユーザーのデスクトップ・ディレクトリーに入っているアイコンだけが移行されます。
- **マウス:** Windows XP Professional を実行しているターゲット・コンピューターにマウス速度を移行することはできません。
- **スクリーン・セーバー:** Windows 98 から Windows 2000 Professional または Windows XP に移行している場合は、スクリーン・セーバーの移行はできません。
- **シェル:** Windows Explorer シェルの設定を移行するには、シェルのデスクトップ設定と Microsoft Internet Explorer アプリケーションの設定を両方とも移行しなければなりません。ターゲット・コンピューターが Windows 2000 Professional または Windows XP を使用している場合は、フォルダー表示の設定 (たとえば、大きいアイコン、タイル、詳細など) は移行されません。
- ステータス・バーの移行は、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で Windows XP (Service Pack 2 適用済み) が実行されている場合にのみサポートされます。
- **サウンド:** SMA は、アクティブ・サウンド・スキームをソース・コンピューターからターゲット・コンピューターに移行します。サウンド・スキームは、Windows コントロール パネルの「サウンドとマルチメディア・プロパティー」ウィンドウで設定されます。ソース・コンピューターのサウンド・スキームが「**サウンドなし**」に設定されていれば、サウンドはターゲット・コンピューターに移行されません。ソース・コンピューターでカスタム・サウンドが使用されている場合は、サウンド・ファイルをサウンド・スキームと一緒に移行する必要があります。

22. 「**次へ**」をクリックします。
23. ステップ 16 (23 ページ) で「**アプリケーション設定**」チェック・ボックスを選択した場合は、「アプリケーション設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 26 (27 ページ) へ進みます。

図 19. GUI モードでの移行の実行: 「アプリケーション設定」ウィンドウ

24. 設定を移行するアプリケーションを選択します。

    SMA は、ユーザー設定とカスタマイズ情報を取り込むことができます。 Internet Explorer および Netscape Navigator のカスタマイズ情報には、ブックマーク、cookies、および設定が含まれることがあります。 Lotus® Notes® および Microsoft Outlook の場合は、これらの設定には、アドレス帳とローカルに保存された E メールが含まれることがあります。

    ターゲット・マシンにインストールされたアプリケーションのバージョンが、ソース・マシンにインストールされたバージョンより前の場合、アプリケーションの設定は移行されません。

    アプリケーション設定に適用される制約事項の詳細については、 117 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。
25. 「**次へ**」をクリックします。
26. ステップ 16 (23 ページ) で「**ネットワーク**」チェック・ボックスを選択した場合は、「ネットワーク設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 28 (29 ページ) へ進みます。
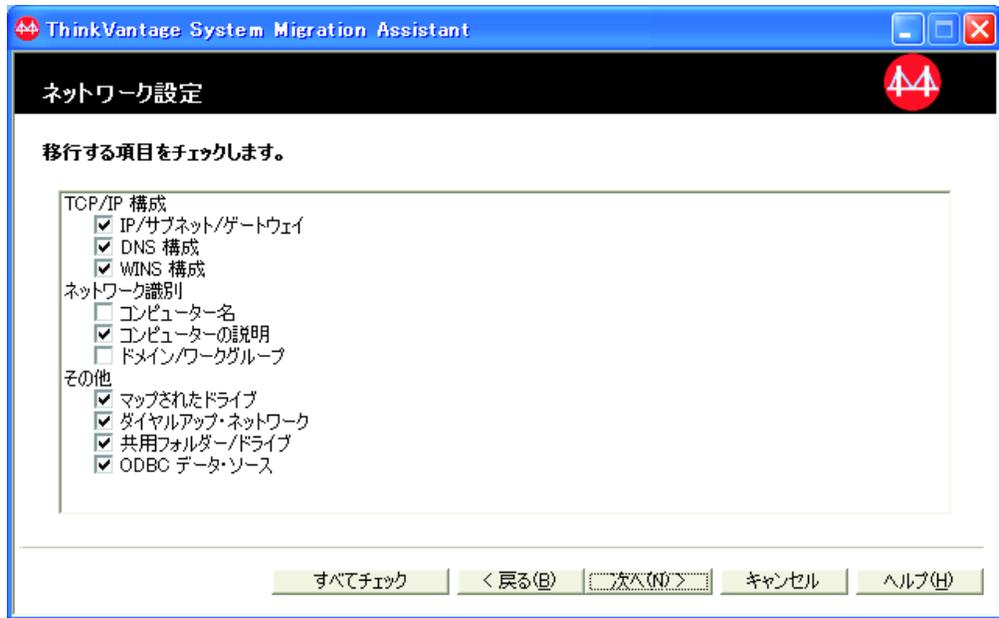
図 20. GUI モードでの移行の実行: 「ネットワーク設定」ウィンドウ

27. 移行したいネットワーク設定を選択します。

TCP/IP 構成

- IP/サブネット/ゲートウェイ
- DNS 構成
- WINS 構成

ネットワーク識別

- コンピューター名
- コンピューターの説明
- ドメイン/ワークグループ

その他

- マップされたドライブ
- ダイヤルアップ・ネットワーク
- 共用フォルダー/ドライブ
- ODBC データ・ソース

ネットワーク設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ドメイン/ワークグループ:** ソース・コンピューターがドメインのメンバーであり、ターゲット・コンピューターをこの同じドメインのメンバーにしたい場合は、ドメイン・コントローラーにターゲット・コンピューター用のアカウントを作成します。ドメイン・コントローラーが Windows 2000 Server を実行している場合は、「**Windows 2000 以前のコンピューターにこのアカウントの使用を許可する**」チェック・ボックスを選択してください。ドメイン・ネームを移行する前に、コンピューター名を移行する必要があります。
- **DNS 構成:** PC から PC への移行を実行する場合、DNS 設定は移行されません。

28. ステップ 16 (23 ページ) で「**プリンター**」チェック・ボックスを選択した場合は、「プリンター」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 31 へ進みます。

図 21. GUI モードでの移行の実行: 「プリンター」ウィンドウ

29. プリンター・リンクとデバイス・ドライバーを移行したいプリンターを選択します。デフォルト・プリンターは自動的に選択されます。

    注: デバイス・ドライバーがソース・コンピューターに手動でインストールされたプリンターを選択する場合は、移行前にターゲット・システムに同じデバイス・ドライバーをインストールしてください。

30. 「**次へ**」をクリックします。

31. ステップ 16 (23 ページ) で「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスを選択した場合、またはステップ 5 (19 ページ) で「**簡易移行**」ラジオ・ボタンを選択した場合、ファイルのスキャン中であることを示すウィンドウが開き、SMA でハード・ディスクがスキャンされます。それ以外の場合は、ステップ 37 (33 ページ) へ進みます。

図 22. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルとフォルダーのリストを作成しています。」ウィンドウ

スキャン・プロセスが完了すると、「ファイルの選択」ウィンドウが開き、デフォルトで「ファイル/フォルダー」ページが表示されます。
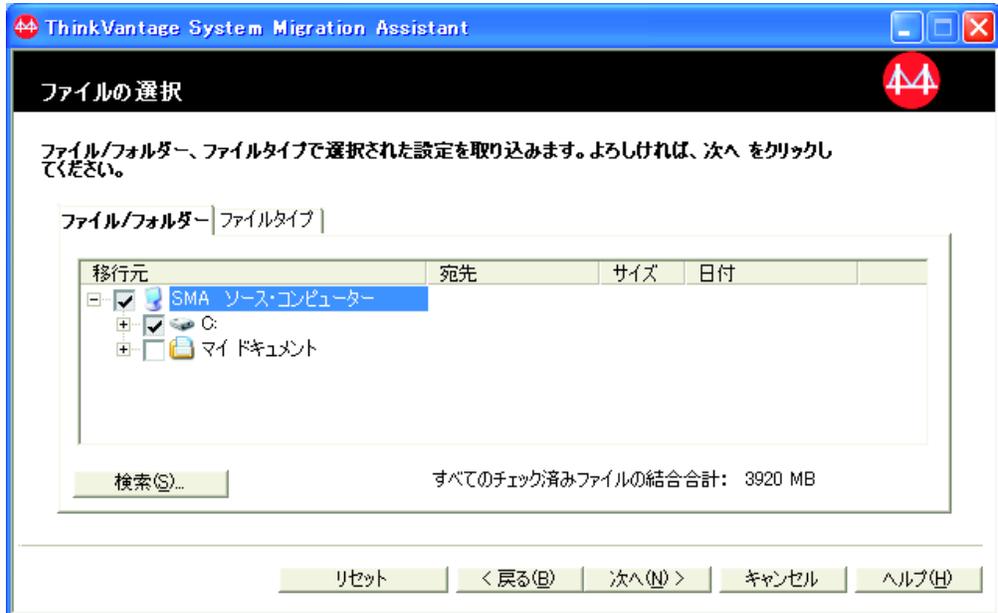
図 23. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルの選択」ウィンドウの「ファイル/フォルダー」ページ

32. 移行したいファイルを選択します。ファイルを個々に選択することもできますが、特定のタイプのすべてのファイル、または選択したディレクトリー内のす

べてのファイルを一括して選択することもできます。 ディレクトリーを選択すると、そのディレクトリーに入っているすべてのファイルが自動的に選択されます。

「ファイルの選択」ページには、ソース・コンピューターにあるファイルが場所ごとにソートされてリストされます。

タイプ別にソートされたファイルを表示するには、「**ファイル・タイプ**」をクリックします。「ファイル・タイプ」ページが表示されます。特定のタイプのファイルをすべて選択することもできますが、ファイル・タイプを展開して個々のファイルを選択することもできます。

図 24. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルの選択」ウィンドウの「ファイル・タイプ」ページ

33. 特定のファイルまたはファイル拡張子を検索するには、「**検索**」をクリックします。検索用のウィンドウが開きます。
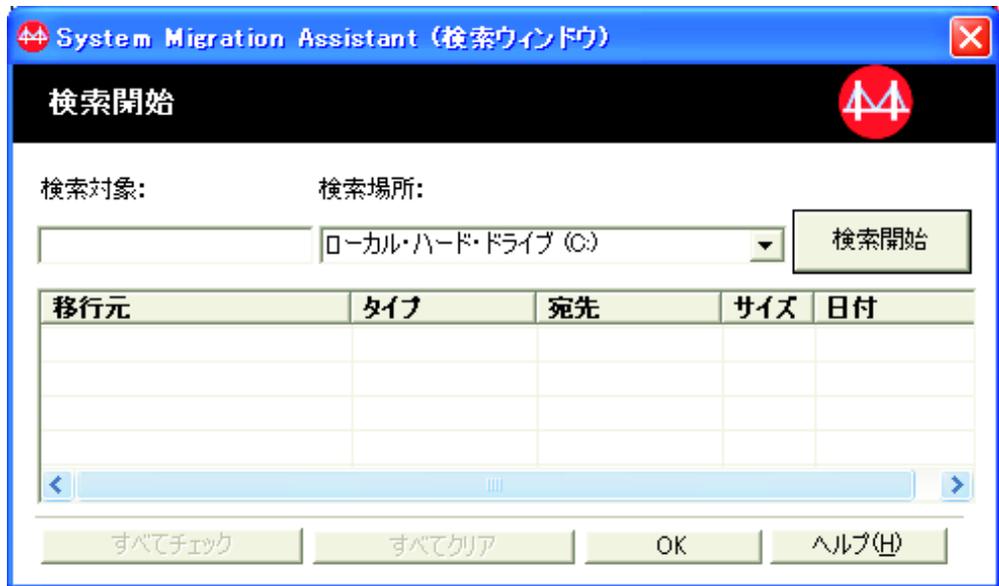
図 25. GUI モードでの移行の実行: 「検索開始」ウィンドウ

34. 「**検索対象**」フィールドにファイル名を入力します。ゼロ以上の文字と一致する、アスタリスク (*) などのワイルドカード文字を使用することもできます。「**検索場所**」フィールドで、検索したいハード・ディスクを選択します。「**検索開始**」をクリックします。

 アテンション:

 a. オペレーティング・システム・ファイルを移行しないでください。移行すると、ターゲット・コンピューターの誤動作を招く原因になることがあります。

 b. ハード・ディスクの内容全体を選択しないでください。内容全体を選択すると、オペレーティング・システム・ファイルを含め、すべてのファイルが選択されてしまうためです。

 c. 拡張子が DLL、EXE、または COM のファイルを選択するときは注意が必要です。SMA は、Windows レジストリー項目を調整しません。アプリケーション・ファイルを選択すると、アプリケーションがターゲット・コンピューターで正しく稼働しないことがあります。

35. 選択したファイルをターゲット・システムのどこに保存するかを検討してください。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターが同様なハード・ディスク構成になっていない場合は、ファイルとディレクトリー用に代替宛先を選択する必要があります。

 ファイルの宛先ロケーションを変更するには、そのファイルを右マウス・ボタンでクリックします。メニューが表示されます。
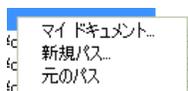
図 26. GUI モードでの移行の実行: ファイル場所の選択

選択したファイルは、「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存するか、または新規のパスを指定したり元のパスをそのまま使用することもできます。

- ファイルを「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存するには、「**マイ ドキュメント**」をクリックします。マイ ドキュメントを宛先として指定するためのウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。
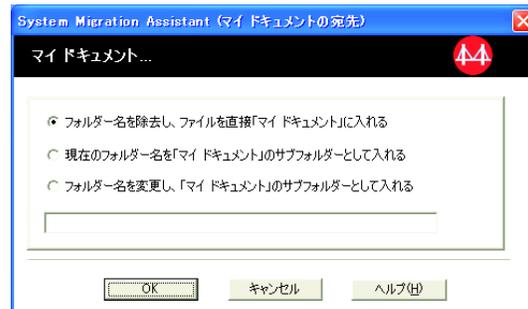
図 27. GUI モードでの移行の実行: 「マイ ドキュメントの宛先」ウィンドウ

- ファイルの代替パスを選択するには、「**新規パス**」をクリックします。新規パスを宛先として指定するウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。
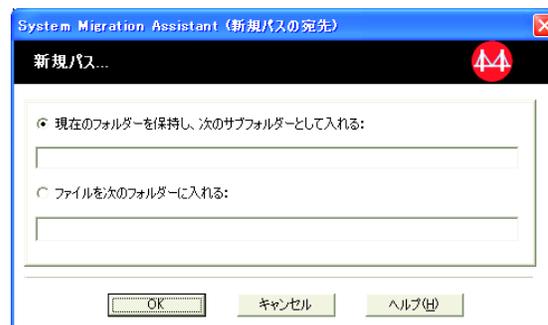
図 28. GUI モードでの移行の実行: 「新規パスの宛先」ウィンドウ

- ファイルのオリジナル・パスを保持するには、「**元のパス**」をクリックします。デフォルトでは、SMA で、ファイルがそれと同じ名前のファイルがあるディレクトリーに移行されると、移行される側のファイルによって古いファイルが上書きされます (ファイルが上書きされないように、config.ini ファイルをカスタマイズすることができます。詳しくは、 95 ページの『標準移行のカスタマイズ』を参照してください)。

重要: ファイルの位置を変更するときは注意してください。バッチ・ファイルと構成ファイルには、完全修飾パス名が含まれていることがあります。したがって、バッチ・ファイルと構成ファイルが参照するファイルとディレクトリーの位置を変更すると、プログラムまたはタスクは正常に稼働しません。

36. 「**次へ**」をクリックします。
37. 「接続を開始しています。」ダイアログが開きます。
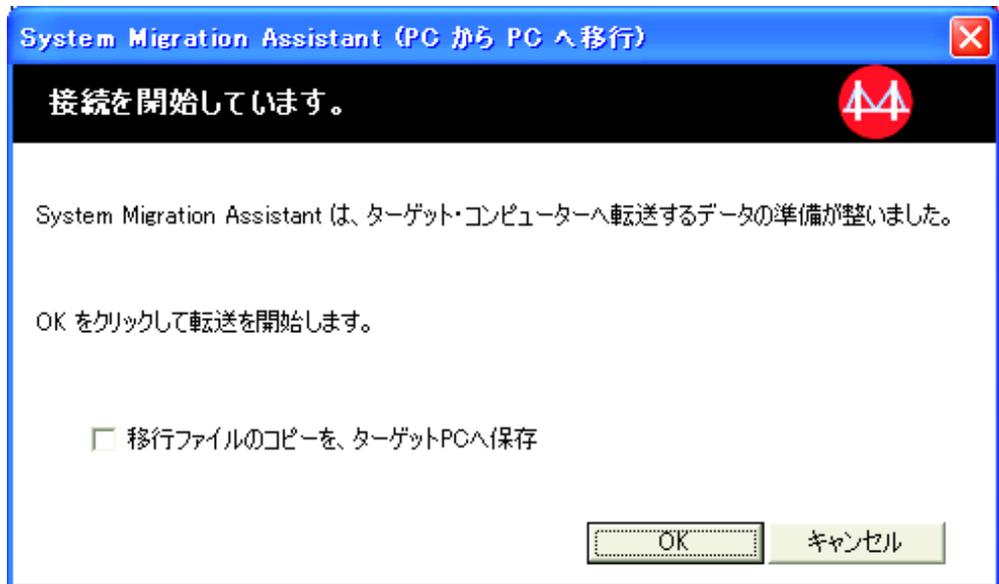
図 29. GUI モードでの移行の実行: 「接続を開始しています。」ダイアログ

38. Command File を読み込む場合、Command File 内で、<P2PArchiveFile> を「true」にすると、ダイアログの下部にチェック・ボックスが表示されます。ターゲット PC 上に移行ファイルのコピーを保存するには、このダイアログ下部のチェック・ボックスを選択します。「**OK**」をクリックします。
39. ステップ 38 でこのチェック・ボックスにチェック・マークを付けた場合、「移行ファイルの保存」ダイアログが開きます。それ以外の場合は、ステップ 41 (35 ページ) へ進みます。
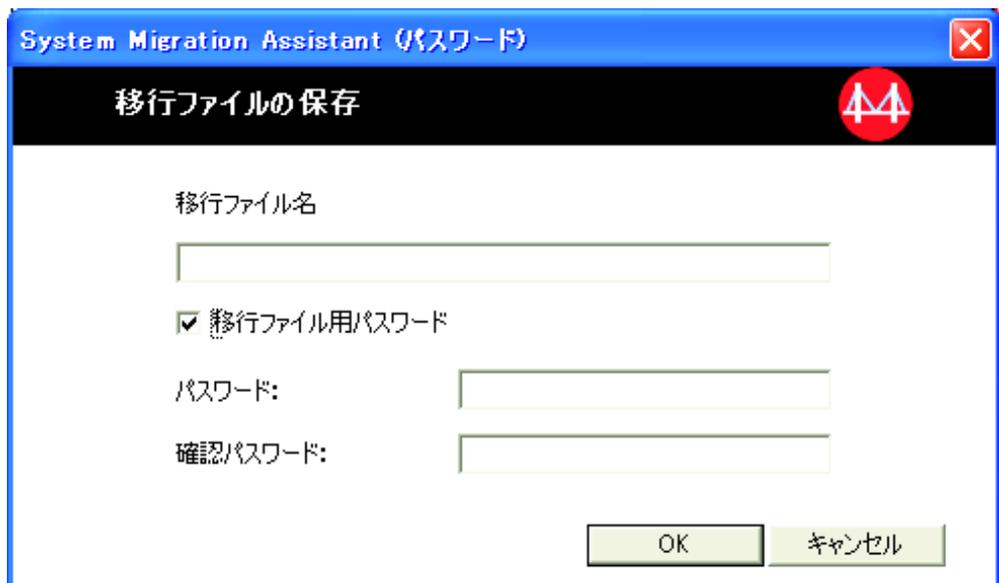
図 30. GUI モードでの移行の実行: 「移行ファイルの保存」ダイアログ

40. 移行ファイルにパスワードを設定します。

a. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します (パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません)。

b. 「**確認パスワード**」フィールドにパスワードを再入力します。

c. 「**OK**」をクリックします。

41. ターゲット・コンピューターの接続が確立されたことを示すダイアログで「**OK**」をクリックします。適用フェーズが開始します。移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。

42. ターゲット・コンピューターでコピーの進行状況を示すウィンドウが開きます。
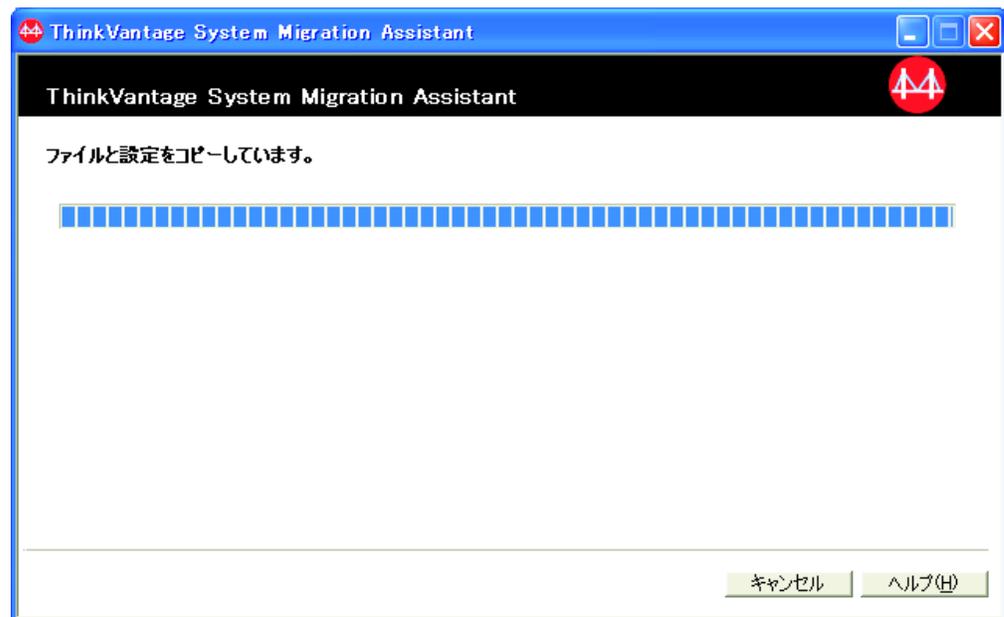
図 31. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ダイアログ

SMA では、ソース・コンピューターで作成した移行ファイルがターゲット・コンピューターにコピーされた後、保存された移行ファイルが適用されます。 移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

43. 移行ファイルの適用後、ターゲット、ソースの両方のコンピューターで「正しく移行されました。」ウィンドウが開きます。
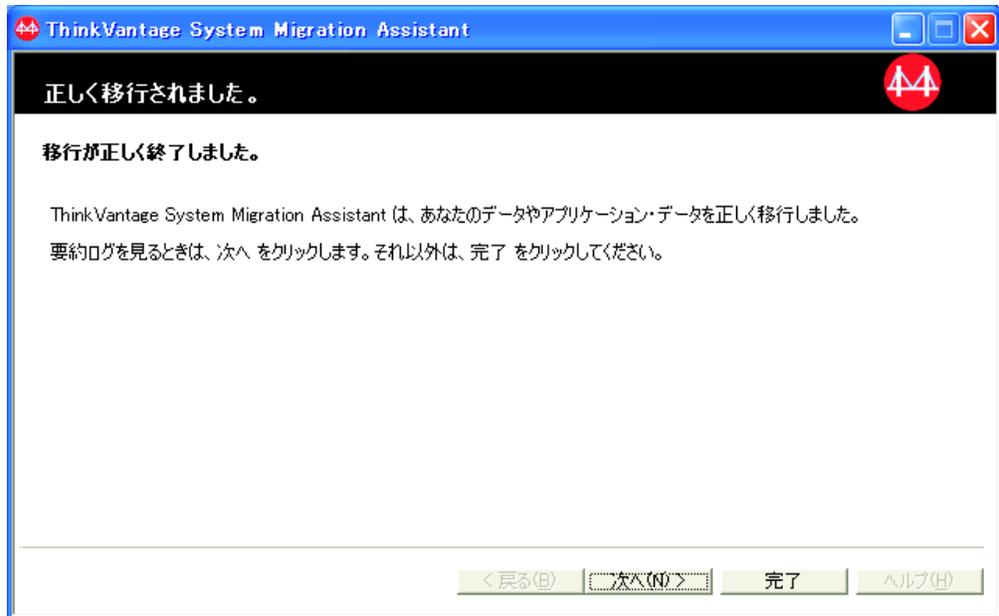
図 32. GUI モードでの移行の実行: 「正しく移行されました。」ウィンドウ

44. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、「**次へ**」をクリックします。移行レポートのウィンドウが開きます。SMA を終了するには、「**完了**」をクリックします。
45. レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 33. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

46. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。

b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。

c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。

d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。

e. 「**保存**」をクリックします。

47. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。

48. ターゲット・コンピューターで「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、コンピューターが即時に再起動されます。
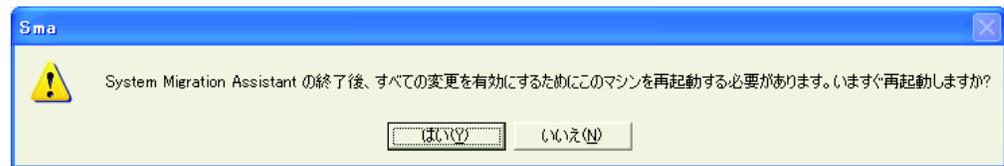
図 34. GUI モードでの移行の実行: コンピューターの再起動を指示するダイアログ

ファイル転送による移行

ターゲット開始によるファイル転送による移行では、SMA GUI を使用して SMA 移行ファイルの取り込みと適用を行います。

この移行を行うには、次のようにします。

1. 移行するオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターに同時にログオンします。ターゲット・コンピューターで、USB メモリー・キーなどのリムーバブル・ディスクを準備します。

2. ターゲット・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

図 35. GUI モードでの移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
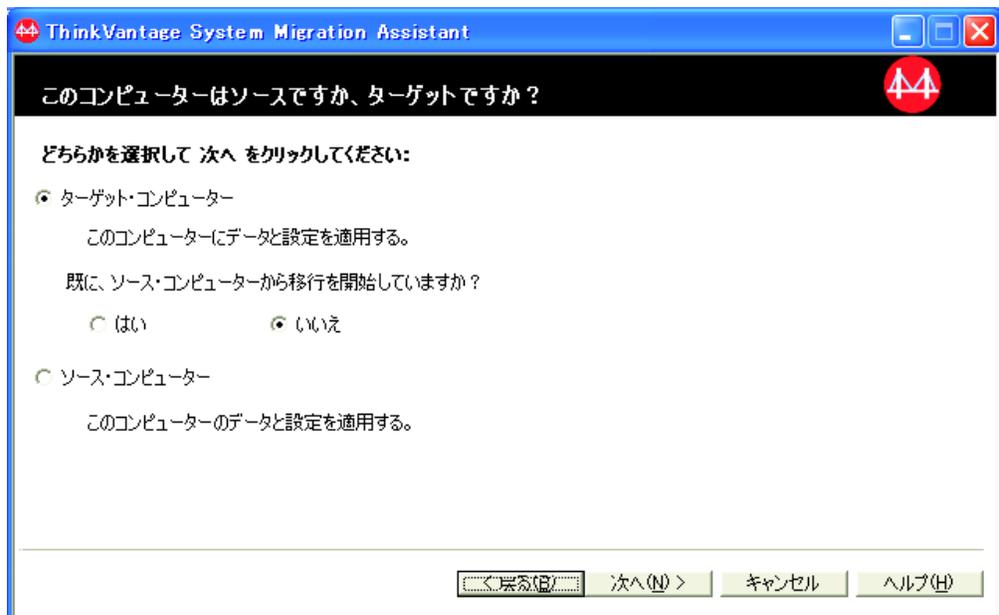
図 36. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

4. 「**ターゲット・コンピューター**」と「**いいえ**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。

図 37. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

5. 移行タイプを選択します。「**カスタム移行**」を選択する場合は、追加オプションとして「**移行ファイル**」を同時に選択します。
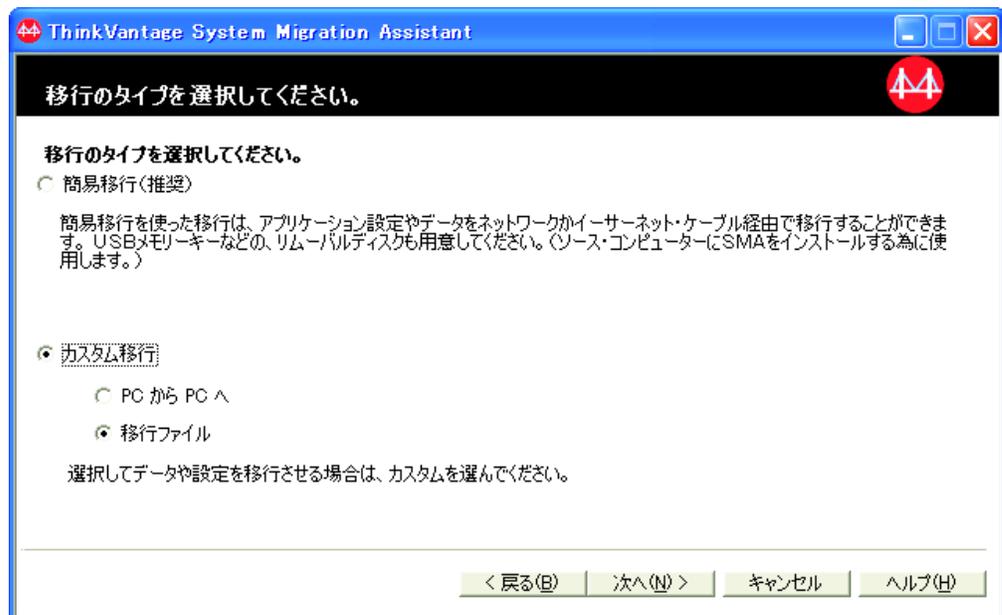
図 38. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

6. 「**次へ**」をクリックします。「System Migration Assistant のコピー」ダイアログが開きます。
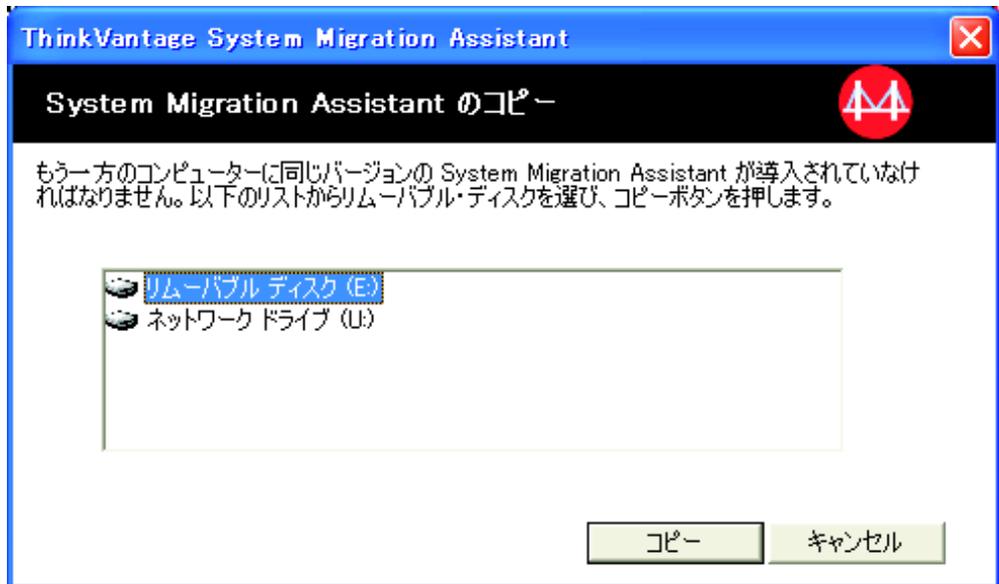
図 39. ファイル転送による移行: 「System Migration Assistant のコピー」ダイアログ

7. リストからリムーバブル・ディスクを選択し、「**コピー**」をクリックします。コピー・プロセスが開始します。
8. パッケージのコピーが完了すると、「System Migration Assistant のコピーが終了しました」ダイアログが開きます。

図 40. GUI モードでの移行の実行: 「System Migration Assistant のコピーが終了しました」ダイアログ

9. 「**OK**」をクリックして、SMA を閉じます。
10. リムーバブル・ディスクをターゲット・コンピューターから取り外し、ソース・コンピューターに取り付けます。メディアを開き、**セットアップ・**プログラムをクリックします。

11. ソース・コンピューターでの導入が完了すると、導入が正常に完了したことを示すウィンドウが表示されます。
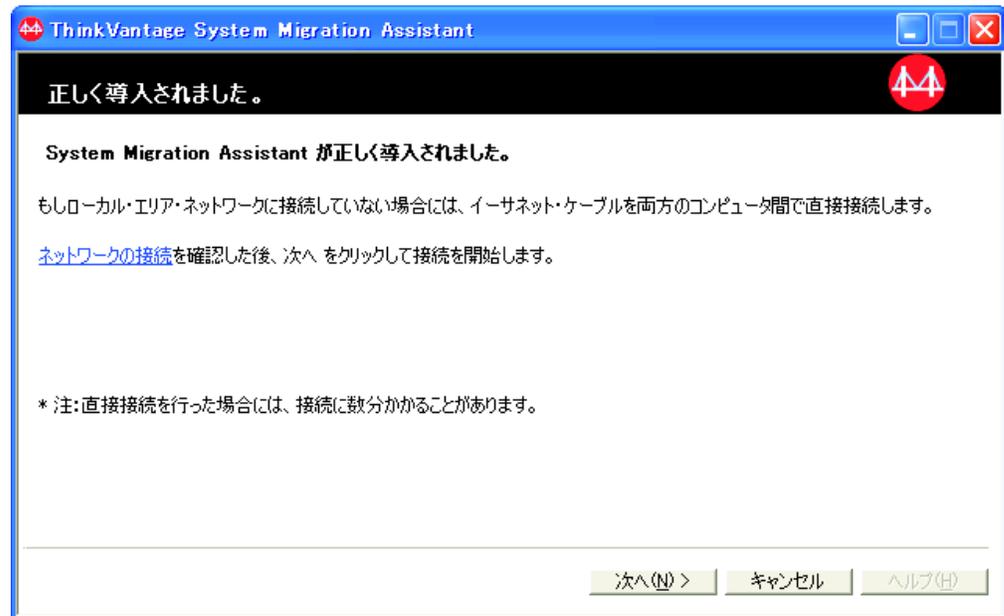
図 41. GUI モードでの移行の実行: 「正しく導入されました」ウィンドウ

12. 「**次へ**」をクリックします。
13. ステップ 5 (39 ページ) で「**カスタム移行**」を選択した場合、「移行オプション」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 32 (46 ページ) へ進みます。

図 42. GUI モードでの移行の実行: 「移行オプション」ウィンドウ

14. 移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、 18 ページの『PC から PC への移行』セクションのステップ 16 (23 ページ) から 33 (31 ページ) までを参照してください。
15. SMA 移行ファイルをパスワードで保護するには、次の手順を実行します。
    a. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します (パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません)。
    b. 「**確認パスワード**」フィールドにパスワードを再入力します。
    c. 「**OK**」をクリックします。

    それ以外の場合は、「**キャンセル**」をクリックします。
16. 「名前を付けて保存」ダイアログが開きます。

図 43. GUI モードでの移行の実行: 「名前を付けて保存」ダイアログ

17. 「**保存する場所**」フィールドで、移行ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの名前を入力します。その後、「**保存**」をクリックします。
18. 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウが開きます。
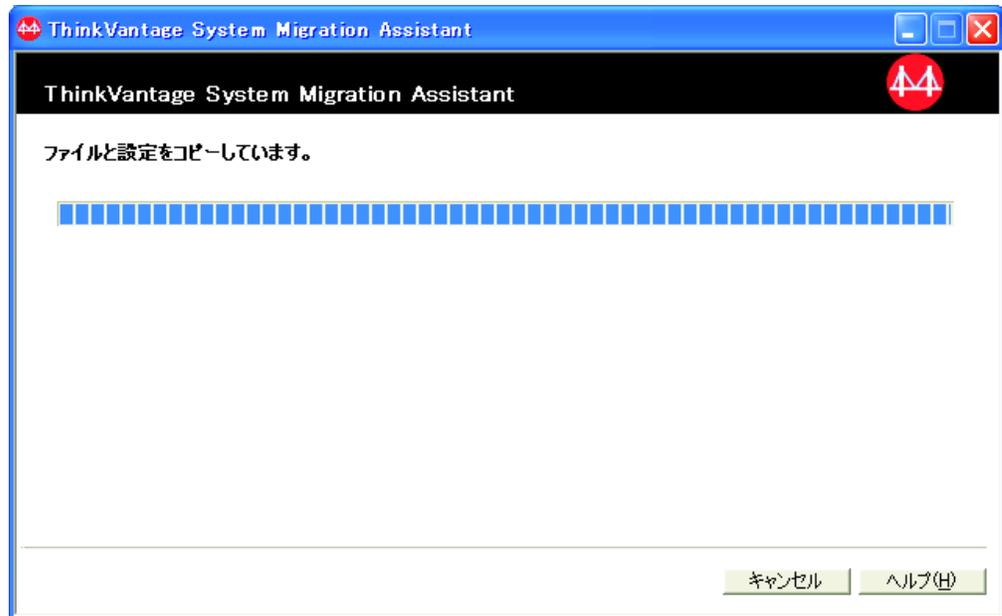
図 44. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウ

SMA は、設定とファイルを移行ファイルにコピーします。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

19. 移行ファイルが作成されると、「移行ファイルが作成されました。」ウィンドウが開きます。
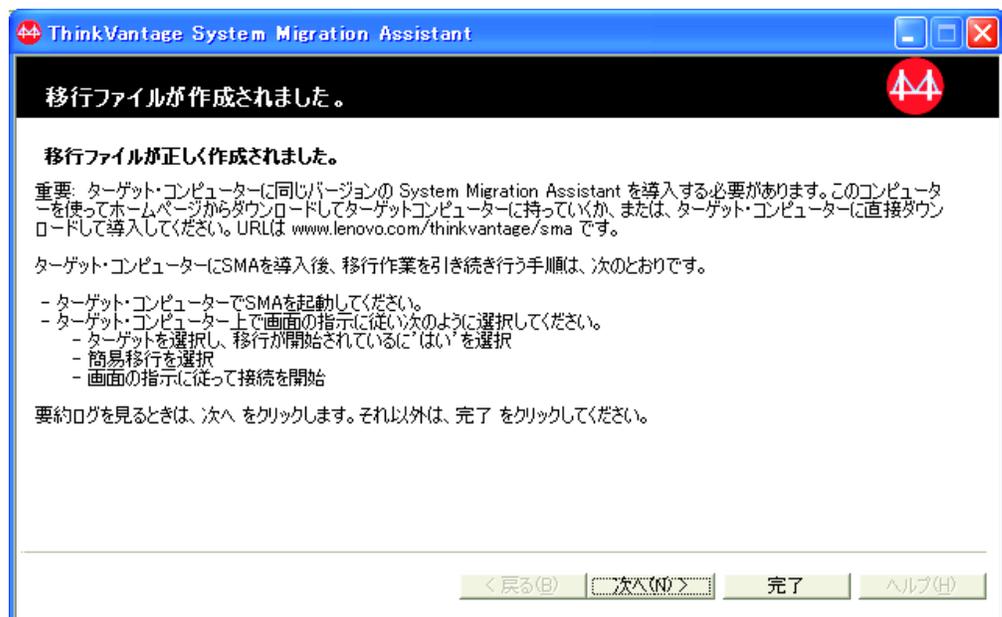
図 45. GUI モードでの移行の実行: 「移行ファイルが作成されました。」ウィンドウ

20. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、「**次へ**」をクリックします。移行レポートのウィンドウが開きます。それ以外の場合は、「**完了**」をクリックして SMA を終了し、ステップ 23 (44 ページ) に進みます。

21. レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 46. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

22. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保存**」をクリックします。
23. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。
24. 移行ファイルを含むリムーバブル・ディスクをターゲット・コンピューターに接続します。次に、リムーバブル・ディスクの移行ファイルをローカル・ハード・ディスクにコピーします。
25. ターゲット・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
26. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
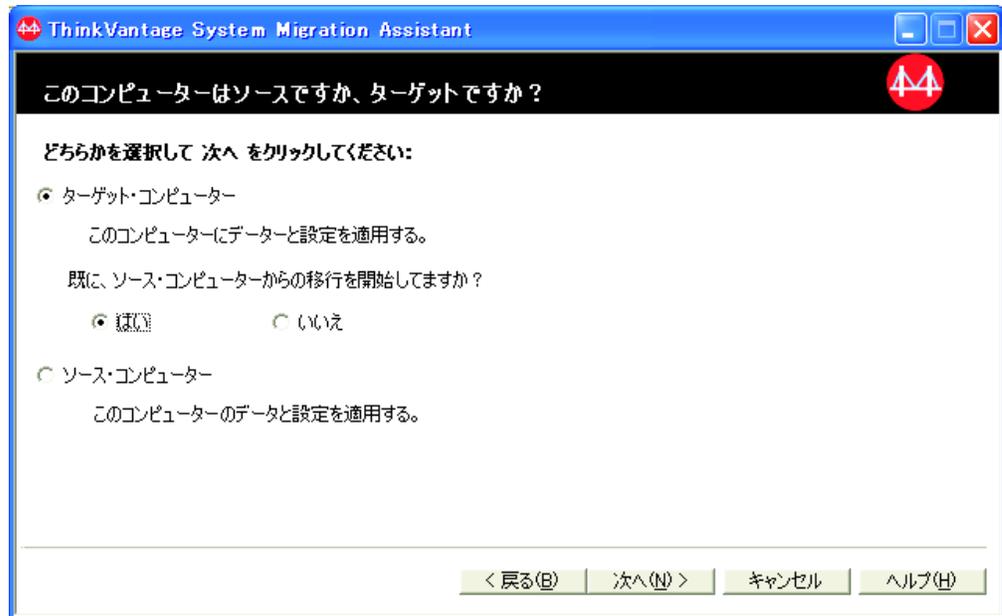
図 47. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

27. 「**ターゲット・コンピューター**」および「**はい**」(移行がすでに始まっていることを示す) を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。
28. 移行タイプを選択します。「**簡易移行**」を選択する場合は、追加オプションとして「**移行ファイル**」を同時に選択します。
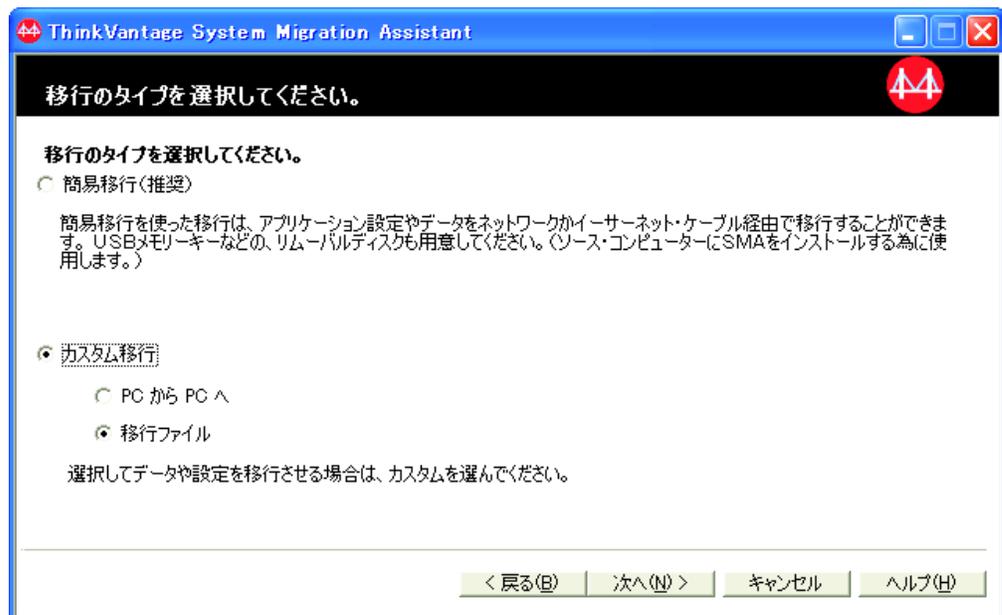
図 48. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

29. 「**次へ**」をクリックします。「ファイルを開く」ダイアログが開きます。

図 49. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルを開く」ダイアログ

30. 「**ファイルの場所**」フィールドで、移行ファイルを開くフォルダーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**開く**」をクリックします。
31. ステップ 28 (45 ページ) で「**カスタム移行**」を選択した場合は、次のステップに進みます。それ以外の場合は、ステップ 42 (49 ページ) へ進みます。
32. 移行ファイルを取り込んだときに「**ユーザー・プロファイル**」オプションを選択した場合は、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、34 (47 ページ) へ進みます。

図 50. GUI モードでの移行の実行: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したユーザー・プロファイルが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

33. 「**次へ**」をクリックします。

34. 移行ファイルを取り込んだときに「**デスクトップ**」オプションを選択した場合は、「デスクトップ設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 36 へ進みます。
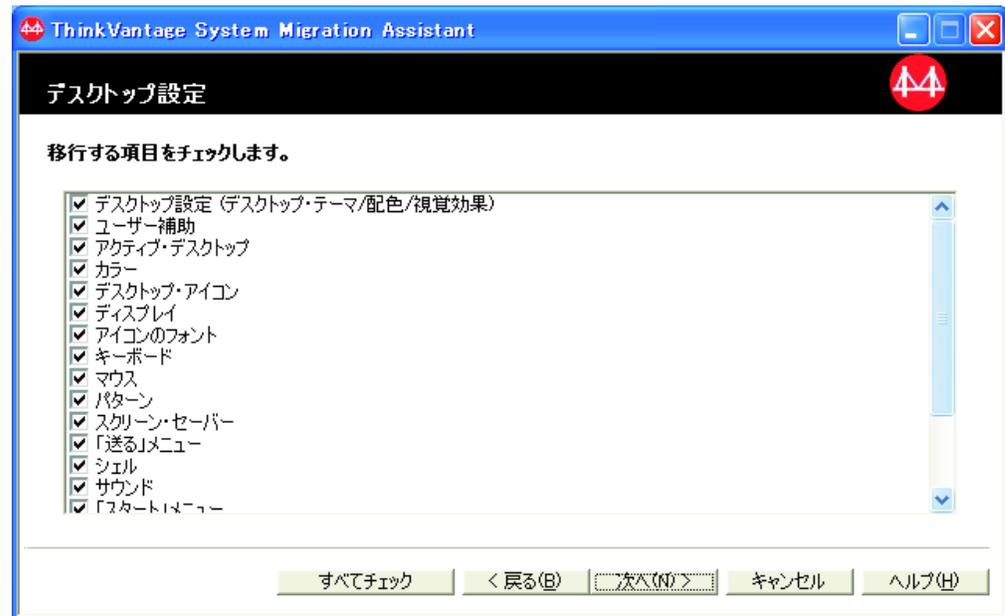
図 51. GUI モードでの移行の実行: 「デスクトップ設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したデスクトップ設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

35. 「**次へ**」をクリックします。

36. 移行ファイルを取り込んだときに「**アプリケーション設定**」オプションを選択した場合は、「アプリケーション設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 38 (48 ページ) へ進みます。

図 52. GUI モードでの移行の実行: 「アプリケーション設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したアプリケーション設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

37. 「**次へ**」をクリックします。
38. 移行ファイルを取り込んだときに「**ネットワーク**」オプションを選択した場合は、「ネットワーク設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 40 (49 ページ) へ進みます。
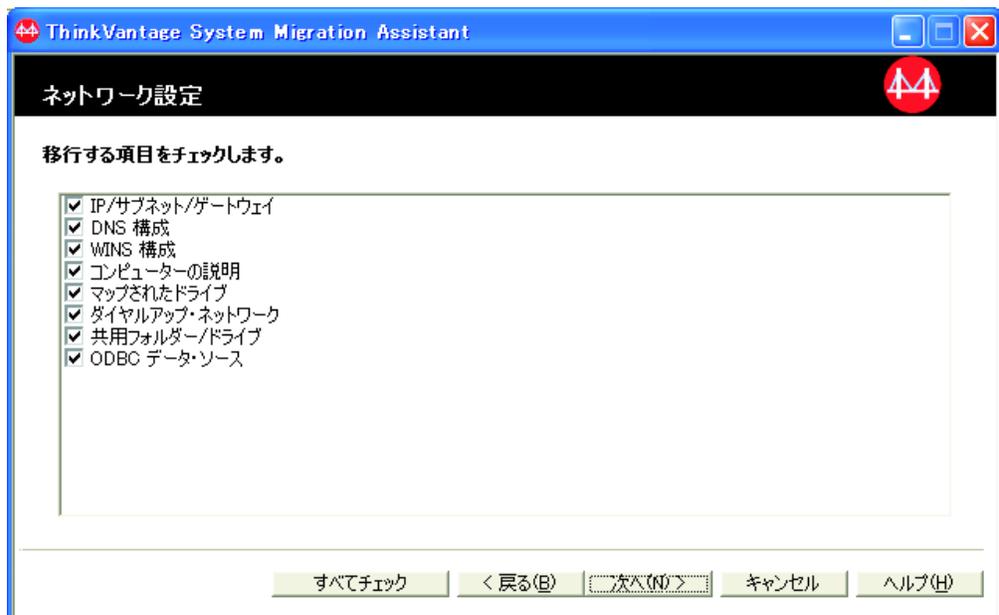
図 53. GUI モードでの移行の実行: 「ネットワーク設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したネットワーク設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

39. 「**次へ**」をクリックします。

40. 移行ファイルを取り込んだときに「**プリンター**」オプションを選択した場合は、プリンター設定用のウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 42 へ進みます。

図 54. GUI モードでの移行の実行: 「プリンター」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したプリンターが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

41. 「**次へ**」をクリックします。

42. 移行ファイルを取り込んだときに「**ファイルとフォルダー**」オプションを選択した場合、またはステップ 28 (45 ページ) で「**簡易設定**」ラジオ・ボタンを選択した場合は、「ファイルの選択」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 44 (50 ページ) へ進みます。
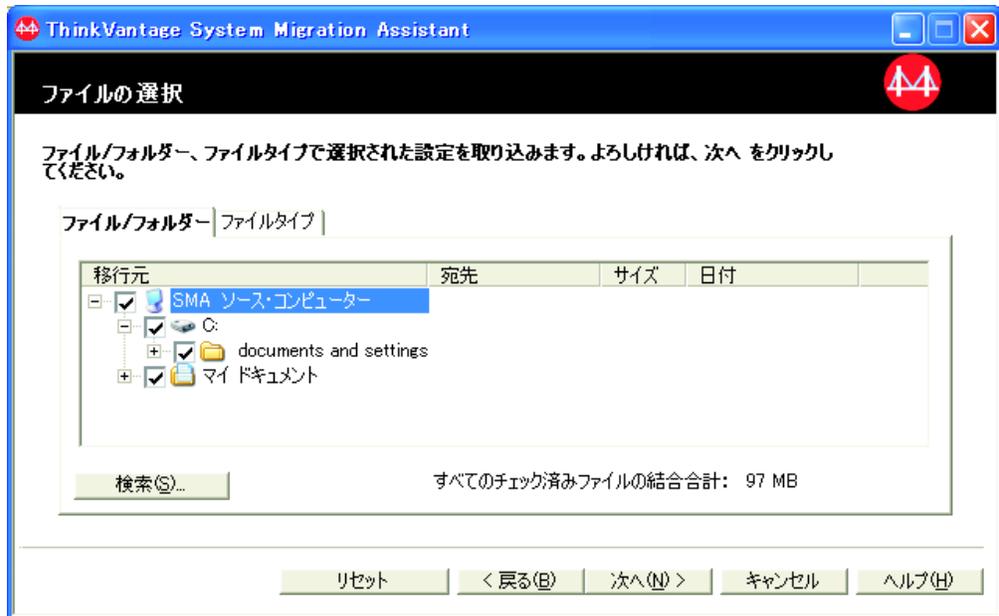
図 55. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルの選択」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したファイルとフォルダーが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

43. 「**次へ**」をクリックします。
44. 「適用の準備が終わりました」ダイアログが開きます。「**OK**」をクリックします。

図 56. GUI モードでの移行の実行: 「適用の準備が終わりました」ウィンドウ

45. 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウが開きます。移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。
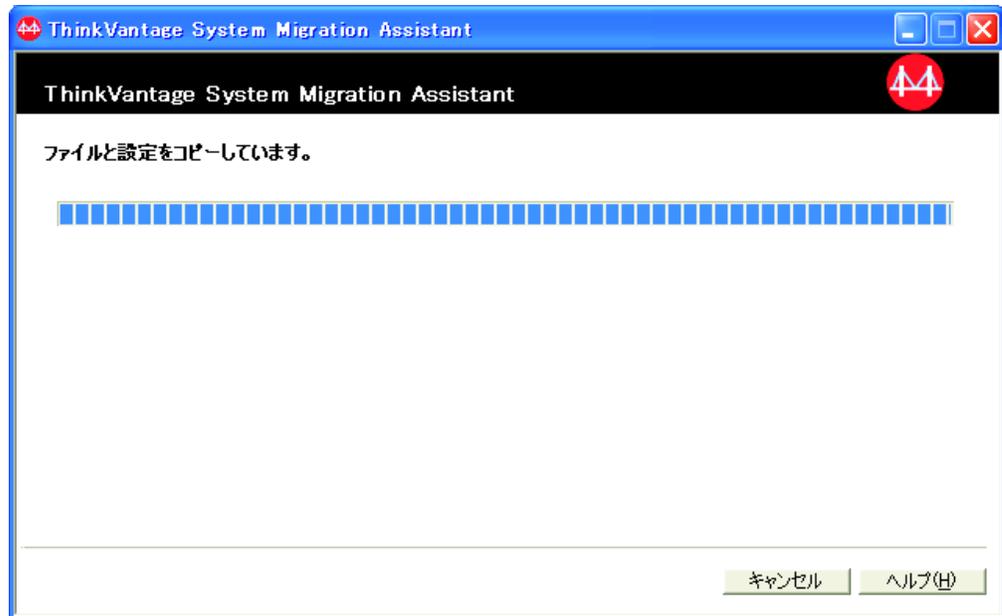
図 57. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウ

SMA は、移行ファイルをターゲット・コンピューターにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

重要: 「**キャンセル**」をクリックしてコピー・プロセスを停止することができます。ただし、SMA による移行処理中のすべての未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

46. 移行ファイルの適用後、「正しく移行されました」ウィンドウが開きます。
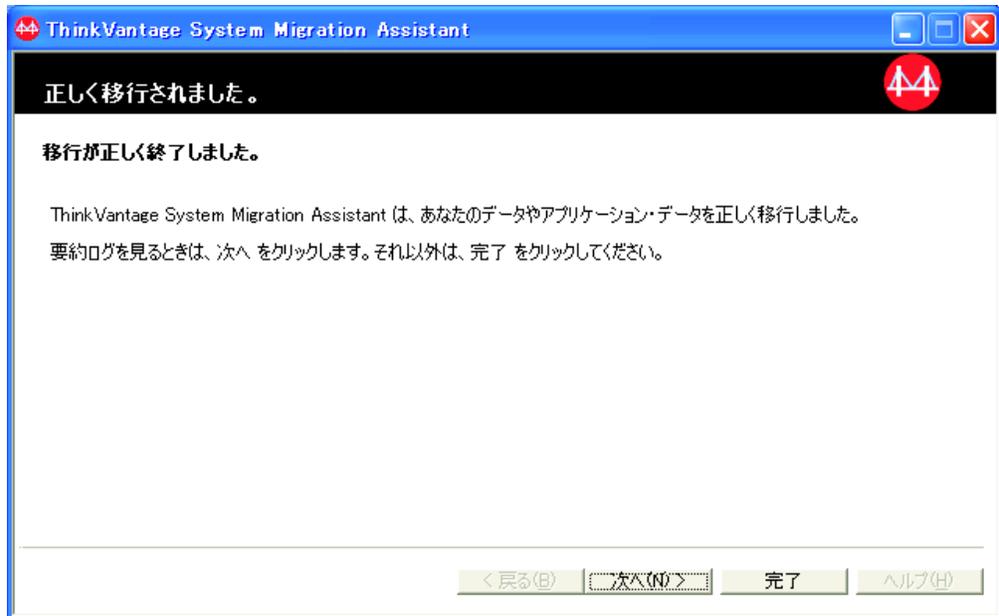
図 58. GUI モードでの移行の実行: 「正しく移行されました」ウィンドウ

47. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、「**次へ**」をクリックします。移行レポートのウィンドウが開きます。SMA を終了するには、「**完了**」をクリックします。
48. レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 59. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

49. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。

b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。

c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。

d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。

e. 「**保存**」をクリックします。

50. 「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。

51. コンピューターを即時に再起動する場合は、「**OK**」をクリックします。
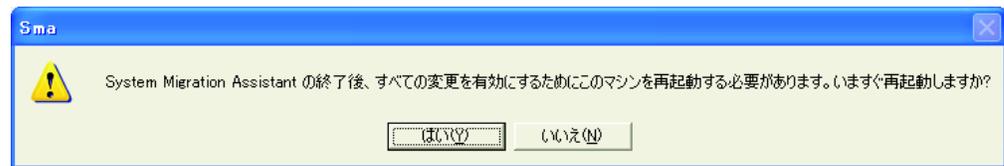
図 60. GUI モードでの移行の実行: コンピューターの再起動を指示するダイアログ

標準移行の実行

重要
移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

PC から PC への移行

PC から PC への標準移行では、SMA GUI を使用して SMA 移行ファイルの取り込みと適用を行います。移行したい設定とファイルを選択すると、SMA は、ターゲット・コンピューターに接続し、移行ファイルをターゲット・コンピューターの一時場所に保存した後、移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用します。

PC から PC への標準移行を実行するには、次のようにします。

1. 移行するオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

図 61. GUI モードでの移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
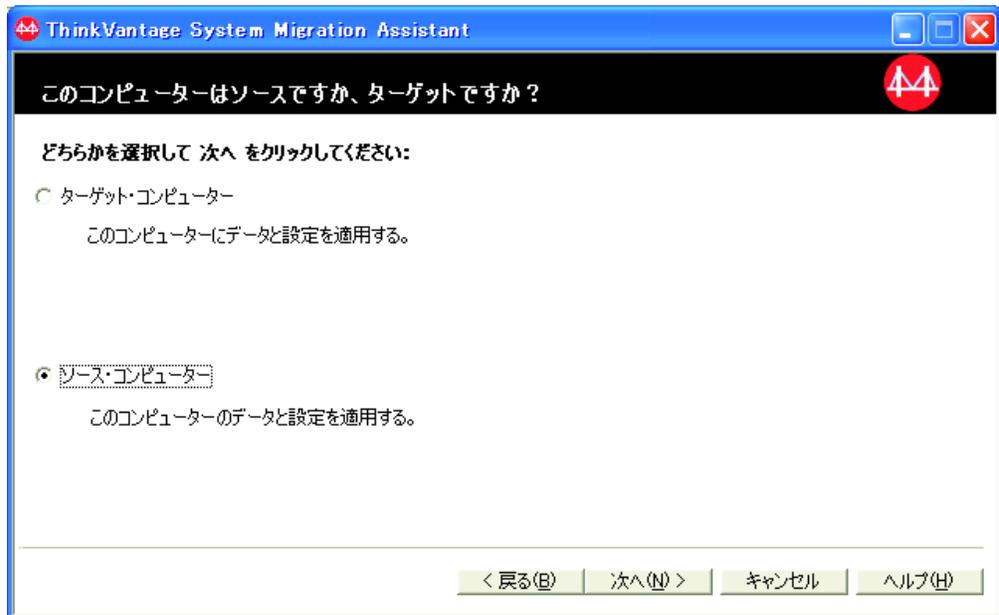
図 62. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

4. 「**ソース・コンピューター**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。
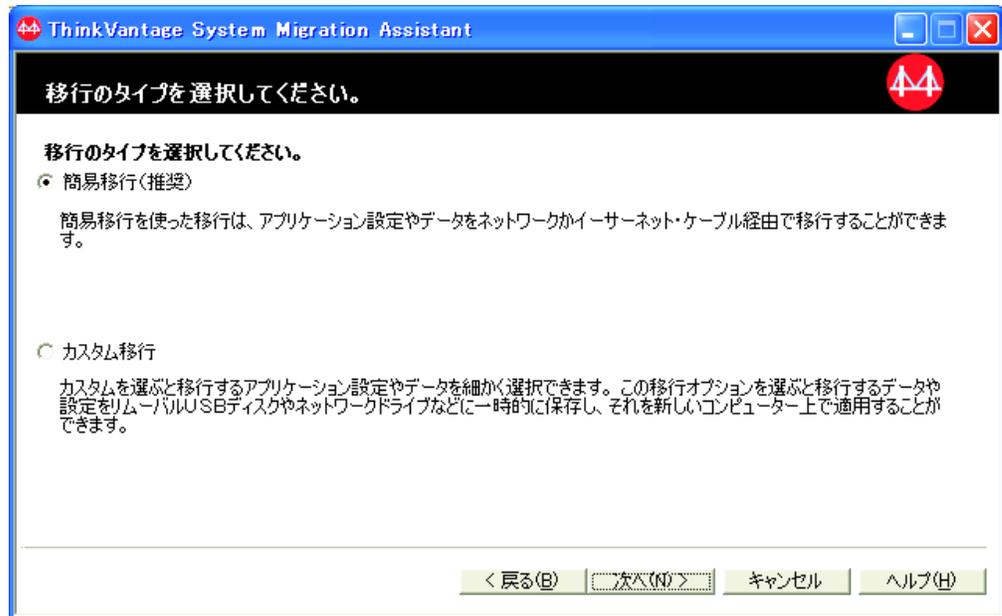
図 63. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

5. 移行タイプを選択します。「**カスタム移行**」を選択する場合は、追加オプションとして「**PC からPC へ**」を同時に選択します。
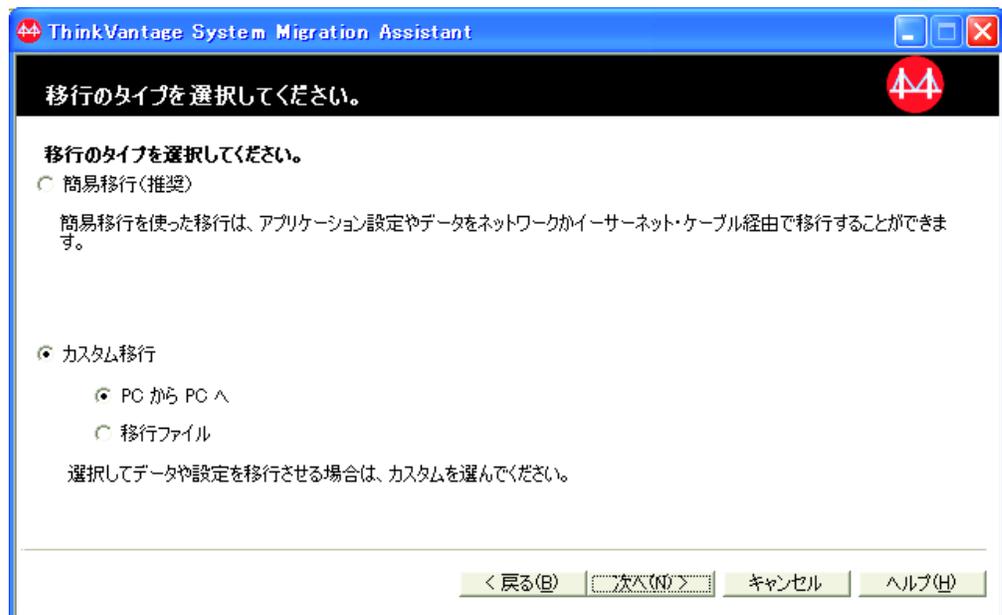
図 64. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

6. 「**次へ**」をクリックします。「System Migration Assistant の導入」ウィンドウが開きます。
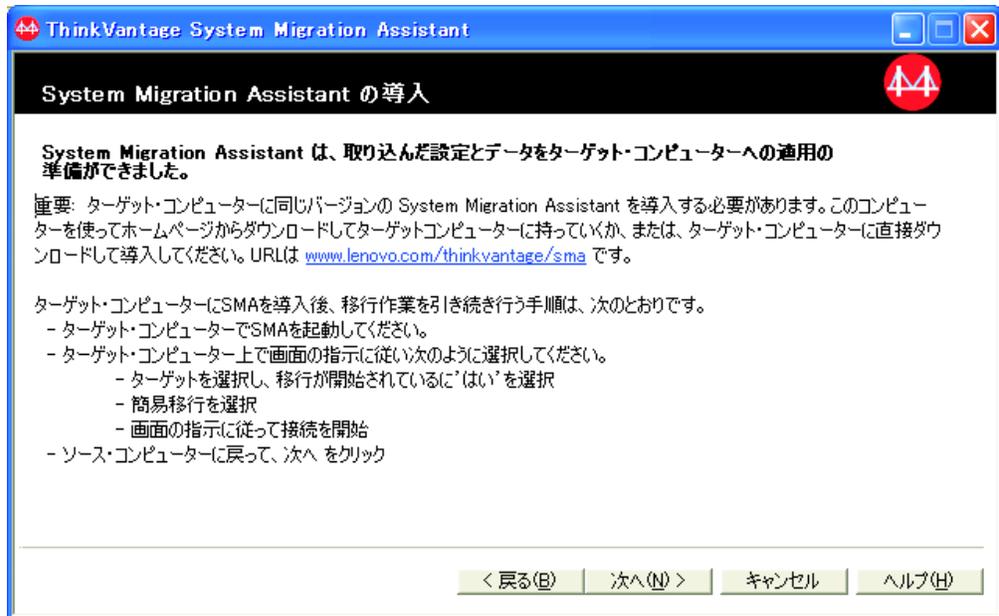
図 65. GUI モードでの移行の実行: 「System Migration Assistant の導入」ダイアログ

7. 移行したいオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします。
8. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
9. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
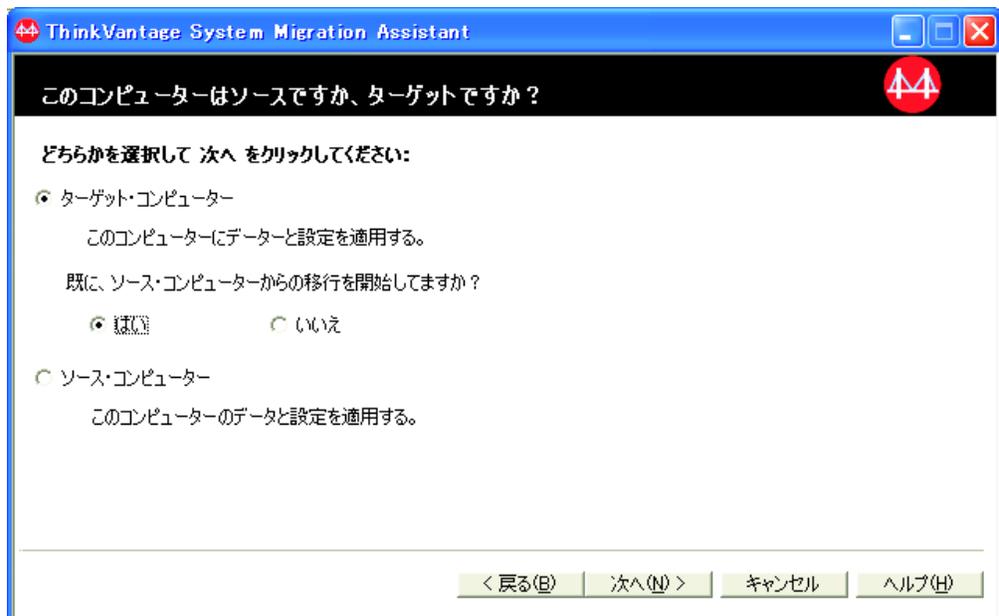
図 66. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

10. 「**ターゲット・コンピューター**」と「**はい**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。
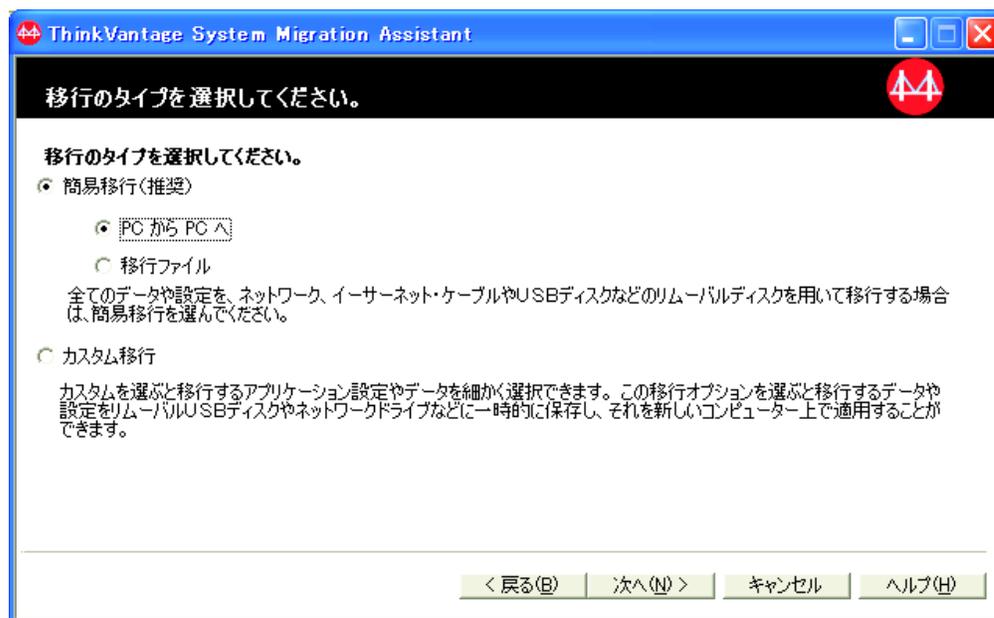
図 67. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

11. 「**簡易移行**」および「**PC から PC へ**」を選択します。その後、「**次へ**」をクリックします。接続が確立中であることを示すダイアログが開きます。
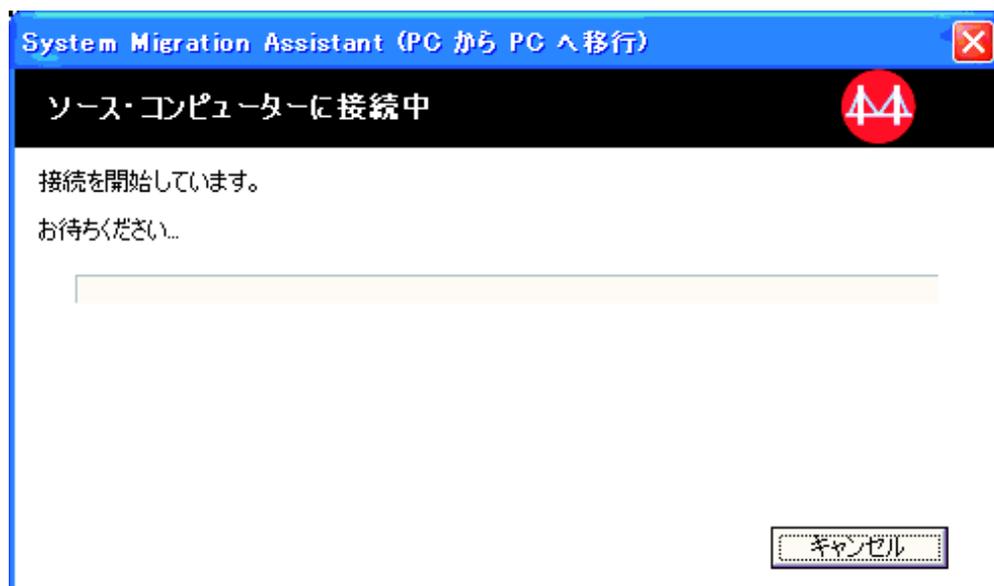
図 68. GUI モードでの移行の実行: 「ソース・コンピューターに接続中」ダイアログ

12. 「**キーワード**」フィールドに、固有のキーワードを 40 文字以内で入力します。パスまたは特殊文字は含めないでください。 PC から PC への接続を開始するには、「**OK**」をクリックします。

13. ソース・コンピューターの「System Migration Assistant の導入」ウィンドウで「**次へ**」をクリックします。キーワードを入力するためのダイアログが開きます。
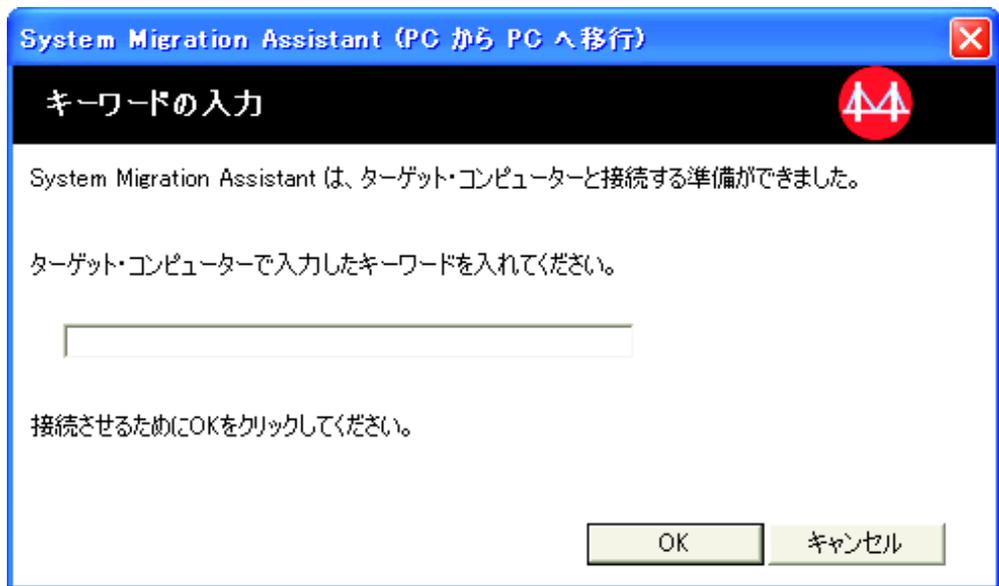
図 69. GUI モードでの移行の実行: 「キーワードの入力」ダイアログ

14. ターゲット・コンピューターに入力したものと同じキーワードを入力します。PC から PC への移行を開始するには、「**OK**」をクリックします。
15. 接続が確立されると、接続が確立されたことを示すダイアログが開きます。「**OK**」をクリックします。
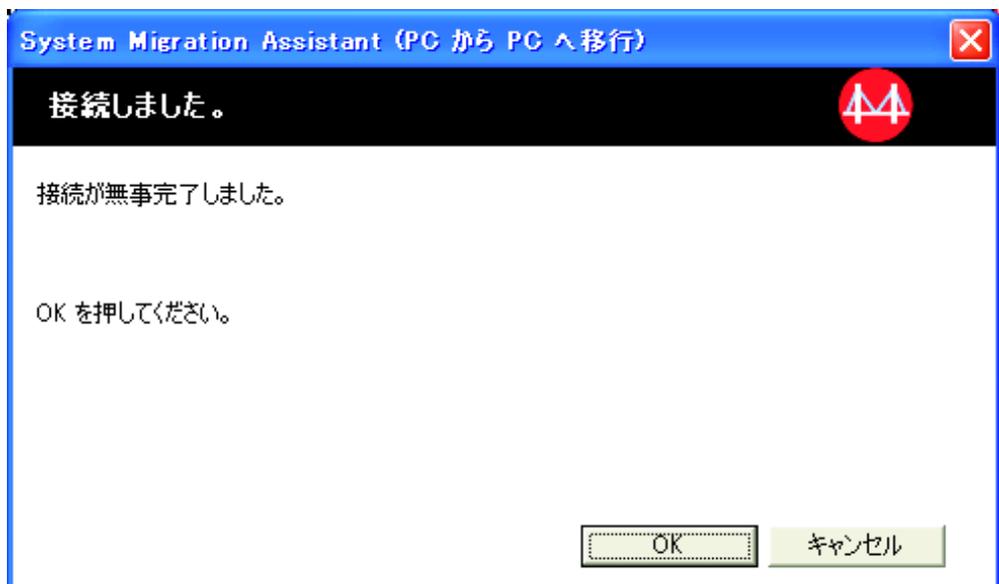
図 70. GUI モードでの移行の実行: 「接続しました。」ダイアログ

16. 移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、 18 ページの『PC から PC への移行』のステップ 16 (23 ページ) から 33 (31 ページ) までを参照してください。
17. 移行する設定とファイルの選択を完了すると、「接続を開始しています。」ダイアログが開きます。
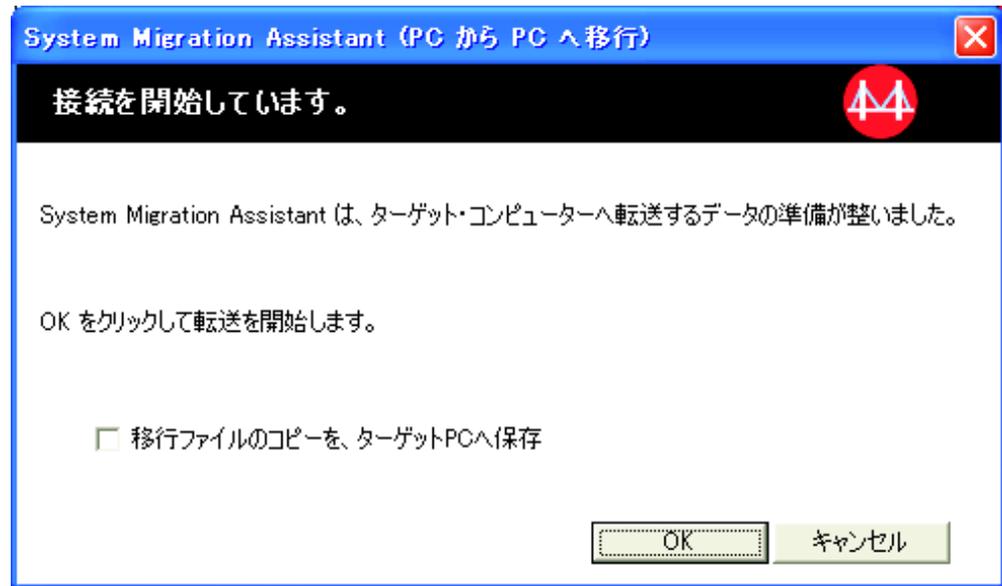
図 71. GUI モードでの移行の実行: 「接続を開始しています。」ダイアログ

18. ターゲット PC 上に移行ファイルのコピーを保存するには、このダイアログ下部のチェック・ボックスを選択します。「**OK**」をクリックします。
19. ステップ 18 で移行ファイルの保存を選択した場合は、「移行ファイルの保存」ダイアログが開きます。それ以外の場合は、ステップ 21 (60 ページ) へ進みます。
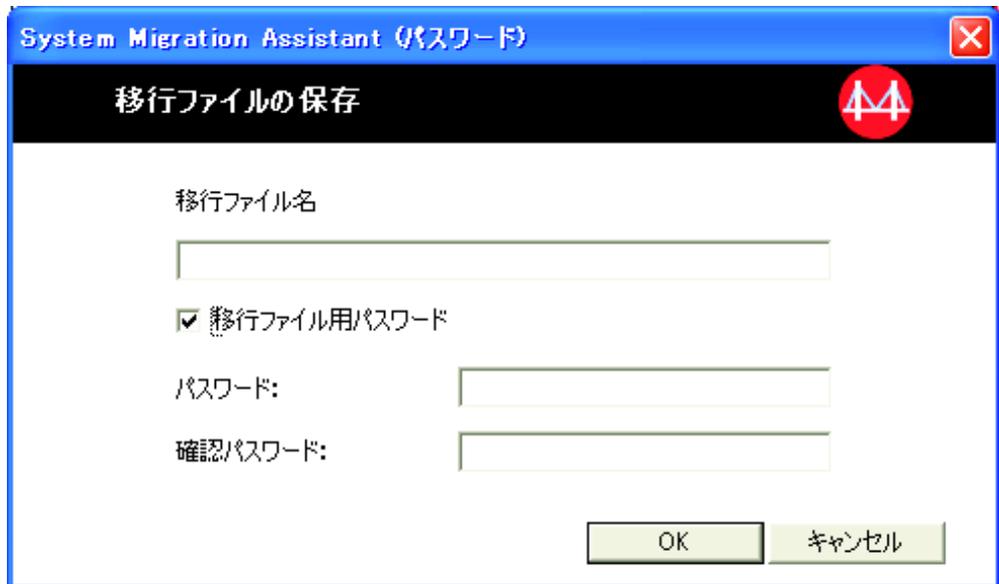
図 72. GUI モードでの移行の実行: 「移行ファイルの保存」ダイアログ

20. 移行ファイルにパスワードを設定します。
    a. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します (パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません)。
    b. 「**確認パスワード**」フィールドにパスワードを再入力します。
    c. 「**OK**」をクリックします。
21. ターゲット・コンピューターの、接続が確立されたことを示すダイアログで「**OK**」をクリックします。移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。
22. コピーの進行状況を示すウィンドウが開き、SMA で適用フェーズが開始されます。
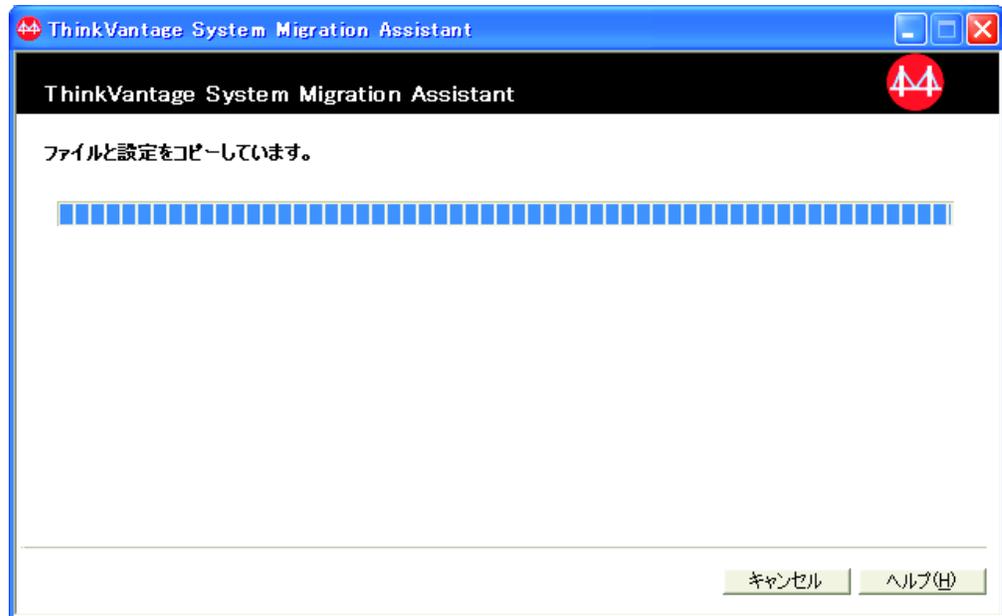
図 73. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ダイアログ

SMA では、ソース・コンピューターで作成した移行ファイルがターゲット・コンピューターにコピーされた後、保存された移行ファイルが適用されます。 移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

23. 移行ファイルの適用後、ターゲット、ソースの両方のコンピューターで「正しく移行されました。」ウィンドウが開きます。
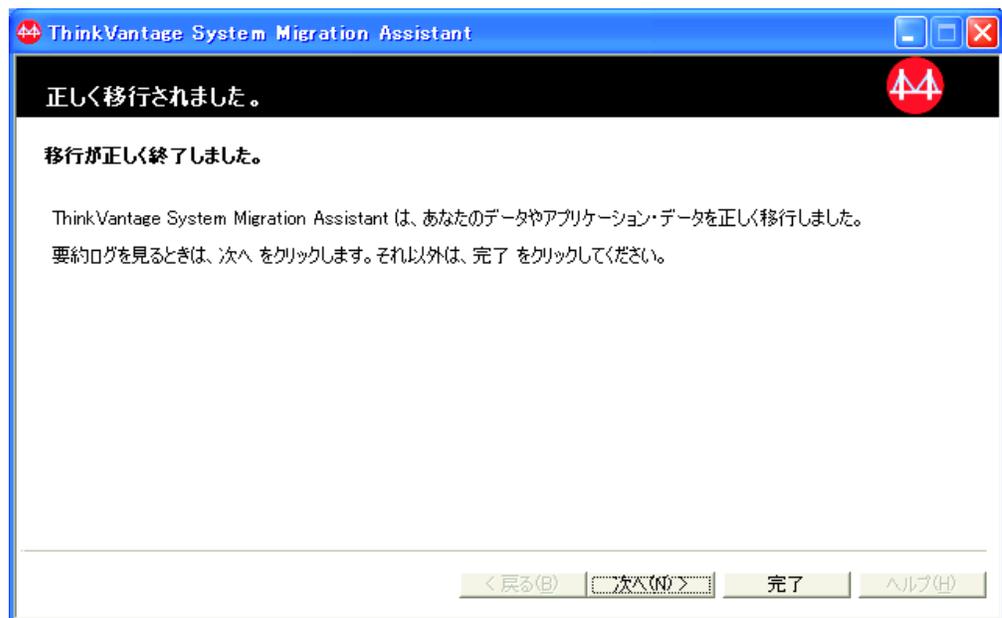
図 74. GUI モードでの移行の実行: 「正しく移行されました。」ウィンドウ

24. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、 「**次へ**」をクリックします。 移行レポートのウィンドウが開きます。SMA を終了するには、 「**完了**」をクリ

ックします。レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 75. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

25. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保存**」をクリックします。
26. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。
27. ターゲット・コンピューターで「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、コンピューターが即時に再起動されます。
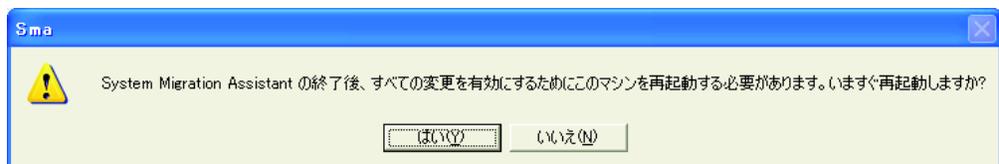
図 76. GUI モードでの移行の実行: コンピューターの再起動を指示するダイアログ

ファイル転送による移行

SMA 移行ファイルの作成

取り込みフェーズで、ソース・コンピューターにログオンし、移行したい設定とファイルが入っている SMA 移行ファイルを作成します。移行ファイルは、次に 1 つ以上のターゲット・コンピューターに適用できます。

SMA 移行ファイルを作成するには、次のようにします。

1. 移行したいオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

図 77. GUI モードでの移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
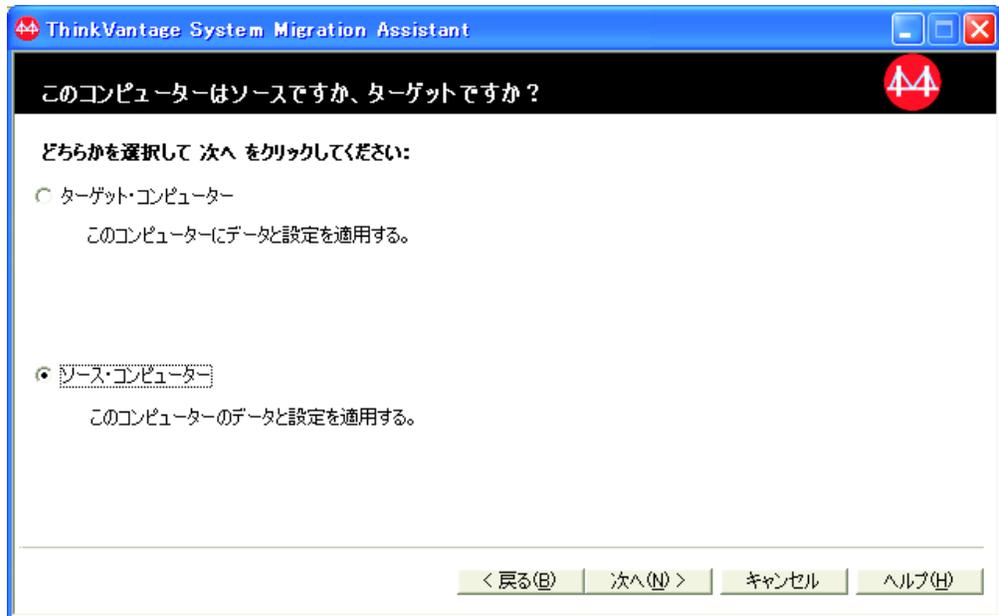
図 78. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

4. 「**ソース・コンピューター**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。
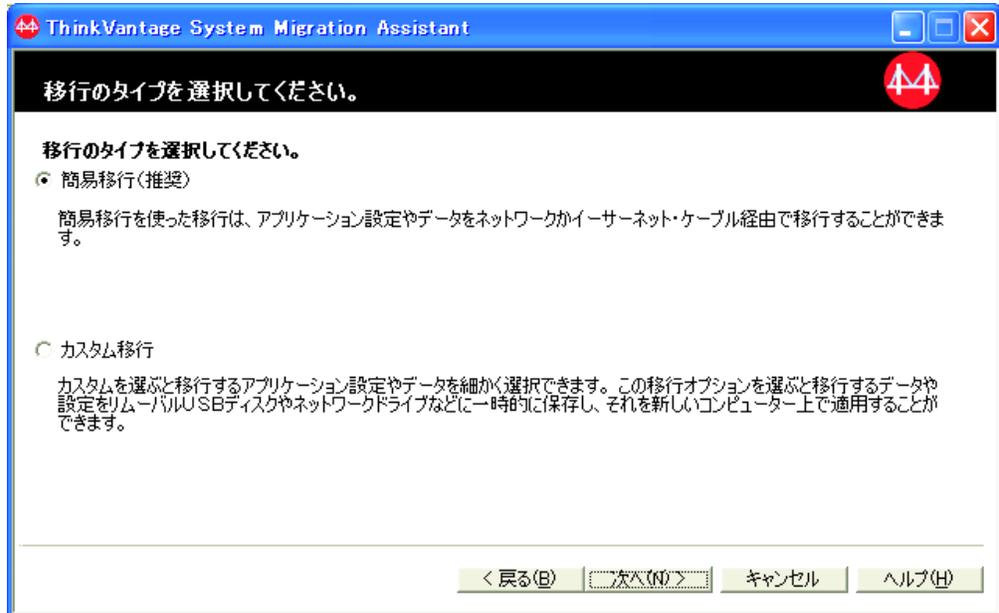
図 79. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

5. 追加オプションとして「**カスタム移行**」および「**移行ファイル**」を選択します。
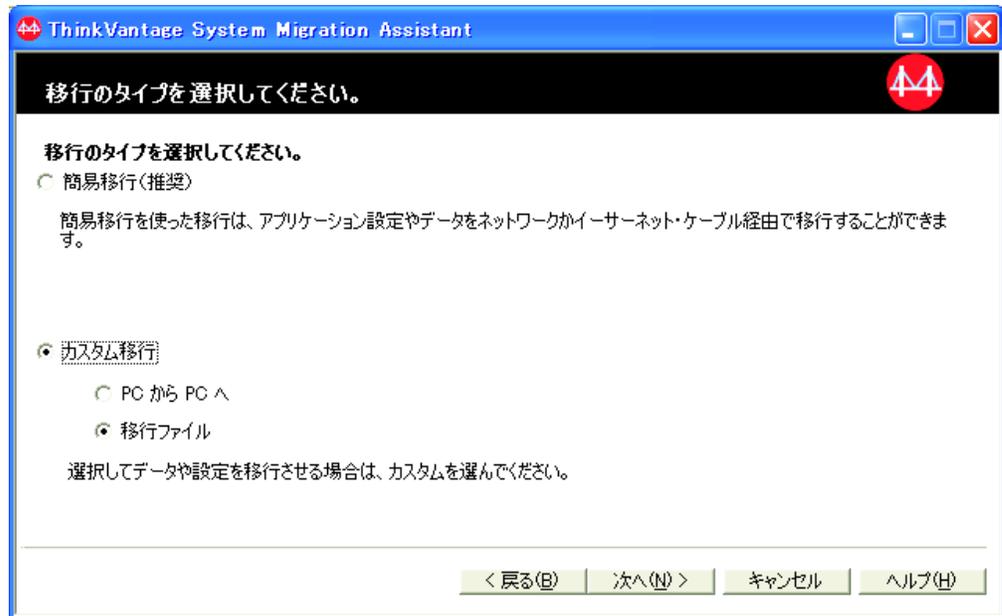
図 80. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

6. 「**次へ**」をクリックします。
7. 移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、 18 ページの『PC から PC への移行』のステップ 16 (23 ページ) から 33 (31 ページ) までを参照してください。
8. SMA 移行ファイルをパスワードで保護するには、次の手順を実行します。
   a. 「**パスワードの入力**」フィールドにパスワードを入力します (パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません)。
   b. 「**パスワードの確認**」フィールドにパスワードを再入力します。
   c. 「**OK**」をクリックします。

   それ以外の場合は、「**キャンセル**」をクリックします。
9. 「名前を付けて保存」ダイアログが開きます。

図 81. GUI モードでの移行の実行: 「名前を付けて保存」ダイアログ

10. 「**保存する場所**」フィールドで、移行ファイルを保存したいフォルダーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**保存**」をクリックします。
11. 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウが開きます。
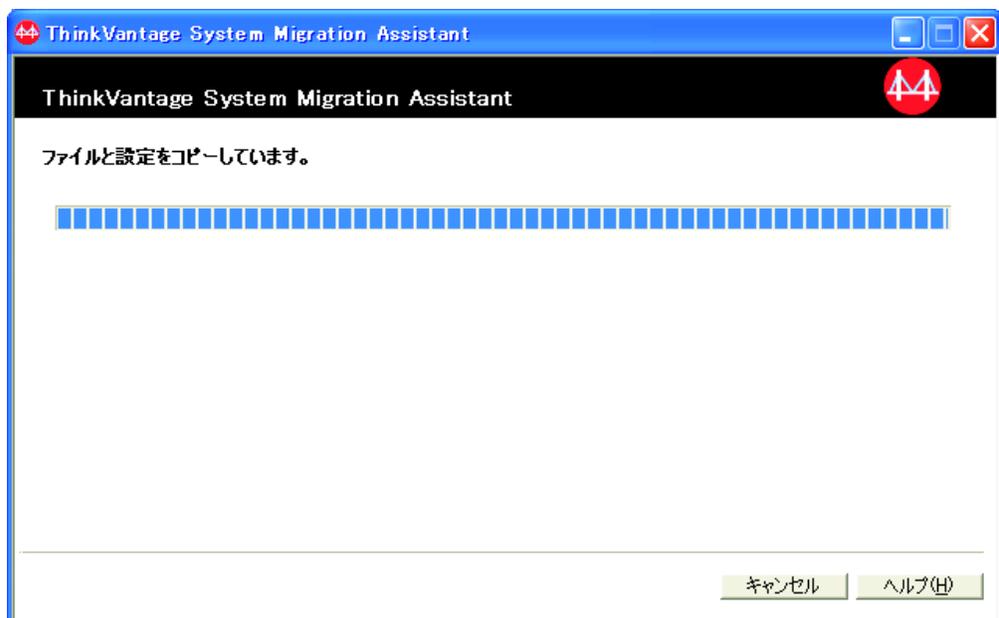
図 82. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウ

SMA は、設定とファイルを移行ファイルにコピーします。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

12. 移行ファイルが作成されると、「移行ファイルが作成されました。」ウィンドウが開きます。
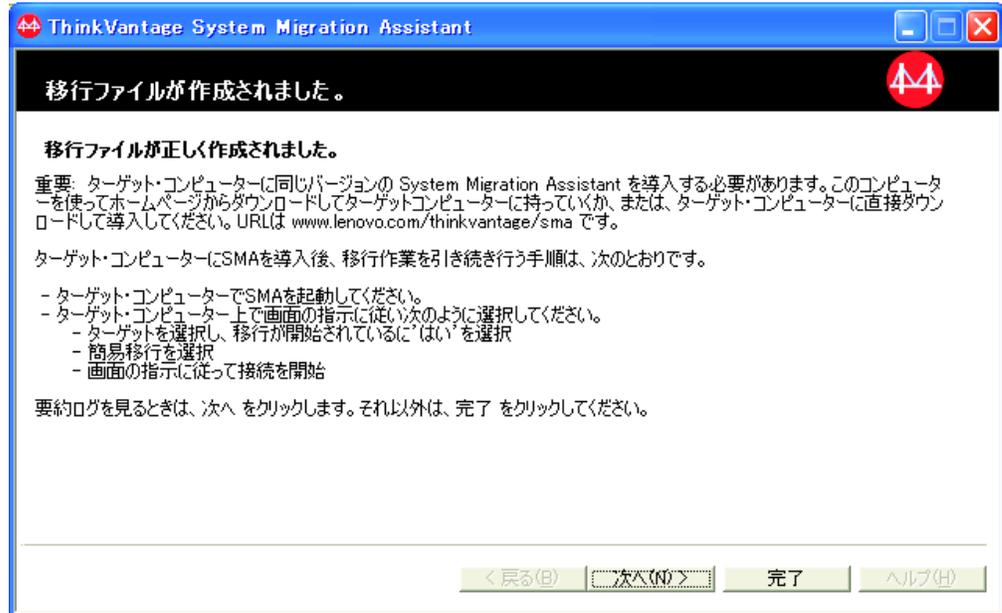
図 83. GUI モードでの移行の実行: 「移行ファイルが作成されました。」ウィンドウ

13. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、「**次へ**」をクリックします。移行レポートのウィンドウが開きます。それ以外の場合は、「**完了**」をクリックして SMA を終了します。
14. レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 84. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

15. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保存**」をクリックします。
16. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。

SMA 移行ファイルの適用

注: 移行ファイルにドメイン設定が含まれている場合は、ターゲット・コンピューターに新規のオペレーティング・システム・アカウントを作成してから移行ファイルを適用してください。

SMA 移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用するには、次のようにします。

1. 移行ファイルを作成するときに使用したオペレーティング・システム・アカウントと同じアカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします。

    注:

    a. ソース・コンピューターで複数のユーザー・アカウントを取り込むときに、SMA をネットワーク・ドライブまたはリムーバブル・ディスクに保存すると、SMA の遅延適用タスクの場合、リブート後に SMA がそのドライブにアクセスできなくなる可能性があります。共用ネットワーク・ドライブを使用する必要がある場合は、次のステートメントを commands.xml ファイルに追加してください。

    ```
    <PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
    ```

    このステートメントを追加すると、遅延適用フェーズの開始前にプロンプトが現れます。このプロンプトが表示されている間に、ネットワーク接続を確立することができます。

    b. ターゲット・コンピューターへのログオン時に使用するオペレーティング・システム・アカウントがソース・コンピューターで使用したものと異なっていると、アプリケーション固有の一部のユーザー設定が適用されない場合があります。
2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant Ver 5.0**」の順にクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
3. 「**次へ**」をクリックします。「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウが開きます。
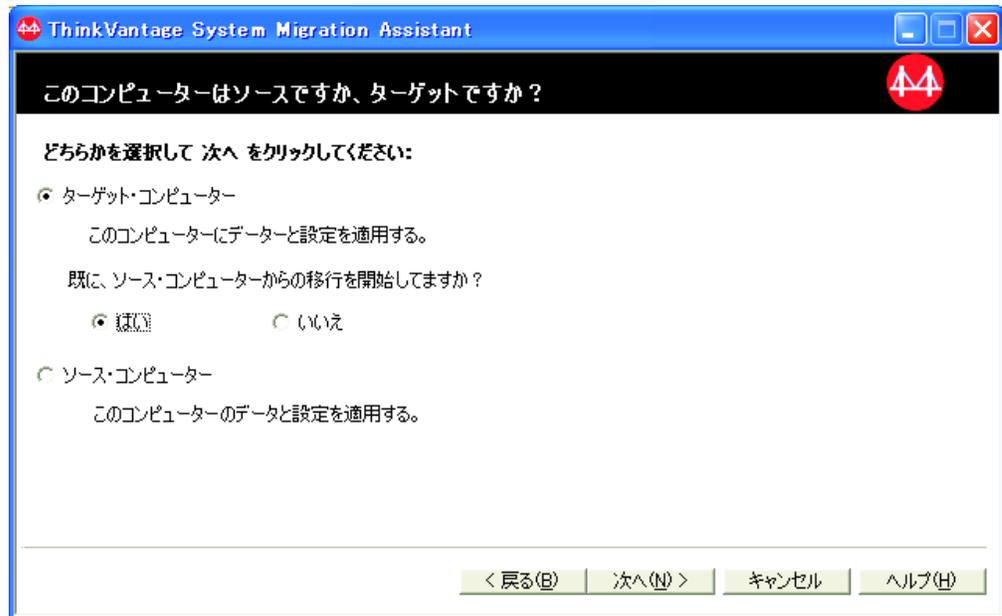
図 85. GUI モードでの移行の実行: 「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウ

4. 「**ターゲット・コンピューター**」および「**はい**」(移行がすでに始まっていることを示す) を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウが開きます。
5. 移行タイプを選択します。「**簡易移行**」を選択する場合は、追加オプションとして「**移行ファイル**」を同時に選択します。
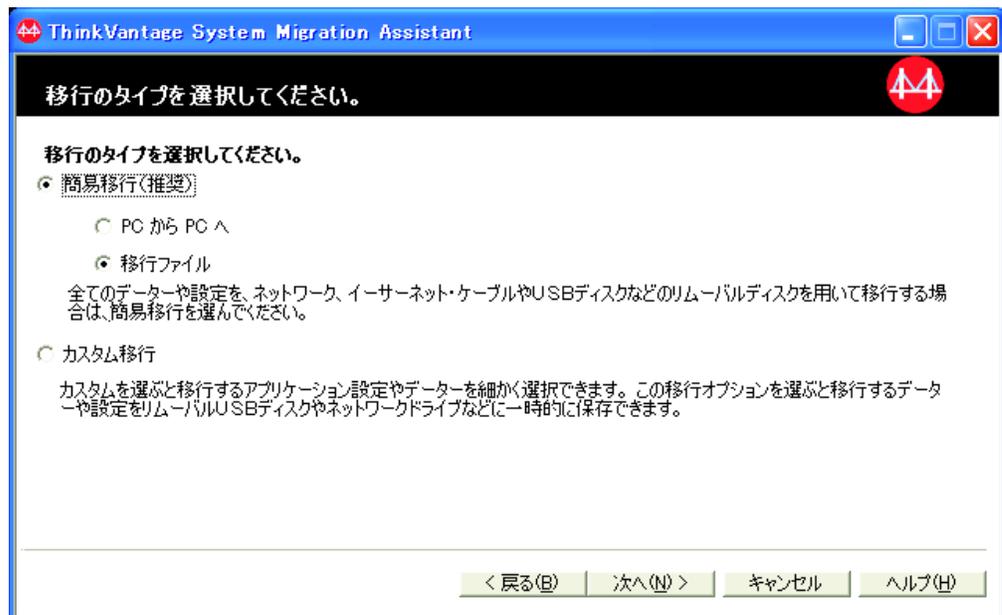
図 86. GUI モードでの移行の実行: 「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウ

6. 「**次へ**」をクリックします。「ファイルを開く」ダイアログが開きます。

図 87. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルを開く」ダイアログ

7. 「**ファイルの場所**」フィールドで、移行ファイルを開くフォルダーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**開く**」をクリックします。
8. 移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。
9. 適用したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、 18 ページの『PC から PC への移行』のステップ 16 (23 ページ) から 33 (31 ページ) までを参照してください。
10. 「適用の準備が終わりました」ダイアログが開きます。「**OK**」をクリックします。
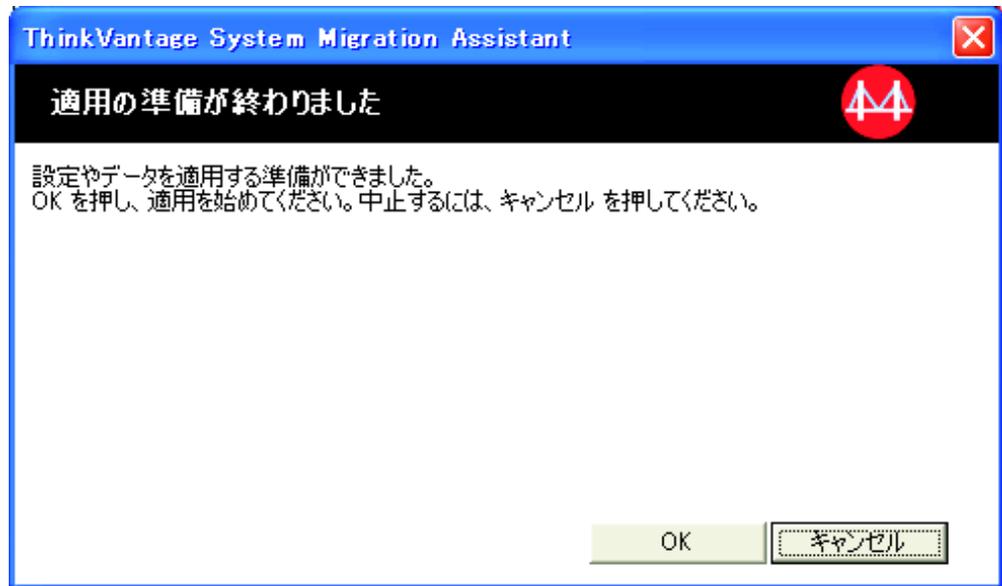
図 88. GUI モードでの移行の実行: 「適用の準備が終わりました」ウィンドウ

11. 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウが開きます。
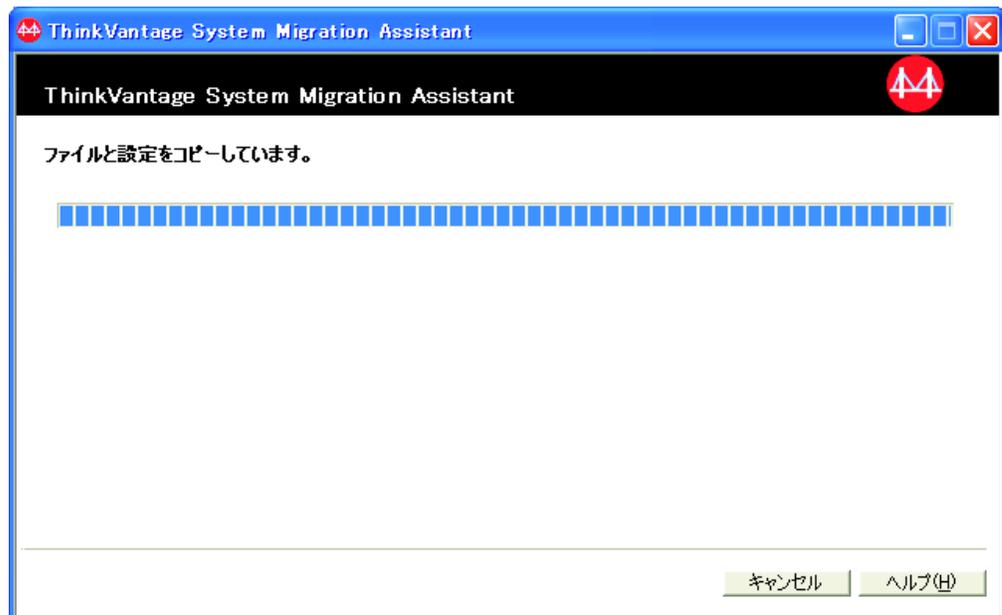
図 89. GUI モードでの移行の実行: 「ファイルと設定をコピーしています。」ウィンドウ

SMA は、移行ファイルをターゲット・コンピューターにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

重要:　「**キャンセル**」をクリックしてコピー・プロセスを停止することができます。ただし、SMA による移行処理中のすべての未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

12. 移行ファイルの適用後、「正しく移行されました」ウィンドウが開きます。
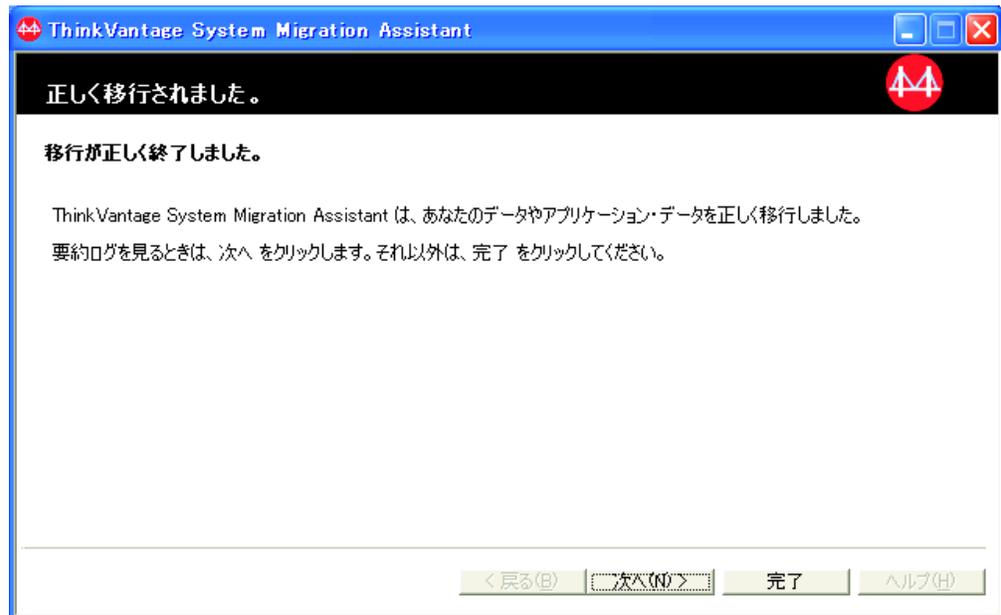
図 90. GUI モードでの移行の実行: 「正しく移行されました」ウィンドウ

13. 要約またはレポート・ファイルを表示するには、「**次へ**」をクリックします。移行レポートのウィンドウが開きます。それ以外の場合は、「**完了**」をクリックして SMA を終了します。
14. レポート・ファイルは、移行レポートのウィンドウ下部にあるペインに表示されます。

図 91. GUI モードでの移行の実行: 「移行サマリー」ウィンドウ

15. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管する場合は、次の手順を実行してその要約またはレポート・ファイルを保管できます。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保存**」をクリックします。
16. 「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。
17. コンピューターを即時に再起動する場合は、「**OK**」をクリックします。
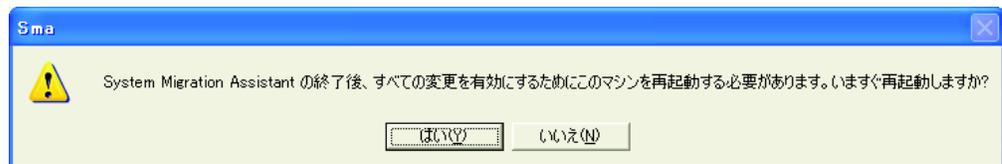
図 92. GUI モードでの移行の実行: コンピューターの再起動を指示するダイアログ

第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行

この章では、移行をバッチ・モードで実行する方法について説明します。

重要
移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

GUI モードの移行とバッチ・モードの移行は、どちらも同じように使用できます。ファイル移行の動作はどちらのモードでも同じですが、バッチ・モードの場合、特性を組み込んだり除外することによってファイルとフォルダーを選択します。

GUI モード、バッチ・モードのいずれの場合も、作成される移行ファイルは同じです。移行ファイルをバッチ・モードで作成した場合は、ユーザー・インターフェースを使用してそのファイルを開き、内容を調べることができます。同様に、GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。ただし、ファイル移行基準を手動で追加しなければなりません。

SMA 5.0 と SMA 4.2 の互換性

SMA 5.0 では、XML テクノロジーを使用して、移行用に取り込むデータを記述します。コマンド・ファイルは XML ファイル・フォーマットに変換されています。ただし、SMA 5.0 は前のコマンド・ファイル・フォーマットを扱えるように設計されているため、バージョン 4.2 との互換性は確保されています。これら 2 つのバージョンの互換性について詳しくは、129 ページの『付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

smabat コマンド構文

SMA 実行可能ファイルは smabat.exe です。このファイルはコマンド・プロンプトから開始します。SMA は、デフォルトの場所にインストールすると *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。

smabat コマンドの構文は次のとおりです。

```
smabat /c cmdfile [/n smafile] | /a [cmdfile] /n smafile [options]
```

注:

1. 絶対パスが記述されたファイル名にスペースが含まれる場合 (たとえば、c:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Commandfile.xml)、そのファイル名を引用符で囲む必要があります
(例: ″c:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Commandfile.xml″)。
2. smabat コマンドを指定すると、コマンド・ファイルに記述されている設定は指定変更されます。たとえば、コマンド・ファイルにログ・ファイルの場所を指定していても、その指定は常に、コマンド「/o logfile」によって指定変更されます。

次の表は、SMABAT コマンドの基本パラメーターを示したものです。

表 2. 基本 SMABAT パラメーター

機能	構文	作業の内容
取り込み	/c *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルの完全修飾ファイル名です。 • /n *smafile* は移行ファイルを指定する場合のオプショナル・パラメーターであり、*smafile* は移行ファイルの完全修飾名です。	コマンド・ファイルに指定されたファイルと設定を取り込み、移行ファイルを作成します。デフォルトでは、移行ファイルは、コマンド・ファイルで指定されたディレクトリーに書き込まれます。必要であれば、移行ファイルを他のディレクトリーに書き込むことができます。
適用	/a *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルを指定するオプショナル・パラメーターです。 • *smafile* は、移行ファイルの完全修飾名です。	移行ファイルに指定されたファイルと設定を適用します。移行ファイルがターゲット・コンピューターに適用される前に、そのファイルに対してコマンド・ファイルを実行することも可能です。
ログ・ファイル	/o *logfile* ここで、*logfile* は、ログ・ファイルの完全修飾ファイル名です。	ログ・ファイルの場所を指定します。
一時ディレクトリー	/t *tmpdir* ここで、*tmpdir* は、一時 SMA ディレクトリーのプロファイルの完全修飾名です。	一時 SMA ディレクトリーの位置を指定します。
パスワード	/p *smapwd* ここで、*smapwd* は、以下のいずれかの値です。 • 取り込みフェーズで移行ファイルをパスワードで保護するために使用するパスワード • 適用フェーズでパスワードで保護された移行ファイルにアクセスするときに使用するパスワード 各パスワードは以下の基準を満たしている必要があります。 • 長さは 6 文字から 16 文字であること • 先頭または末尾の文字が数字でないこと • 同一文字が 2 文字連続していないこと	SMA 移行ファイルのパスワードを指定します。
PC から PC への移行による適用	/a /p2p *keyword* /n *smafile* ここで、 • PC から PC への接続を確立するときは、キーワードを使用します。 • 保存する移行ファイルを指定するときは、*smafile* を使用します。*smafile* は移行ファイルの完全修飾名です。	PC から PC への移行によってファイルと設定を適用するときに使用するオプショナル・コマンド。受け取った移行ファイルを保存するときは、*smafile* を使用します。
抽出	/e *cmdfile* ここで、*cmdfile* は、コマンド・ファイルの完全修飾名です。	移行ファイルの作成に使用されたコマンド・ファイルを抽出するためのオプショナル・コマンド。

コマンド・ファイルの作成

取り込みフェーズで、smabat.exe は、コマンド・ファイルの内容を読み取り、移行ファイルを作成します。このセクションでは、コマンド・ファイルおよびその中に指定できるステートメントについて説明します。

SMA にはサンプル・コマンド・ファイル (Sample_commands.xml) があり、このファイルをテンプレートとして使用して、コマンド・ファイルをカスタマイズすることができます。 SMA をデフォルトの場所にインストールすると、このファイルは *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。

注: SMA 5.0 では、XML テクノロジーを使用して、コマンド・ファイル内のコマンドを記述します。 SMA 5.0 はバージョン 4.2 のコマンド・ファイルを扱えるように設計されています。古いコマンド・ファイルを使用するために、バージョン 4.2 と 5.0 の互換性に関する詳しい情報が必要な場合は、 129 ページの『付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

SMA 5.0 コマンド・ファイルについては、以下の点を考慮に入れてください。

- XML バージョン 1.0 の構文が使用されます。
- コマンド・ファイルでは大文字と小文字が区別されます。
- 各コマンドおよびパラメーター・セクションは、必ず *<TagName>* で始まり、*</TagName>* で終わり、これらのタグの間でその値について記述する必要があります。
- 構文エラーがあると、SMA の実行時にエラーになります。SMA にエラーが発生すると、SMA はエラー・メッセージをログ・ファイルに書き込んで操作を続行します。重大なエラーの場合は、正しい最終結果が得られない可能性があります。

コマンド・ファイルのコマンド

次の表は、コマンド・ファイルに使用できるコマンドを示したものです (ただし、ファイルの移行とレジストリーに関するコマンドを除きます)。

特定のフォルダーやそのサブフォルダーを指定するときは、Windows 環境変数 (%windir%、%USERPROFILE%、%ProgramFiles% など) を使用することができます。

表 3. コマンド・ファイルのコマンド

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<Password>	<PlainPassword>	パスワードを使用して移行ファイルを暗号化するには、<PlainPassword> を英数字ストリングに設定します。このストリングの長さは 6 文字から 16 文字までです。 コマンド行プロンプトから smabat.exe に /p パラメーターを指定して実行すると、ユーザーが指定するパスワードによってコマンド・ファイルで設定されたパスワードが上書きされます。 PC から PC への移行の場合、パスワード・オプションは、SMA 移行ファイルを作成するオプションを設定している場合にのみ有効です。
<ArchiveFile>	<filename>	移行ファイルのパス名とファイル名を指定するには、移行ファイルのパス名とファイル名に <filename> を設定します。 例: <ArchiveFile> <filename>C:¥SMA5¥MyData.sma</filename> </ArchiveFile> 以下のように表記して、移行ファイルの場所を指定することもできます。 ¥¥my computer¥temp¥MyData.sma
<TransferMode>	<mode>	PC から PC への接続を介して移行を実行するには、このパラメーターを「P2P」に設定します。それ以外の場合は、何も指定しないでおきます。 例: PC から PC への接続を介して移行する場合 <TransferMode> <mode>P2P</mode> </TransferMode> 移行ファイルによって移行する場合 <TransferMode> <mode></mode> </TransferMode>
<P2P>	<connection_id>	ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間で PC から PC への接続を確立するには、英数字ストリングを指定します。 例: <P2P> <connection_id>mykeyword</connection_id> </P2P>

表 3. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例

<Desktop>	• <desktop_settings>
	• <accessibility>
	• <active_desktop>
	• <colors>
	• <desktop_icons>
	• <display>
	• <icon_metrics>
	• <keyboard>
	• <mouse>
	• <pattern>
	• <screen_saver>
	• <sendto_menu>
	• <shell>
	• <sound>
	• <start_menu>
	• <taskbar>
	• <wallpaper>
	• <window_metrics>
		デスクトップ設定を選択するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		`<Desktop>`
		`<colors>true</colors>`
		`<desktop_icons>true</desktop_icons>`
		`<screen_saver>true</screen_saver>`
		`<start_menu>false</start_menu>`
		`<time_zone>true</time_zone>`
		`</Desktop>`

<Network>	• <ip_subnet_gateway_configuration>
	• <dns_configuration>
	• <wins_configuration>
	• <computer_name>
	• <computer_description>
	• <domain_workgroup>
	• <mapped_drives>
	• <shared_folders_drives>
	• <dialup_networking>
	• <odbc_datasources>
		ネットワーク設定を選択するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		`<Network>`
		`<computer_name>true</computer_name>`
		`<mapped_drives>false</mapped_drives>`
		`</Network>`

<Applications>	<Application>
	
	サポートされるアプリケーションのリストについては、 117 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。
		サポートされるアプリケーション設定の取り込みまたは適用を行うには、アプリケーション名をパラメーターとしてコマンド・ファイルに指定します。
		
		例:
		
		`<Applications>`
		`<Application>Lotus Notes</Application>`
		`<Application>Microsoft Office</Application>`
		`</Applications>`
		
		または
		
		`<Applications>`
		`<Application>$(all)</Application>`
		`</Applications>`

<Registries>	<Registry>
	<hive>
	<keyname>
	<value>
		レジストリー設定の取り込みまたは適用を行うには、コマンド・ファイルのパラメーターとして hive、keyname、および value を指定します。
		
		たとえば、次のように指定します。
		
		`<Registry>`
		`<hive>HKCU</hive>`
		`<keyname>Software¥Lenovo¥SMA</keyname>`
		`<value></value>`

表 3. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例

<IncUsers>	<UserName>	すべてのユーザー・プロファイルを取り込むには、「$(all)」を設定するか、すべてのユーザーを表すワイルドカード文字として「*」を使用します。それ以外の場合は、ユーザーを個別に指定します。次のワイルドカードが使用可能です。
		* は可変長のワイルドカード用です。
		% は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。
		
		例:
		
		`<IncUsers>`
		`<UserName>administrator</UserName>`
		`<UserName>Domain¥Jim</UserName>`
		`<IncUsers>`

<ExcUsers>	<UserName>	移行処理からユーザーを除外するには、ユーザーのドメインおよびユーザー名を指定します。次のワイルドカードが使用可能です。 * は可変長のワイルドカード用です。 % は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。

<Printers>	<Printer>
	
	<PrinterName>
		この制御ステートメントは、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で有効です。
		
		すべてのプリンターを取り込むには、このパラメーターを「&(all)」に設定します。それ以外の場合は、各プリンターを個別に指定します。デフォルト・プリンターのみを取り込む場合は、このパラメーターを「&(DefaultPrinter)」に設定します。
		
		たとえば、次のように指定します。
		
		`<Printers>`
		`<Printer>&(all)</Printer>`
		`</Printers>`
		
		`<Printers>`
		`<Printer>`
		`<PrinterName>IBM 5589-L36</PrinterName>`
		`<Printer>`
		`</Printers>`
		
		`<Printers>`
		`<Printer>&(DefaultPrinter)</Printer>`
		`</Printers>`
		
		すべてのプリンター (「all」) またはデフォルト・プリンター (「default」) のいずれも取り込むことができます。個々のプリンターを名前で指定してもかまいません。複数のプリンターを指定すると最初の指定のみが処理され、後続の指定は無視され、警告メッセージが出されます。
		
		プリンター設定の移行について詳しくは、 86 ページの『プリンターの移行』を参照してください。

表 3. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<AddPrinter>	<PrinterType> <PrinterName> <PortName> <DriverName> <InstallExePath> <InfFIlePath>	新規のプリンターを追加するには、<AddPrinter> タグを使用します。この制御ステートメントは、ターゲット・コンピューターでのみ有効です。 たとえば、次のように指定します。 <!-- for OS built-in printer--> <AddPrinter> <PrinterType>OS built-in</PrinterType> <PrinterName>IBM 4029 LaserPrinter</Printer Name> <PortName>LPT1:</PortName> <DriverName>Parallel</DriverName> <InstallExePath /> <InfFilePath /> </AddPrinter> <!-- for Network printer--> <AddPrinter> <PrinterType>Network</PrinterType> <PrinterName>¥¥Server¥IBM 5589-L36</Printer Name> <PortName /> <DriverName /> <InstallExePath /> <InfFilePath /> </AddPrinter> <!-- for UserProvided printer for Setup In stall--> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My Private Printer</PrinterName> <PortName /> <DriverName /> <InstallExePath>c:¥SMA5¥temp¥printer¥ install.exe</InstallExePath> <InfFilePath /> </AddPrinter> <!-- for UserProvided printer for Inf In stall (1)--> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My Canon Printer</PrinterName> <PortName>USB</PortName> <DriverName>Canon i320</DriverName> <InstallExePath /> <InfFilePath>c:¥myprinter¥i320.inf</InfFile Path> </AddPrinter> <!-- for UserProvided printer for Inf In stall (2)--> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My HP Printer</PrinterName> <PortName>USB</PortName> <DriverName>hp deskjet 995c series</DriverName> <InstallExePath /> <InfFilePath>c:¥HP995C¥hpf995k.inf</InfFile Path> </AddPrinter> プリンター設定の移行について詳しくは、 86 ページの『プリンターの移行』を参照してください。

表 3. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<MISC>	<bypass_registry>	レジストリー設定の選択をすべて解除するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<overwrite existing files>	既存のファイルを上書きするには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<log_file_location>	SMA でログ・ファイルの書き込み先となるディレクトリーを指定するには、完全修飾ディレクトリー名を入力します。他のコンピューターの共用ディレクトリーを指定できます。 このパラメーターを設定しない場合、SMA ではログ・ファイルが d:¥SMA_Installed_Directory に書き込まれます。ここで、*d* はハード・ディスクのドライブ名、¥SMA_Installed_Directory は SMA のインストール先ディレクトリーです。
	<temp_file_location>	SMA が一時ファイルを書き込むディレクトリーを指定するには、完全修飾ディレクトリー名を入力します。他のコンピューターの共用ディレクトリーを指定できます。 このパラメーターを設定しない場合、SMA では一時ファイルが d:¥SMA_Installed_Directory¥etc¥data に書き込まれます。ここで、*d* はハード・ディスクのドライブ名、¥SMA_Installed_Directory は SMA のインストール先ディレクトリーです。
	<resolve_icon_links>	アクティブ・リンクが設定されたアイコンのみをコピーするには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<quota>	移行ファイル・サイズを制限するには、その制限値を MB で指定します。
	<span_size>	サイズを KB で指定します。このサイズに達した移行ファイルはスパンされます。
	<user_exit_after_apply>	移行が完了した後でアプリケーションを起動するには、このパラメーターを実行可能ファイルの完全修飾名に設定します。
	<AutoReboot>	ターゲット側の移行完了後に、自動的にコンピューターを再始動 (リブート)するには、このパラメーターを「1」に設定します。コンピューターをリブートするかどうかを尋ねるポップアップ・ウィンドウを表示するには、このパラメーターを「2」に設定します。それ以外の場合は、0 に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<P2PArchiveFile >	PC から PC への接続を介してターゲット・コンピューターに移行ファイルを保存するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<PromptBeforeDelayedApply>	SMA がユーザー・データを遅延適用フェーズで移行中であることを示すダイアログ・メッセージを表示するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。

ファイル移行コマンド

SMA でのファイル移行コマンドの処理は、最初にファイル組み込みコマンド、次に、その組み込みファイルに対応するファイル除外コマンド、という順序で行われます。 SMA 4.2 のように、ファイルの組み込みコマンドと除外コマンドの順序を指定する必要はなくなりました。

SMA では、ソース・コンピューター上のファイルとフォルダーの元の場所に応じて、ファイルが選択および選択解除されます。ファイル・リダイレクト・ステートメントは移行ファイルに保存され、適用フェーズで解釈されます。

ファイル名とディレクトリー名の処理では、大文字と小文字は区別されません。

次の表では、ファイル移行コマンドについて説明します。すべてのファイル移行コマンドはオプションです。

表 4. ファイル移行コマンド

コマンド	パラメーター	作業の内容

<FilesAndFolders>	<run>	ファイル移行の取り込みまたは適用を行うには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		`<FilesAndFolders>`
		` <run>true</run>`
		`</FilesAndFolders>`

<ExcludeDrives>	<Drive>	スキャンの対象から除外する各ドライブのドライブ名を指定します。
		
		例:
		
		`<ExcludeDrives>`
		` <Drive>D</Drive>`
		` <Drive>E</Drive>`
		`</ExcludeDrives>`

表 4. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容

<Inclusions>	<IncDescription>
	<Description>
	<DateCompare>
	<Operand>
	<Date>
	<SizeCompare>
	<Operand>
	<Size>
	<Dest>
	<Operation>
	ここで、
	<Description> は完全修飾ファイル名です。ファイル名とフォルダー名の両方にワイルドカード文字を使用することができます。
	<DateCompare> は、作成日に基づいてファイルを指定するためのオプショナル・パラメーターです。
	– <Operand> は NEWER または OLDER のいずれかです。
	– <Date> は基本となる日付で、mm/dd/yyyy 形式で表します。
	<SizeCompare> は、サイズに基づいてファイルを選択するためのオプショナル・パラメーターです。
	– <Operand> は LARGER または SMALLER のいずれかです。
	– <Size> は MB 単位でのファイル・サイズです。
	<Dest> は、ターゲット・コンピューター上の、ファイルが書き込まれる宛先フォルダーの名前を指定するオプショナル・パラメーターです。
		指定されたディレクトリーに入っているすべての一致ファイルを検索します。
		例 1
		`<IncDescription>`
		`<Description>c:¥MyWorkFolder¥ /s</Description>`
		`</IncDescription>`
		注: フォルダー名を指定するには、記述の最後に「¥」を付加します。
		例 2
		`<IncDescription>`
		`<Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description>`
		`<DateCompare>`
		`<Operand>NEWER</Operand>`
		`<Date>07/31/2005</Date>`
		`</DateCompare>`
		`</IncDescription>`
		例 3
		`<IncDescription>`
		`<Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description>`
		`<SizeCompare>`
		`<Operand>SMALLER</Operand>`
		`<Size>200</Size>`
		`</SizeCompare>`
		`</IncDescription>`
		例 4
		`<IncDescription>`
		`<Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description>`
		`<Dest>D:¥MyNewWorkFolder</Dest>`
		`<Operation>P</Operation>`
		`</IncDescription>`

表 4. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容
<Inclusions> (続き)	• <Operation> は、ファイル・パスの処理方法を指定するオプショナル・パラメーターです。以下のいずれかを指定します。 – 『P』 は、ファイルのパスを保存し、<Dest> パラメーターで指定された場所から始まるターゲット・コンピューターにファイルを再作成します。 – 『R』 は、ファイルのパスを除去し、<Dest> パラメーターで指定された場所にファイルを直接入れます。	

表 4. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容

<Exclusions>	<ExcDescription>
	<Description>
	<DateCompare>
	<Operand>
	<Date>
	<SizeCompare>
	<Operand>
	<Size>
	
	ここで、
	• <Description> は、完全修飾ファイル名またはフォルダー名です。ファイル名とフォルダー名の両方にワイルドカード文字を含めることができます。
	• <DateCompare> は、作成日によってファイルを選択するためのオプショナル・コマンドです。
	– <Operand> は NEWER または OLDER のいずれかです。
	– <Date> は基本となる日付で、mm/dd/yyyy 形式で表します。
	• <SizeCompare> は、サイズによってファイルを選択するためのオプショナル・パラメーターです。
	– <Operand> は LARGER または SMALLER のいずれかです。
	– <Size> は MB 単位でのファイル・サイズです。
		指定されたディレクトリーに入っているすべての一致ファイルを選択解除します。
		
		例 1
		`<ExcDescription>`
		`<Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description>`
		`</ExcDescription>`
		
		例 2
		`<ExcDescription>`
		`<Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description>`
		`<DateCompare>`
		`<Operand>OLDER</Operand>`
		`<Date>07/31/2005</Date>`
		`</DateCompare>`
		`</ExcDescription>`
		
		例 3
		`<ExcDescription>`
		`<Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description>`
		`<SizeCompare>`
		`<Operand>LARGER</Operand>`
		`<Size>200</Size>`
		`</SizeCompare>`
		`</ExcDescription>`

プリンターの移行

ターゲット・コンピューターのプリンター設定を指定する場合、2 つの方法があります。1 つは <Printer> タグを使用してソース・コンピューターからプリンター設定を移行する方法、もう 1 つは <AddPrinter> タグを使用して新規のプリンターをインストールする方法です。

使用できるプリンターは、以下のとおりです。

OS 組み込みプリンター
: このプリンター名は *ntprint.inf* ファイルにあります。

ネットワーク・プリンター
: このプリンター名は、認識されるネットワーク・プリンターのリストにあります。

ユーザー提供のプリンター
: 上記 2 種類以外のすべてのプリンター。

次の表では、プリンターの移行で使用されるタグの組み合わせについて説明します。

表 5. プリンターの移行のタグの組み合わせ

タグ名	<Printer> タグ	<AddPrinter> タグ			
				ユーザー提供のプリンター	
		OS 組み込み プリンター	ネットワーク・ プリンター	セットアップ インストール	Inf による インストール
<PrinterName>	O	*	O	-	*
<PrinterType>	X	O	O	O	O
<InstallExePath>	X	-	-	O	-
<InfFilePath>	X	-	-	-	O
<PortName>	X	O	-	-	O
<DriveName>	X	O	-	-	O

ここで、

O 必ず指定します。

***** オプションです。値を指定しない場合は、<PrinterName /> などのヌル・タグを追加する必要があります。

- 移行には不要ですが、ヌル・タグが必要です。値を指定しても、移行では無視されます。

X 指定しないでください。

取り込まれたプリンターがソース PC でデフォルト・プリンターとして設定されている場合は、ターゲット PC でもデフォルト・プリンターとして設定する必要があります。ソース PC のデフォルト・プリンターがターゲット PC に移行されない場合は、OS がデフォルト・プリンターとしてどのプリンターを設定するかを判断します。

SMA を使用する場合、共通プリンター設定のみを移行できます。プリンターのベンダー固有の設定は移行できません。

ソース・コンピューターで OS 組み込みプリンター・ドライバーの改訂バージョンを手動でインストールした場合は、そのドライバーの元のバージョンがターゲット PC にインストールされます。ターゲット PC に OS 組み込みプリンター・ドライバーの改訂バージョンをインストールするには、<AddPrinter> タグを使用してそのバージョンを指定します。

ユーザー提供のプリンターの移行

ユーザーが指定したプリンターが OS 組み込みプリンターに含まれない場合、SMA では、ユーザーが提供するインストール・パッケージを使用してそのプリンターがインストールされます。この機能はターゲット PC のみで使用できます。ソース PC から取り込まれた情報は無視されます。ユーザーは、ターゲット・コンピューター上のインストール・パッケージへの絶対パスを指定して、インストール・パッケージを提供する必要があります。さらに、パッケージ内のインストーラー・プログラムを指定する必要があります。次の例では、commands.xml ファイルにユーザー提供のプリンターを指定する方法を示します。

```
<Printers>

<!-- For Setup Install -->
  <AddPrinter>
   <PrinterType>UserProvided</PrinterType>
   <PrinterName>My Private Printer</PrinterName>

<InstallExePath>c:¥SMA5¥temp¥printer¥install.exe</InstallExePath>
   <InfFilePath />
   <PortName />
   <DriverName />
  </AddPrinter>

<!-- For Inf Install -->
  <AddPrinter>
   <PrinterType>UserProvided</PrinterType>
   <PrinterName>My Private Printer</PrinterName>
<InstallExePath />
   <InfFilePath>c:¥Windows¥inf¥myprinter.inf</InfFilePath>
   <PortName>USB</PortName>
   <DriverName>IBM Generic USB Printer</DriverName>
  </AddPrinter>

</Printers>
```

ネットワーク・プリンターの移行

ネットワーク・プリンターを識別するために、以下の主要情報が取り込まれます。

- プリンター名
- サーバー名

取り込みフェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターがネットワーク・プリンターのリストにあると、そのプリンターが取り込まれます。「$(all)」を指定すると、リストされたすべてのプリンターが取り込まれます。

適用フェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが、移行ファイルのネットワーク・プリンターのリストにあると、そのプリンターがインストールされます。「$(all)」を指定すると、取り込まれたすべてのプリンターがインストールされます。

ネットワーク上で認識されるプリンターのみが、ターゲット PC でネットワーク・プリンターとしてインストールできます。

OS 組み込みプリンターの移行

OS 組み込みプリンターを識別するために、以下の主要情報が取り込まれます。

- プリンター名
- モニターの設定
- ポート名
- ドライバーの設定

取り込みフェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが ntprint.inf ファイルの OS 組み込みプリンターのリストにあると、そのプリンターが取り込まれます。「$(all)」を指定すると、リストされたすべてのプリンターが取り込まれます。

適用フェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが、OS 組み込みプリンターの 1 つとして ntprint.inf ファイルにリストされていると、そのプリンターがインストールされます。

ファイル移行コマンドの例

このセクションでは、ファイル移行コマンドの例を示します。これらの例は、ファイル選択を絞り込むために、ファイル組み込みコマンドとファイル除外コマンドを結合する方法を示しています。コマンド・ファイルのファイル処理セクションのみを示します。

取り込みフェーズでのファイルの選択

このセクションでは、取り込みフェーズでファイル選択のために使用する 4 つのコード例を示します。

例 1: 次のコードでは、拡張子が .doc (Microsoft Word 文書) のすべてのファイルを選択し、それらのファイルを「d:¥My Documents」ディレクトリーに再配置します。この例は次に、d:¥No_Longer_Used ディレクトリーに入っているすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description>*:¥*.doc /s</Description>
   <Dest>d:¥My Documents</Dest>
   <Operation>r</Operation>
 <IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>d:¥No_Longer_Used¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 2: 次のコードでは、*d* ドライブの内容を選択し、*d* ドライブのルートにあるすべてのファイルと拡張子 .tmp のすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description<d:¥*.* /s</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>d:¥*.*</Description>
```

```
 </ExcDescription>
 <ExcDescription>
  <Description>*:¥*.tmp /s</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 3: 次のコードでは、c: ドライブの内容全体を選択し、Windows ディレクトリーを指定する %windir% の下にあるすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
   <Description>C:¥*.* /s</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>%windir%¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 4: 次のコードでは、現行ログオン・ユーザーのユーザー・プロファイル・パスである %USERPROFILE% フォルダーの内容全体を選択し、拡張子が .dat で、なおかつ「Local Settings」サブフォルダー内にあるすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description>%USERPROFILE%¥</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>%USERPROFILE%¥*.dat</Description>
 </EcxDescription>
 <ExcDesctription>
  <Description>%USREPROFILE%¥Local Settings¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

注: ファイルまたはサブフォルダーを記述するときは、環境変数の直後に必ず「¥」を追加してください。

適用フェーズでのファイルの選択解除

例: 取り込みフェーズ中に、拡張子 .doc のすべてのファイルを含む移行ファイルが作成され、これらのファイルが d¥My Documents サブフォルダーに移動されました。さらに、d:¥No_Longer_Used ディレクトリー内のファイルがすべて除外されました。 (89 ページの『例 1』を参照してください。)

適用フェーズでは、名前に _old.doc が含まれるすべてのファイルを除外するための追加コマンドがコマンド・ファイルに追加されます。

```
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>*_old.doc</Description>
 <ExcDescription>
</Exclusions>
```

自動リブート

このオプションは Commands.xml ファイルの中で指定されます。この指定は、<MISC></MISC> セクションでキーワード「AutoReboot = 」を使用して行います。

指定可能な値は以下のとおりです。

0 (デフォルト)
バッチ適用処理の最後で、コンピューターを自動的にリブートしないでください。この設定を有効にするには、後でコンピューターを手動でリブートする必要があります。

1
バッチ適用処理の最後で、SMA は介入がなくても自動的にコンピューターをリブートします。

2
SMA が、リブートを即時に行うかどうかを選択するためのプロンプトを出します。バッチ処理中であってもポップアップ・ウィンドウが表示されます。この場合、必ずユーザーが介入する必要があります。

```
<MISC>
 <autoreboot>2</autoreboot>
</MISC>
```

コマンド・ファイル・テンプレートの作成

GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。SMA は、実際の移行ファイルを作成する代わりに、取り込みたい設定のタイプを取り込みます。この情報はコマンド・ファイルに書き込まれるので、このコマンド・ファイルを使用して移行ファイルをバッチ・モードで取り込むことができます。

注: ファイルの移行は 2 つのモードでは異なる処理をされるため、GUI を使用してファイル移行コマンドをコマンド・ファイル・テンプレートに追加することはできません。

コマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、次のようにします。

1. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。SMA をデフォルトの場所にインストールすると、このファイルは *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。
2. SMA が移行ファイルを作成しないようにするには、Just_Create_Command ファイル・オプションを次のストリングに変更します。
   ```
   Just_Create_Command_File = Yes
   ```
3. テンプレート・ファイルの名前とパスを指定するように Export_Command_File オプションを変更します。デフォルトでは、Export_Command_File は d:¥Program FIles¥ThinkVantage¥SMA¥etc¥data¥commands.xml ファイルに設定されます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。
4. SMA を開始し、取り込みフェーズを実行します。テンプレート・ファイル内の移行ファイルの場所と名前を取り込むには、「移行ファイルの場所 (Migration file Location)」ウィンドウを使用します。ただし、実際の移行ファイルは作成されません。
5. (オプション) ファイル移行コマンドを追加したい場合は、テンプレート・ファイルを編集し、適切な変更を行います。詳しくは、82 ページの『ファイル移行コマンド』 を参照してください。
6. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで再オープンし、Command_File および Just_Create_Command_File オプションをデフォルト設定に戻します。

バッチ・モードでの移行ファイルの適用

適用フェーズでは、smabat.exe が移行ファイルの内容をターゲット・コンピューターにコピーします。移行ファイルを適用する前にそれを変更することができます。以下の 2 つの例では、移行ファイルを適用するための **smabat** コマンドの使用方法を示しています。

この例では、選択した移行ファイル (receptionist.sma) がターゲット・コンピューターに適用されます。

```
smabat /a /n "c:¥sma_migration files¥receptionist.sma"
```

この例では、選択した移行ファイルを変更した後にターゲット・コンピューターに適用します。これらの変更は、EntryLevel.xml コマンド・ファイルに指定されます。

```
smabat /a "c:¥EntryLevel.xml /n c:¥sma_migration files¥receptionist.sma"
```

バッチ・モードで移行ファイルを適用する場合は、以下の点に注意してください。

- 指定された移行ファイルに設定やファイルを追加することができない。
- 適用フェーズでファイル除外コマンドを処理するときに、SMA は、取り込みフェーズで指定されたリダイレクト場所を使用せずに、ソース・コンピューター上のファイルとフォルダーのオリジナル場所を使用する。
- <ExcludeDrives> コマンドは無視される。

ファイルを、それと同名のファイルがすでに含まれているディレクトリーに移動する場合、コマンド・ファイルの <overwrite_existing_files> パラメーターがゼロに設定されているか、このパラメーターが指定されていないときは、再配置されるファイルの名前に数値ストリングが付加されます。 たとえば、ターゲット・ディレクトリーにすでに readme.txt ファイルが含まれている場合は、再配置ファイルが readme_01.txt に名前変更されます。readme.txt という名前の追加ファイルがこのディレクトリーに移動されるたびに、付加される数値ストリングは増分され、readme_02.txt や readme_03.txt などというようにファイル名が変更されます。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、以下のステップを実行します。

1. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. オプション /c (ここで、移行するローカル・ユーザーが次のように commands.xml ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

```
<IncUsers>
 <UserName>localuser1</UserName>
 <UserName>localuser2</UserName>
 <UserName>localuser3</UserName>
</IncUsers>
```

ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのローカル・ユーザーを移行するには、「*」を次のように使用します。

```
<IncUsers>
 <UserName>*</UserName>
</IncUsers>
```

3. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします。
4. SMABAT.EXE をオプション /a (ここで、SMA 移行ファイルが指定される) で起動します。
5. コンピューターをリブートします。SMA は、ターゲット・コンピューターのローカル・ユーザー・アカウントに設定を適用します。ローカル・ユーザーがターゲット・コンピューターにログオンすると、処理は自動的に起動されます。
6. ローカル・ユーザーがログオンします。
7. SMA の遅延適用タスクは自動的に開始します。
8. ドメイン・ユーザーとしてログオンした後、設定は移行されます。

注: ステップ 4 でローカル・ユーザー・アカウント (1 つまたは複数) を移行する場合、SMA 移行ファイルをネットワーク・ドライブまたはリムーバブル・ディスクに保存すると、遅延適用タスクの場合、リブート後に SMA がそのドライブにアクセスできなくなる可能性があります。共用ネットワーク・ドライブを使用する必要がある場合は、次のステートメントを commands.xml ファイルに追加してください。

```
<PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
```

このステートメントを追加すると、遅延適用フェーズの開始前にプロンプトが現れます。このプロンプトが表示されている間に、ネットワーク接続を確立することができます。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、次のようにします。

1. ドメイン・コントローラーが移行ソース・コンピューターからネットワークを通して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
2. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
3. オプション /c (ここで、移行するドメイン・ユーザーが次のように commands.xml ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

```
<IncUsers>
 <UserName>ourdomain¥domainuser1</UserName>
 <UserName>ourdomain¥domainuser2</UserName>
 <UserName>ourdomain¥domainuser3</UserName>
</IncUsers>
```

ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのドメイン・ユーザーを移行するには、「*」を次のように使用します。

```
<IncUsers>
 <UserName>*¥*</UserName>
</IncUsers>
```

4. ドメイン・コントローラーがターゲット・コンピューターからネットワークを介して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
5. ターゲット・コンピューターがドメインのメンバーであることを確認します。この確認を行うには、「システムのプロパティー」の「コンピューター名」タブを開き、そのパネルの「ドメイン」設定を確認します。ドメイン名が表示されていれば、ターゲット・コンピューターはそのドメインのメンバーということです。ドメイン名が表示されていない場合は、「変更」ボタンを押し、「コンピューター名の変更」パネルの指示に従ってそのコンピューターをドメインのメンバーとして入力します。
6. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
7. SMABAT.EXE をオプション /a (ここで、SMA 移行ファイルが指定される) で起動します。
8. コンピューターをリブートします。

SMA は、ターゲット・コンピューターのドメイン・ユーザー・アカウントに設定を適用します。ドメイン・ユーザーがターゲット・コンピューターにログオンすると、処理は自動的に起動されます。

9. ドメイン・ユーザーがログオンします。ドメイン・ユーザーが最初にログオンすると、Windows オペレーティング・システムが自動的に新規ユーザー・プロファイルを作成します。これには数分かかることがあります。
10. 遅延した SMA 適用タスクが自動的に実行を開始します。
11. ドメイン・ユーザーとしてログオンした後、設定は移行されます。

注: ステップ 8 でドメイン・ユーザー・アカウント (1 つまたは複数) を移行する場合、SMA 移行ファイルをネットワーク・ドライブまたはリムーバブル・ディスクに保存すると、遅延適用タスクの場合、リブート後に SMA がそのドライブにアクセスできなくなる可能性があります。共用ネットワーク・ドライブを使用する必要がある場合は、次のステートメントを commands.xml ファイルに追加してください。

```
<PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
```

このステートメントを追加すると、遅延適用フェーズの開始前にプロンプトが現れます。このプロンプトが表示されている間に、ネットワーク接続を確立することができます。

第 5 章 拡張管理トピック

標準移行のカスタマイズ

グローバル・オプション

次の表は、グローバル・オプションの設定に関する情報を示しています。

表 6. Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定

変数	値	作業の内容
Configuration_File_Show_ Configuration_Messages	「Yes」または「No」	SMA が config.ini ファイルを解釈するときにエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。デフォルトは「No」です。
Import_Command_File	完全修飾ファイル名	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。ソース・コンピューターのデフォルトの選択項目のうち、パスワード保護の設定を除くすべての項目をコマンド・ファイルでカスタマイズできます。デフォルトで移行ファイルがパスワードによって保護されるようにするには、Enable_Password_protection を config.ini の中で「Yes」に設定してください。
Export_Command_File	完全修飾ファイル名	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトでは、*(インストール・ディレクトリー)*¥etc¥data¥commands.xml に設定します。
Just_Create_Command_File	「Yes」または「No」	移行ファイルを作成するかどうかを指定します。移行ファイルを作成せずにコマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、Just_Create_Command_File を「Yes」に設定します。これによって、コマンド・ファイルが Export_Command_File の指定どおりに生成されます。
Enable_4GFat32_warning	「Yes」または「No」	移行ファイルが 4 GB より大きい場合は、Enable_4GFat32_warning を「Yes」に設定して、移行ファイルが FAT32 区画に書き込めないことをユーザーに警告します。
Show_Previous_File_Selection_Dialog	「Yes」または「No」	前回の設定の選択を、今回も使用するかどうかのダイアログを表示するには、「Show_Previous_File_Selection_Dialog」を「Yes」に設定します。
Show_P2P_Messagebox	「Yes」または「No」	ターゲット・コンピューター上で SMA を開始するかどうかの確認ダイアログの表示は、「Show_P2P_Messagebox」を「Yes」に設定します。
Show_Start_Processing_Dialog	「Yes」または「No」	SMA 移行ファイルから設定を作成または適用するプロセスを開始かどうかの確認ダイアログの表示は、Show_Start_Processing_Dialog を「Yes」に設定します。

表 6. *Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定 (続き)*

変数	値	作業の内容
Show_Reboot_Dialog	「Yes」または「No」	マシンをリブートするようダイアログをユーザーに表示するには、「Show_Reboot_Dialog」を「Yes 」に設定します。
Show_All_Warning_Dialogs	「Yes」または「No」	すべての警告メッセージをユーザーに表示するには Show_All_Warning_Dialogs を「Yes」に設定します。
Enable_Password_Protection	「Yes」または「No」	移行ファイルをパスワードによって保護するには、「Enable_Password_Protection」を「Yes」に設定します。このオプションは、ソース・コンピューターのみに適用できます。

ウィンドウ表示オプション

「Show/Not Show Window Options」セクションには、以下の変数が含まれます。

*SpecificPage*Page_Show_Page

ここで、*SpecificPage* は、以下のいずれかです。

- Splash
- Welcome
- Begin
- TopOptions
- Ready
- Options
- Profiles
- Desktop
- Network
- Applications
- Printers
- FileScan
- Selection
- Progress
- Summary
- Log
- InstallSuccess

注: 「Begin page」とは「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウです。「TopOptions」ページは「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウです。「Ready」ページは「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウです。

SMA の実行時にウィンドウが開かないようにするには、この変数を「No」に設定します。それ以外の場合は、この変数を「Yes」に設定するか、何も指定しないでお

きます。ウィンドウが表示されない場合、SMA はインポートされたコマンド・ファイルに指定されているデフォルト設定の取り込みまたは適用を行います。

Progress_Page_Show_Page を「No」に設定すると、SMA でデスクトップ設定のタスクバー設定を除くすべてのデータと設定を移行できます。

Guidance Text Options

「Guidance Text Options」セクションには、以下の変数が入ります。

`SpecificPagePage_Guidance_Text`

ここで、*SpecificPage* は、以下の変数のいずれかです。

- Splash
- Welcome
- Begin
- TopOptions
- Ready
- Options
- Profiles
- Desktop
- Network
- Applications
- Printers
- FileScan
- Selection
- Progress
- Summary
- Log
- InstallSuccess

注: 「Begin page」とは「このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?」ウィンドウです。「TopOptions」ページは「移行のタイプを選択してください。」ウィンドウです。「Ready」ページは「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウです。

この変数では、ガイダンス・テキストとして表示される代替テキストを指定します。

Splash page

「Splash Page」セクションには、以下の変数が含まれます。

- Splash_Page_Display_Time

この変数では、スプラッシュ画面が表示される時間を秒数で指定します。デフォルトでは、Splash_Page_Display_Time は 2 に設定されています。

Begin page

「Begin Page」セクションには、以下の変数が含まれます。

- Begin_Page_Choice_Mode
- Begin_Page_Target_Initiated_Migration

Begin_Page_Choice_Mode では、移行モードを指定します。この変数には Target または Source を指定します。デフォルトは Target です。

Begin_Page_Choice_Mode を Target に設定すると、Begin_Page_Target_Initiated_Migration を Yes または No のいずれに設定してもかまいません。移行がすでにソース・コンピューターから開始されている場合は Yes に設定してください。デフォルトは No です。

TopOptions page

「TopOptions Page」セクションには、以下の変数が含まれます。

- TopOptions_Page_Choice_Type
- TopOptions_Page_Choice_TransferMode

TopOptions_Page_Choice_Type では、移行タイプを指定します。アプリケーションとデータの設定のデフォルトの選択項目を移行するには、「簡易移行」を選択します。アプリケーションとデータの設定の選択項目をカスタマイズするには、「カスタム移行」を選択します。デフォルトは「簡易移行」です。

TopOptions_Page_Choice_TransferMode では、移行方法を指定します。取り込んだファイルと設定を直接ターゲット・コンピューターに送るには、この変数を P2P に設定します。リムーバブル・ディスクを使用してファイルと設定をコピーするには、この変数を FileTransfer に設定します。デフォルトは P2P です。

Choice options

このセクションでは、次のストリングを含む変数について説明します。

```
_Choice
```

これらの変数は、config.ini ファイルの「Migration Options Page」、「Desktop Page」、および「Network Page」セクションにあります。これらの変数によって、チェック・ボックスを表示するか非表示にするか、アクティブにするか選択できないようにするか、またはデフォルトで選択されるようにするかを制御できます。

値

これらの各変数は次の値を取ります。

OptionDisplay, *OptionActive*, *OptionSelected*

ここで、

- *OptionDisplay* は、以下のいずれかの値です。
  - HIDE は、チェック・ボックスを非表示にします。
  - DISPLAY は、チェック・ボックスを表示します。
- *OptionActive* は、以下のいずれかの値です。
  - ENABLED は、チェック・ボックスをアクティブにすることを指定します。

– DISABLED は、チェック・ボックスを選択できないようにすることを指定します。

OptionDisplay が HIDE に設定されている場合、SMA ではこの変数は無視されます。

- *OptionSelected* は、以下のいずれかの値です。
  – CHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトで選択することを指定します。
  – UNCHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトでクリアすることを指定します。

  OptionSelected は、「Migration Options page」セクションでのみ使用可能です。

例

以下の例を考察します。

- 「デスクトップ設定」ページの「**カラー**」チェック・ボックスは表示されるが、ユーザーがこのチェック・ボックスの選択を解除できない。

```
Desktop_Page_Choice_Colors = Display, Disabled
```

- 「移行オプション」ページの「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスが表示され、このチェック・ボックスの選択が解除されているが、選択ができない。

```
Options_Page_Choice_Files = Display, Disabled, Unchecked
```

- 「**タスクバー**」チェック・ボックスが「デスクトップ設定」ページに表示されない。ただし、タスクバー設定がデフォルトで選択されている場合、これらの設定は自動的に選択され、取り込まれる。

```
Desktop_Page_Choice_ Task_Bar = Hide, Checked.
```

- 「**プリンター**」チェック・ボックスが「オプション」ページに表示されない。ただし、このチェック・ボックスは自動的に選択され、取り込まれる。

```
Options_Page_Choice_Printers = Hide, Checked.
```

その他のオプション

次の表は、config.ini ファイルの追加変数に関する情報を示します。

表 7. Config.ini ファイル: その他のオプション

変数	値	作業の内容
Applications_Page_Show_Registry_Button	「Yes」または「No」	「アプリケーション設定」ウィンドウでレジストリー・ボタンを表示するかどうかを指定します。デフォルトは「No」です。
Selection_Page_File_Quota	数値 (MB)	取り込むことができる解凍データの最大量を指定します (MB 単位)。
Selection_Page_File_Warning_Message	テキスト・ストリング	ユーザーが特定の拡張子を持つ移行ファイルを選択したときに表示される、代替警告メッセージを指定します。

表 7. *Config.ini ファイル: その他のオプション (続き)*

変数	値	作業の内容
Selection_Page_Warning_Extensions	ファイル拡張子	ユーザーが特定の拡張子を持つ移行ファイルを選択したときに警告メッセージが出されるようにする場合の、その拡張子を指定します。 それぞれの拡張子は、別々の行に指定しなければなりません。たとえば、次のとおりです。 [Selection_Page_Warning_Extensions_Start] exe com dll [Selection_Page_Warning_Extensions_End]

レジストリー設定の移行

重要: レジストリー設定を移行するときは細心の注意を払ってください。間違ったレジストリー設定を移行すると、オペレーティング・システムが使用不可になることがあります。レジストリー設定を移行する前に、レジストリー・データベースについて完全な知識を得ておく必要があります。

バッチ・モードを使用してレジストリー設定を移行する場合

レジストリー設定を移行するには、次のようにします。

1. ASCII テキスト・エディターで commands.xml ファイルを開きます。
2. 次のコマンドが入るように「レジストリー」セクションを変更します。

```
<Registries>
 <Registry>
  <hive>HKCU</hive>
  <keyname>Software¥ThinkVantage¥SMA¥5.0</keyname>
  <value>InstallDir</value>
 </Registry>
</Registries>
```

   ここで、
   - *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。
   - *keyname* はキー名です。
   - *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。

   keyname または *value* は、スペースが含まれていると無視されます。
3. 取り込みを実行します。

command.txt ファイルの使用について詳しくは、129 ページの『付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

追加アプリケーション設定の移行

注: カスタム・アプリケーション・ファイルを作成する場合は、カスタマイズされた設定のストレージ・ロケーションを含め、アプリケーションについて完全な知識を持っている必要があります。

デフォルトでは、いくつかのアプリケーションの設定を移行するように SMA が事前構成されています。 SMA によってサポートされるアプリケーションのリストについては、 117 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。また、カスタム・アプリケーション・ファイルを作成して追加アプリケーションの設定を移行することもできます。

このファイルの名前は必ず *application*.xml または *application*.smaapp とし、*d*:¥Program Files¥IBM ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに保存する必要があります。ここで、*application* はアプリケーションを示し、*d* はハード・ディスクのドライブ名です。同じアプリケーションに対し、*application*.smaapp と *application*.xml の両方のカスタム・アプリケーション・ファイルが存在する場合は、*application*.smaapp が優先されます。

新規アプリケーションをサポートするために、既存のアプリケーション・ファイルをコピーして必要な変更を行うこともできます。たとえば、Acrobat_Reader.xml は既存のアプリケーション・ファイルです。

アプリケーション・ファイルについて、以下の特性を知っておいてください。

- *application*.xml
  - デフォルトでは、SMA 5.0 がインストールされている場合、*application*.xml のみが存在します。
  - 「<!--」

    と

    「-->」

    で囲まれた <タグ> はコメントとして扱われます。以下に例を示します。

    ```
    <!--Files_From_Folders>
     <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.* /s</Fil
    es_From_Folder>
     <Files_From_Folder>%Personal Directory%\*.pdf</Files_From_Folder>
    </Files_From_Folders-->
    ```
  - 各コマンドは別々のセクションで記述する必要があります。
  - 各セクションは、<AppInfo> や <Install_Directories> などのように、タグで囲まれたコマンドで始まります。1 つのセクションに 1 つ以上のフィールドを入力できますが、各フィールドは別々の行に分かれている必要があります。
  - アプリケーション・ファイルに構文エラーが含まれていると、SMA の操作は続行され、エラー・メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。
  - アプリケーション・ファイルでは大文字と小文字が区別されます。
- *application*.smaapp の使用について詳しくは、 129 ページの『付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

次の表は、アプリケーション・ファイルに関する情報を示します。

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル

セクション	コマンド	値	作業の内容
<Applications>			
	<Family>	テキスト・ストリング。先行スペースは無視されます。テキスト・ストリングを引用符で囲まないでください。	アプリケーションのバージョンに依存しない固有名を指定します。SMA をバッチ・モードで実行する場合は、このストリングをコマンド・ファイルのアプリケーション・セクションで使用します。 以下に例を示します。 `<Family>Adobe Acrobat Reader</Family>`
	<SMA_Version>	テキスト・ストリング。	SMA バージョン番号を指定します。 以下に例を示します。 `<SMA_Version>SMA 5.0</SMA_Version>`
	<App>	*ShortName*。*ShortName* はアプリケーションのバージョン固有のショート・ネームです。	1 つ以上のアプリケーションのバージョン固有のショート・ネームを指定します。 以下に例を示します。 `<APP>Acrobat_Reader_50</APP>`
<Application ShortName="*ShortName*"> ここで、*ShortName* は「Applications」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。			
	<Name>	テキスト・ストリング。	アプリケーションの名前を指定します。
	<Version>	数値。	アプリケーションのバージョンを指定します。

	<Detects>
	<Detect>
		hive は HKLM または HKCU のいずれかです。
		keyname はキー名です。
			レジストリー・キーを指定します。SMA は、指定されたレジストリー・キーを検索してアプリケーションを検出します。
			
			例:
			
			`<Detects>`
			`  <Detect>`
			`    <hive>HKLM</hive>`
			`    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥</keyname>`
			`  </Detect>`
			`</Detects>`

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

<table>
<tr><th>セクション</th><th>コマンド</th><th>値</th><th>作業の内容</th></tr>
<tr><td colspan="4"><Install_Directories.>

以下に例を示します。
<pre><Install_Directories>
 <Install_Directory>
  <OS>WinXP</OS>
   <Registry>
    <hive>HKLM</hive>
    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
    <value>(Default)</value>
   </Registry>
 </Install_Directory>
 <Install_Directory>
  <OS>Win2000</OS>
   <Registry>
    <hive>HKLM</hive>
    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
    <value>(Default)</value>
   </Registry>
 </Install_Directory>
</Install_Directories></pre></td></tr>
<tr><td></td><td><OS></td><td>テキスト・ストリング</td><td>OS はオペレーティング・システムを示し、以下のいずれかを指定できます。
WinXP
Win2000
WinNT
Win98</td></tr>
<tr><td></td><td><Registry></td><td>hive は、HKLM または HKCU のいずれかです。
keyname はキー名です。
value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。</td><td>レジストリーに現れるインストール・ディレクトリーを指定します。アプリケーションのインストール・ディレクトリーを示すレジストリーも指定します。</td></tr>
</table>

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

<table>
<tr><th>セクション</th><th>コマンド</th><th>値</th><th>作業の内容</th></tr>
<tr><td colspan="4"><Files_From_Folders>

オプション</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">SMAvariable¥Location¥[File] [/s]

ここで、
• SMAvariable は、カスタマイズ・ファイルの場所を指定する次のいずれかの変数です。
– %Windows Directory% (オペレーティング・システム・ファイルの場所)
– %Install Directory% (Install_Directories セクションで定義されたアプリケーションの場所)
– %Appdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Application Data ディレクトリー)
– %LocalAppdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Local Settings フォルダーの Application Data ディレクトリー)
– %Cookies Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Cookies ディレクトリー)
– %Favorites Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Favorites ディレクトリー)
– %Personal Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである My Documents ディレクトリー。この環境変数は Windows NT4 では使用できません。)</td><td>移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。

例:
<code><Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥</Files_From_Folder></code>
%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルは含まれません。
<code><Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥ /s</Files_From_Folder></code>
%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルも含まれます。
<code><Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.*</Files_From_Folder></code>
%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルは含まれません。
<code><Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.* /s</Files_From_Folder></code>
%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルも含まれます。
<code><Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi</Files_From_Folder></code>
「Whapi」の後ろに「¥」がない場合、SMA では「Whapi」はフォルダーではなくファイルとして扱われます。</td></tr>
</table>

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

セクション	コマンド	値	作業の内容
<Files_From_Folders> オプション (続き)			
	• *Location¥* は、完全修飾のディレクトリーを指定します。パスにワイルドカード文字を使用してもかまいません。ディレクトリーを指定すると、すべてのファイルがコピーされます。 • [*File*] はオプショナル・パラメーターで、Location がディレクトリーを指定し、File がコピー対象のファイルである場合にのみ使用できます。ファイル名にはワイルドカード文字を使用できます。 • [/s] はオプショナル・パラメーターです。 [/s] を使用すると、サブディレクトリー内のすべてのファイルがコピーされます。 • SMA 5.0 を使用している場合は、Windows 環境変数を使用することができます。 SMA を開始したユーザーの環境変数が、Windows 環境変数の値として使用されます。		
<Registries> オプション			

	hive は、HKLM または HKCU のいずれかです。
	keyname はキー名です。
	value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。
			移行したいレジストリーを指定します。
			以下に例を示します。
			`<Registries>`
			` <Registry>`
			`  <hive>HKCU</hive>`
			`  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>`
			`  <value></value>`
			` </Registry>`
			`</Registries>`

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

<table>
<tr><th>セクション</th><th>コマンド</th><th>値</th><th>作業の内容</th></tr>
<tr><td colspan="4"><Registry_Excludes>

オプション</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">hive は、HKLM または HKCU のいずれかです。
keyname はキー名です。
value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。</td><td>選択したレジストリーから除外したいレジストリー・キーと値を指定します。

以下に例を示します。
<Registry_Excludes>
 <Registry>
  <hive>HKCU</hive>
  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer
</keyname>
  <value>xRes</value>
 </Registry>
</Registry_Excludes></td></tr>
<tr><td colspan="4"><Files_Through_Registries></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"><OS>

は、オペレーティング・システムを指定し、以下のいずれかの値です。
• WinXP
• Win2000
• WinNT
• Win98

<Registry> はレジストリー項目を指定し、hive,keyname,value のフォーマットになっています。ここで、
• hive は、HKLM または HKCU のいずれかです。
• keyname はキー名です。
• value は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。

File はファイル名です。ワイルドカード文字を使用できます。</td><td>移行するカスタマイズ・ファイルを指定します。

以下に例を示します。
<Files_Through_Registries>
 <Files_Through_Registry>
  <OS>WinXP</OS>
   <Registry>
    <hive>HKCU</hive>
    <keyname>Software¥Lotus¥Organizer¥99.0¥Paths</keyname>
    <value>Backup</value>
   </Registry>
   <File>*.*/s</File>
 </Files_Through_Registry>
</Files_Through_Registries></td></tr>
<tr><td colspan="4"><SourceBatchProcessing></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"><SourceBatchProcessing>
<!CDATA[batch commands]]>
</SourceBatchProcessing></td><td><SourceBatchProcessing> は取り込みフェーズで、<Files_From_Folders> が処理される前にバッチ処理を実行します。

以下に例を示します。
<SourceBatchProcessing>
 <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration
del c:¥migration¥*.mp3]]>
</SourceBatchProcessing></td></tr>
</table>

表 8. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

セクション	コマンド	値	作業の内容
<PreTargetBatchProcessing>			
	<PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[batch commands]]> </PreTargetBatchProcessing>		<PreTargetBatchProcessing> は適用フェーズで、<Registries> が処理される前にバッチ処理を実行します。 以下に例を示します。 <PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]]> </PreTargetBatchProcessing>
<TargetBatchProcessing>			
	<TargetBatchProcessing> <!CDATA[batch commands]] </TargetBatchProcessing>		<TargetBatchProcessing> は適用フェーズで、<Registries> が処理された後にバッチ処理を実行します。 以下に例を示します。 <TargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]]> </TargetBatchProcessing>

アプリケーション・ファイルの作成

カスタム・アプリケーション・ファイル用にどのアプリケーション設定を移行する必要があるかを決定するには、アプリケーションを慎重にテストしなければなりません。

アプリケーション・ファイルを作成するには、次のようにします。

1. ASCII テキスト・エディターを使用して既存の application.XML ファイルを開きます。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合、application.XML ファイルは *d*:¥Program Files¥IBM ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに入れられます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。
2. 移行したいアプリケーションとアプリケーション設定についてこの application.XML ファイルを変更します。
3. <Applications> セクションの情報を変更します。
4. <Application ShortName="ShortName"> セクションの <Name> コマンドおよび <Version> コマンドを変更します。
5. 移行する必要があるレジストリー・キーを決定します。
   a. 「**スタート**」→「**ファイルを指定して実行**」とクリックします。「ファイルを指定して実行」ウィンドウが開きます。「**名前 (O)**」フィールドに `regedit` と入力して「**OK**」をクリックします。「レジストリ エディタ」ウィンドウが開きます。
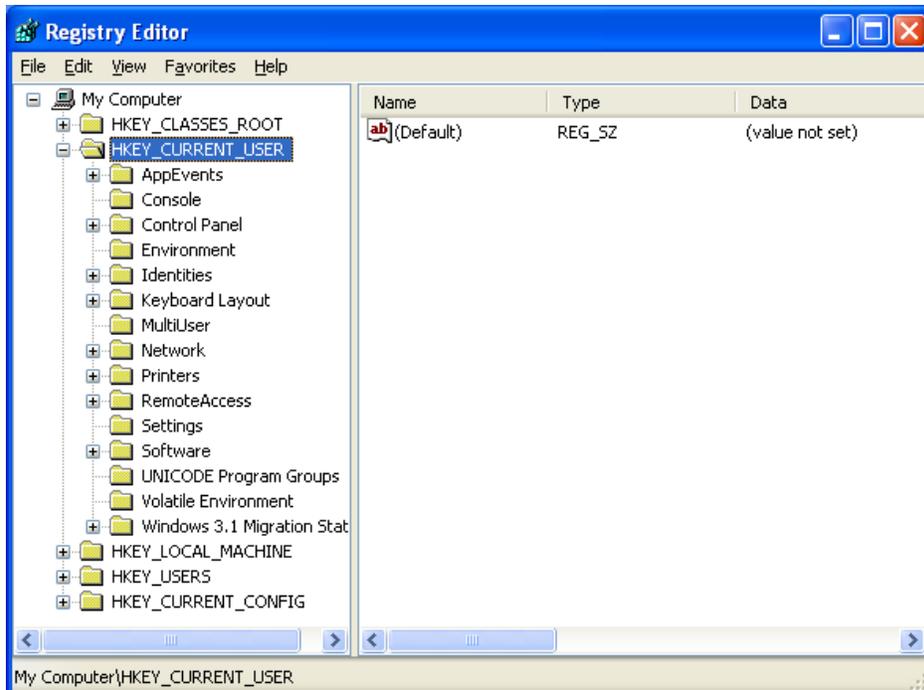
図 93. 拡張管理トピック: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ

b. 左側のペインで「**HKEY_LOCAL_MACHINE**」ノードを展開します。

c. 「**ソフトウェア (Software)**」ノードを展開します。

d. ベンダー固有のノード (たとえば、「**Adobe**」) を展開します。

e. アプリケーションのレジストリー・キーが見つかるまで、調査を続行します。この例では、レジストリー・キーは SOFTWARE¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0 です。
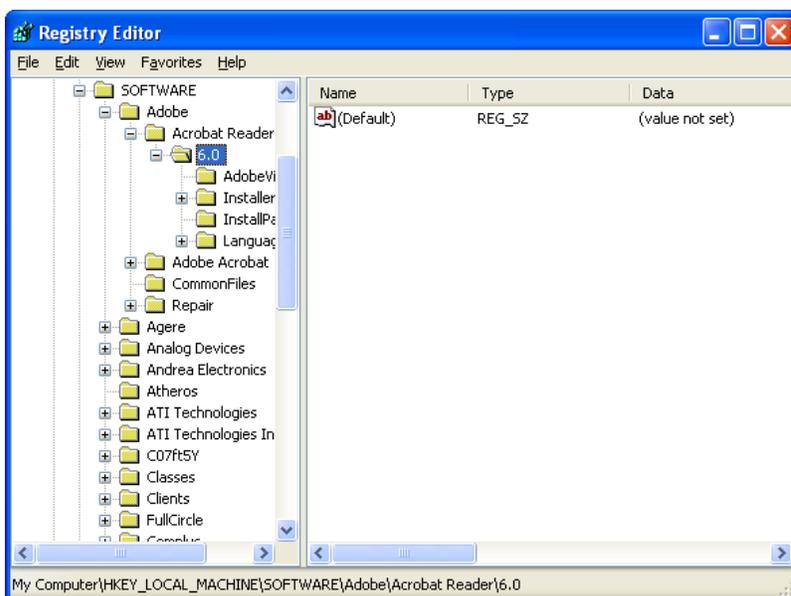
図 94. 拡張管理トピック: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (レジストリー・キーの検索)

f. 「**Detect**」フィールドの値を設定します。例:

```
<Detects>
 <Detect>
  <hive>HKLM</hive>
  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0</keyname>
 </Detect>
<Detects>
```

6. <Install_Directories> セクションを変更します。
7. アプリケーションのインストール・ディレクトリーへのパスを確認します。
   a. 「レジストリ エディタ」ウィンドウから、HKLM¥SOFTWARE¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath ノードにナビゲートします。
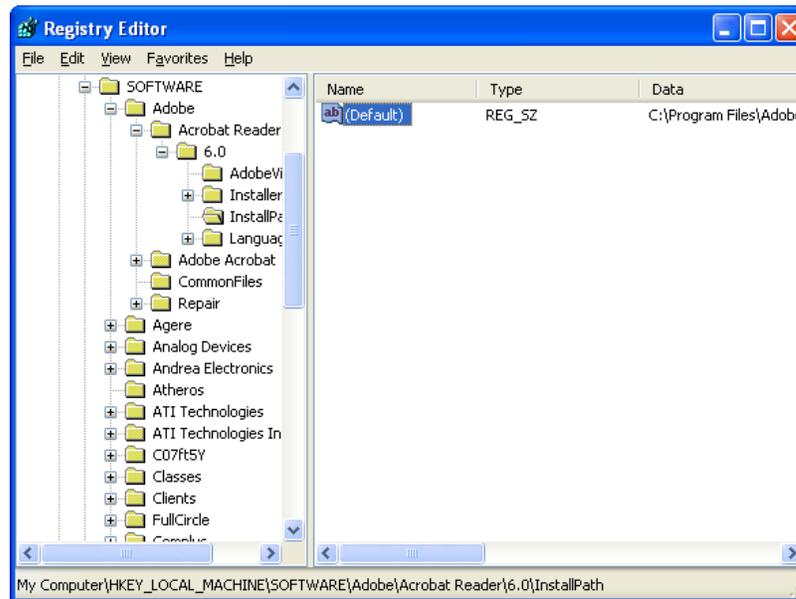
図 95. 拡張管理トピック: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (インストール・パスの確認)

   b. 該当するコマンドをアプリケーション・ファイルの <Install_Directories> セクションに追加します。例:

```
<Install_Directory>
 <OS>WinXP</OS>
  <Registry>
   <hive>HKLM</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
   <value>(Default)</value>
  </Registry>
</Install_Directory>
```

注: アプリケーション固有のディレクトリーが HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥AppPaths ディレクトリーにない場合は、HKLM¥Software ツリー内の他の場所で、インストール・パスを含むディレクトリーを見つける必要があります。ディレクトリーを見つけたら、そのキーを <Install_Directories> セクションで使用します。

8. <Files_From Folders> セクションで、移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。

a. 多くのアプリケーションは、デフォルトで、ファイルを Documents and Settings サブディレクトリーに保存しているので、Application Data ディレクトリーでこのアプリケーションに関連するディレクトリーを調べてください。それが存在している場合は、次のコマンドを使用してそのディレクトリーとファイルを移行することができます。

```
<Files_From_Folder>SMAvariable¥Location¥[File] [/s] </Files_From_Folder>
```

ここで、*Location/* は完全修飾ファイルまたはディレクトリー、[*File*] は、*Location/* がディレクトリーを指定する場合に限り使用可能なオプショナル・パラメーターです。

Adobe Reader の例では、カスタマイズ・ファイルは Preferences ディレクトリーに入っています。
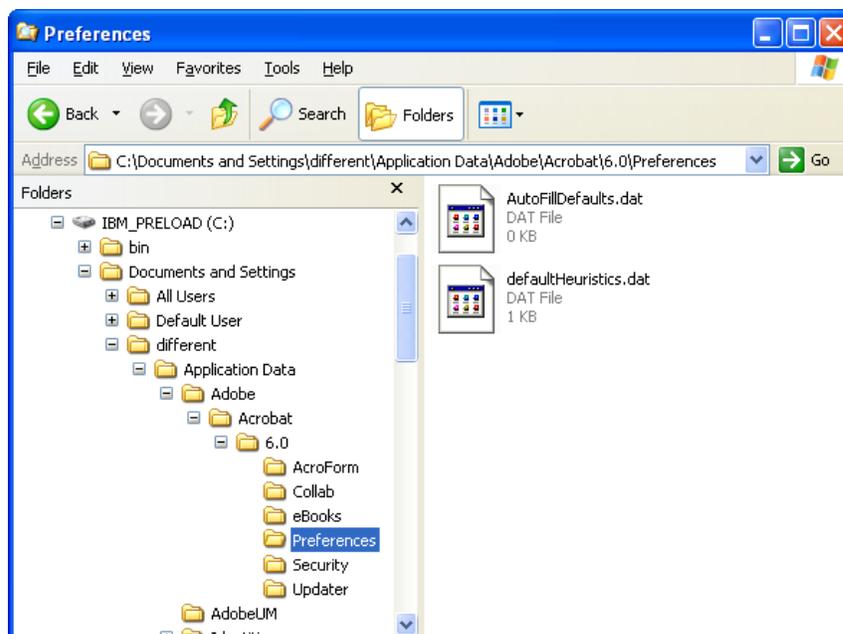
図 96. 拡張管理トピック: 「Documents and settings」の下のカスタマイズ・ファイル

b. 個人用設定が保存されている可能性があるすべての関連ディレクトリーを調べます。

c. Local Settings ディレクトリーを調べます。

9. 移行したいレジストリー項目を決定します。それらは HKCU (HKEY_CURRENT_USER) に入っています。アプリケーション・ファイルの <Registries> セクションで、該当するコマンドを追加します。

10. application.XML ファイルを *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに保存します。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

11. 新規のアプリケーション・ファイルをテストします。

Adobe Reader 用の application.XML ファイルの例

このセクションでは、Adobe Reader のアプリケーション・ファイルを紹介します。

```
<?xml version="1.0"?>
<Applications>
<Family>Adobe Acrobat Reader</Family>
<SMA_Version>SMA 5.0</SMA_Version>
<APP>Acrobat_Reader_70</APP>
<APP>Acrobat_Reader_60</APP>
<APP>Acrobat_Reader_50</APP>

<Application ShortName="Acrobat_Reader_50">
<AppInfo>
          <Name>Acrobat_Reader_50</Name>
          <Version>5.0</Version>
          <Detects>
                 <Detect>
                     <hive>HKLM</hive>
                     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0</keyname>
                 </Detect>
          </Detects>
</AppInfo>

<Install_Directories>
            <Install_Directory>
                <OS>WinXP</OS>
                <Registry>
                        <hive>HKLM</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath
</keyname>
                        <value>(Default)</value>
                </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                <OS>Win2000</OS>
                <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath
</keyname>
                         <value>(Default)</value>
                </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                 <OS>Win98</OS>
                 <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath
<keyname>
                         <value>(Default)</value>
                 </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                 <OS>WinNT</OS>
                 <Registry>
                          <hive>HKLM</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath
</keyname>
                          <value>(Default)</value>
                 </Registry>
            </Install_Directory>
</Install_Directories>

<Files_From_Folders>
           <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.*
/s</Files_From_Folder>
           <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
```

```
<Files_From_Folders>

<Files_Through_Registries>
</Files_Through_Registries>

<Registries>
            <Registry>
                       <hive>HKCU</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
            </Registry>
            <Registry>
                       <hive>HKCU</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
            </Registry>
            <Registry>
                       <hive>HKCU</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Persistent Data</keyname>
            </Registry>
</Registries>

<Registry_Excludes>
            <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer
</keyname>
                        <value>xRes</value>
            </Registry>
            <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥Adobe¥Viewer
</keyname>
                        <value>yRes</value>
            </Registry>
<Registry_Excludes>

<SourceBatchProcessing>
</SourceBatchProcessing>

<PreTargetBatchProcessing>
</PreTargetBatchProcessing>

<TargetBatchProcessing>
</TargetBatchProcessing>
</Application>

<Application ShortName="Acrobat_Reader_6.0">
         <AppInfo>
                    <Name>Adobe Acrobat Readr 6.0<¥Name>
                           <Version>6.0</Version>
                           <Detects>
                                  <Detect>
                                         <hive>HKLM</hive>
                                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0
</keyname>
                                  </Detect>
                           </Detects>
         <¥AppInfo>

<Install_Directories>
           <Install_Directory>
                <OS>WinXP</OS>
                <Registry>
                          <hive>HKLM</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath
</keyname>
                          <value>(Default)</value>
                </Registry>
```

```
          </Install_Directory>
          <Install_Directory>
               <OS>Win2000</OS>
               <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath
</keyname>
                         <value>(Default)</value>
               </Registry>
          </Install_Directory>
          <Install_Directory>
               <OS>Win98</OS>
               <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath
</keyname>
                         <value>(Default)</value>
               </Registry>
          </Install_Directory><Install_Directory>
               <OS>WinNT</OS>
               <Registry>
                          <hive>HKLM</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath
</keyname>
                          <value>(Default)</value>
               </Registry>
          </Install_Directory>
</Install_Directories>

<Files_From_Folders>
            <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥6.0¥*.* /s
</Files_From_Folder>
            <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
</Files_From_Folders>

<Files_Trough_Registries>
</Files_Trough_Registries>

<Registries>
              <Registry>
                          <hive>HKCU</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
              </Registry>
              <Registry>
                          <hive>HKCU</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
              </Registry>
</Registries>

<Registry_Excludes>
              <Registry>
                          <hive>HKCU</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer
</keyname>
                          <value>xRes</value>
              </Registry>
              <Registry>
                          <hive>HKCU</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥Adobe¥Viewer
</keyname>
                          <value>yRes</value>
              </Registry>
<Registry_Excludes>

<SourceBatchProcessing>
</SourceBatchProcessing>
```

```
<PreTargetBatchProcessing>
</PreTargetBatchProcessing>

<TargetBatchProcessing>
           <![CDATA[
          if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
          goto Done
          :Update50
          regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥
Acrobat Reader¥6.0"
          regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"  "HKLM¥
Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer"
          :Done
 ]]>
</TargetBatchProcessing>
</Application>

<Application ShortName="Acrobat_Reader_7.0">
              <AppInfo>
                         <Name>Adobe Acrobat Reader 7.0<¥Name>
                         <Version>6.0</Version>
                         <Detects>
                                    <Detect>
                                           <hive>HKLM</hive>
                                           <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader
¥7.0</keyname>
                                    </Detect>
                         </Detects>
              <¥AppInfo>

<Install_Directories>
             <Install_Directory>
                           <OS>WinXP</OS>
                           <Registry>
                                    <hive>HKLM</hive>
                                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥
InstallPath</keyname>
                                    <value>(Default)</value>
                           </Registry>
             </Install_Directory>
             <Install_Directory>
                           <OS>Win2000</OS>
                           <Registry>
                                     <hive>HKLM</hive>
                                     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥
InstallPath</keyname>
                                     <value>(Default)</value>
                           </Registry>
             </Install_Directory>
<Install_Directory>
                            <OS>Win98</OS>
                            <Registry>
                                      <hive>HKLM</hive>
                                      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥
InstallPath</keyname>
                                      <value>(Default)</value>
                            </Registry>
             </Install_Directory><Install_Directory>
                            <OS>WinNT</OS>
                            <Registry>
                                      <hive>HKLM</hive>
                                      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥
InstallPath</keyname>
                                      <value>(Default)</value>
                            </Registry>
              </Install_Directory>
</Install_Directories>
```

```
<Files_From_Folders>
            <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥7.0¥*.* /s
</Files_From_Folder>
            <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
</Files_From_Folders>

<Files_Trough_Registries>
</Files_Trough_Registries>

<Registries>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
             </Registry>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
             </Registry>
</Registries>

<Registry_Excludes>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer
</keyname>
                        <value>xRes</value>
             </Registry>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Adobe¥Viewer
</keyname>
                        <value>yRes</value>
             </Registry>
<Registry_Excludes>

<SourceBatchProcessing>
</SourceBatchProcessing>

<PreTargetBatchProcessing>
</PreTargetBatchProcessing>

<TargetBatchProcessing>
            <![CDATA[
           if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
           if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_60" goto Update60
            goto Done
           :Update50
           regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"  "HKCU¥Sof
tware¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0"
           regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeView
er"  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer"
           goto Done
           :Update60
           regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0"  "HKCU¥Softw
are¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0"
           regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeVi
ewer"  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer"
           :Done
           ]]>
</TargetBatchProcessing>
</Application>

</Applications>
```

付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定

この付録では、SMA で移行できるアプリケーションと設定をリストしています。オペレーティング・システム、移行シナリオ、およびソース・マシンとターゲット・マシンのアプリケーション・バージョンの違いなどによって、異なる結果が生じる可能性があります。ユーザー設定を含むファイルをデフォルト・フォルダー以外の場所に保存すると、アプリケーション設定が正しく移行されない場合があります。こうした場合、最初にご使用の環境に従ってアプリケーション・ファイルを編集し、その後にアプリケーション設定を移行するようにしてください。

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定

アプリケーション	設定	注記
Access Connections バージョン 3.0	ロケーション・プロファイル	
Rescue and Recovery	バックアップから除外されるファイルのリスト	
Adobe Acrobat Reader 5.0 および Adobe Acrobat Reader 6.0、7.0	• アクセシビリティ • 注釈 • ユーザー情報 • フルスクリーン・モード • アップデート • Web Buy	Adobe Acrobat Reader 5.0 から Adobe Reader 6.0 または 7.0 に移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
AT&T Network Client 5.0	• 一般 • 拡張電話設定	
IBM Global Network® Dialer 4.0 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server で稼働するターゲット・コンピューターのみをサポートします。	• アクセス • 外観 • プログラム • ブラウザー • メール • ニュース • サーバー	
Lotus Notes バージョン 4.x、5.x、および 6.x	• デスクトップ • ID ファイル • INI ファイル • アドレス帳 • データベース • 辞書	異なるバージョン間で移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
Lotus Organizer® バージョン 6.0	• 既定値のファイル • 環境 • アラーム • 祝日の設定	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます (Lotus Notes は例外)。 良い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Lotus SmartSuite® for Windows バージョン 9.7 および 9.8	• アプローチ – 設定 - 表示 - 一般 • 表示 • ナビゲーション • Freelance Graphics® – 設定 – ビュー • Lotus 1-2-3® – 設定 - 一般 - 新規ワークブック・デフォルト - 再計算 - 互換メニュー – ビュー • Word Pro – 設定 - 一般 - ファイル指定 - 個人情報 - オプション • SmartCenter フォルダー・オプション (カラーおよびアイコン)	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます (Lotus Notes は例外)。 良い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥ 「設定」内の「場所 (Locations)」の設定は移行されません。
McAfee VirusScan 7.0	• 検出 • システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	McAfee VirusScan バージョン 7.0 からバージョン 8.0 への移行はサポートされていません。
McAfee VirusScan 8.0	• VirusScan オプション • ActiveShield – E メール・スキャン – ScriptStopper – WormStopper • ウィルス・マップ・レポート • スケジュール・スキャン	

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Access バージョン 2000、 2003、および XP	• ツールバー • オプション • ビュー • 検索 • キーボード • データ・シート • レポート作成 • 拡張 • 照会	
Microsoft Internet Explorer バージョン 5.0、5.5、および 6.0	• お気に入り • 表示 • インターネット・オプション • アクセシビリティ	
Microsoft NetMeeting バージョン 2.x および 3.x	• ビュー • 一般 • 呼び出し • 拡張呼び出しオプション • セキュリティー	
Microsoft Office バージョン 97、2000、 2003、および XP (Excel、PowerPoint、および Word)	• ツールバー • オプション • テンプレート • ユーザー情報 (ツール・オプションの下)	ソース・コンピューターの Microsoft Office のバージョンがターゲット・コンピューターのバージョンと異なる場合、Word および PowerPoint アプリケーションのツールバーとテンプレートの設定は移行されません。 「オプション」設定の「互換性 (Compatibility)」の設定は移行されません。

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook バージョン 98、2000、2003、および XP	• フォルダー • PST ファイル (メール・ファイル) • ショートカット • ツールバー • ビュー • カスタマイズ・オプション • アドレス帳 • アカウント • 設定/E メール・オプション • トラッキング・オプション • カレンダー・オプション • メール・デリバリー • リソース・スケジューリング	Microsoft Outlook と Internet Explorer は同時に移行してください。 Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 Microsoft Outlook が Windows 98 または NT から Windows 2000 または XP に移行された場合、またはターゲット・コンピュータへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、次の操作を行ってから、ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動してください。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 「コントロール パネル」で「メール」をダブルクリックします。 7. 「データ・ファイル...」をクリックします。 8. 「設定...」をクリックします。 9. 「Outlook.pst が無効です.....」メッセージが表示される場合は、OK をクリックします。 10. 次のディレクトリーに進みます。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥ Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Outlook と進み、Outlook.pst を選択します。 (% USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メールのセットアップ」を閉じます。 12. Microsoft Outlook を始動します。 ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動する前にこの手順を完了していない場合は、Microsoft Microsoft Outlook を移行し直し、あらためてこの手順を実行しなければならなくなります。

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook Express バージョン 4.x、5.x、および 6.x	• 一般 • メール送信フォーマット • ニュース送信フォーマット • 送信 • 読み取り • セキュリティー • 拡張 • アドレス帳	Microsoft Outlook Express と Internet Explorer は同時に移行してください。Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 Microsoft Outlook Express 4.x を Microsoft Outlook Express 5.x または 6.x に移行した後、次の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x または 6.x を始動します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択します。次に「メッセージ...」を選択します。 9. Outlook Express 4 を選択します。 10. メッセージの場所を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥ Application Data¥Microsoft¥Outlook express (% USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。 Microsoft Outlook Express 4.x/5.x/6.x から Microsoft Outlook Express 4.x/5.x/6.x へ移行した後、次のようにします。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x/6.x を始動します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択します。次に「アドレス帳」を選択します。 9. 「アドレス帳」ファイル (*.wab) を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥Application Data¥Microsoft¥address book¥%SOURCEUSERNAME%.wab (%SOURCEUSERNAME% は、ソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 10. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。
Microsoft Project バージョン 98、2000、および 2002	• ツールバー • 設定 • 保管オプション • ファイル場所 • 最新の文書	

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Visio バージョン 2000 および 2002	• ビュー • ツールバー • カスタマイズ/オプション • 一般 • 作図 • 設定 • 拡張	
MSN Messenger バージョン 5.x および 6.x	• ツール • 個人用 • メッセージ • プライバシー • 一般 • アカウント • 接続	
Netscape Navigator バージョン 6.x および 7.x	• 外観 • フォント • カラー • ナビゲーター • ヒストリー • 言語 • スマート・ブラウザー • インターネット検索 • コンポーザー • 改ページ設定 • メールおよびニュース・グループ • メッセージ表示 • メッセージ構成 • インスタント・メッセージング • アドレッシング • Cookies • パスワード	Netscape Navigator を Windows 98 または NT から Windows 2000 または XP へと移行している場合は、以下の手順を実行します。 1. 移行を開始する前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します (%USERNAME% はログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。 2. Netscape を移行します。 3. ターゲット・コンピューターをリブートします。次に Netscape を始動します。 4. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 5. 「設定」を選択します。 6. 「カテゴリー (Category)」で、「詳細 (Advanced)」を選択します。 7. 「キャッシュ」を選択します。 8. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx フォルダーには、ソース側と同じ名前を選択します)。 9. 「設定」を閉じます。 10. Netscape Mail を始動します。「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「Mail & Newsgroups アカウントの設定」を選択します。 12. 「サーバ設定」を選択します。 13. 「ローカル ディレクトリ」名を「C:¥Windows¥Application Data¥...」から「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 14. 「ローカル フォルダ」を選択します。次に「アカウント設定」を選択します。 15. 「ローカル ディレクトリ」名「C:¥Windows¥Application Data¥...」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 16. すべての Netscape アプリケーションを再始動します。

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Netscape Navigator、バージョン 6.x および 7.x (続き)		ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、移行を開始する前に、次の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 移行を行う前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します (%USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。 7. Netscape を移行します。 8. ターゲット・コンピューターをリブートします。 9. 「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」を開きます (xxxxx フォルダーには、ソース側と同じ名前を選択します)。 10. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「設定」を選択します。 12. 「カテゴリ」で「詳細」を選択します。 13. 「キャッシュ」を選択します。 14. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%\Application Data¥Mozilla¥Profiles\defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx フォルダーには、ソース側と同じ名前を選択します)。 15. 「prefs.js」ファイルを右クリックし、「編集」を選択します。 16. 「C:¥Documents and Settings¥%SOURCEUSER%¥¥」を検索して、すべての %SOURCEUSER% を %USERNAME% と置き換えます (%SOURCEUSER% はソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名、%USERNAME% はターゲット・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。 17. Netscape アプリケーションを始動します。
Norton Antivirus バージョン 7.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション	
Symantec Antivirus 9.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション	

表 9. 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
WinZip バージョン 8.x	• オプション • 列 • 一般 • セクション • ボタン • システム・デフォルト・フォルダー • エクスプローラー機能拡張 • コンテキスト・メニュー・コマンド • その他	

付録 B. ファイルおよびレジストリーの除外

この付録では、SMA を使用して移行できないファイルとレジストリー項目について説明します。

ファイルとディレクトリーの除外

以下のファイルとディレクトリーはスキャン・プロセスから除外されたため、取り込むことはできません。

- pagefile.sys
- hal.dll
- ntuser.dat
- ntuser.dat.log
- ntuser.dat.ini
- system.dat
- user.dat
- bootsect.dos
- io.sys
- msdos.sys
- ntdetect.com
- ntldr
- ldr
- win386.swp
- hiberfil.sys
- boot.ini
- system.ini
- msdos.---
- command.com
- system.ini
- system.1st
- config.sys
- autoexec.bat
- *systemdir*¥config。ここで、*systemdir* はオペレーティング・システム・ディレクトリーです。
- SMA 一時ディレクトリー

また、システム・ボリューム情報もスキャンできません。このため、取り込むことはできません。

レジストリーの除外

SMA は、以下のレジストリー項目を取り込むことはできません。

- HKCU¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Explorer
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Windows NT¥¥CurrentVersion
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥sam
- HKLM¥¥security
- HKLM¥¥system¥¥ControlSet00N
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥enum
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥services¥¥Tcpip
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥hardware profiles
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Cryptography
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Policies
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Class
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Network
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥DeviceClasses
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥RPC
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Group Policy
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Syncmgr
- HKLM¥¥Software¥¥Classes¥¥CID
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Services¥¥Class¥¥Net
- HKCU¥¥AppEvents
- HKCU¥¥Control Panel
- HKCU¥¥Identities
- HKCU¥¥InstallLocationsMRU
- HKCU¥¥Keyboard layout
- HKCU¥¥Network
- HKLM¥¥Config
- HKLM¥¥Driver
- HKLM¥¥Enum
- HKLM¥¥Network
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥Security

また、最終ノードが以下のいずれかのテキスト・ストリングである場合も、レジストリー・キーを除外することはできません。

- StreamMRU
- Cache
- Enum

付録 C. SMA 5.0 でサポートされるユーザー・プロファイルの移行

SMA 5.0 では、フォアグラウンドのシングル・ユーザー・プロファイルの移行およびマルチユーザー・プロファイルの移行の、2 種類の移行がサポートされています。シングル・ユーザー・プロファイルは次の方法で移行できます。

- 異なるユーザー名へ
- ローカル・アカウントからドメイン・アカウントへ
- ドメイン・アカウントからローカル・アカウントへ

以下の表では、シングル・ユーザー・プロファイルとマルチユーザーのそれぞれの移行で有効なシナリオを示します。

表 10. シングル・ユーザー・プロファイルの移行

ソース・コンピューターのユーザー・アカウント	ターゲット・コンピューターのユーザー・アカウント			
	ソース・アカウントとターゲット・アカウントが同じユーザー名の場合		ソース・アカウントとターゲット・アカウントが異なるユーザー名の場合	
	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント
ローカル・アカウント	はい	はい	はい	はい
ドメイン・アカウント	はい	はい	はい	はい

表 11. マルチユーザーの移行

ソース・コンピューターのユーザー・アカウント	ターゲット・コンピューターのユーザー・アカウント (遅延適用による移行)			
	フォアグラウンドのソース・アカウントとターゲット・アカウントが同じユーザー名の場合		フォアグラウンドのソース・アカウントとターゲット・アカウントが異なるユーザー名の場合	
	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント
ローカル・アカウント	はい	はい	いいえ[1]	いいえ[1]
ドメイン・アカウント	はい	はい	いいえ[1]	いいえ[1]

[1]: 異なるユーザー名アカウントへの移行は、フォアグラウンド・ユーザーの移行の場合にのみサポートされます。

以下の表では、ソース・コンピューターのどのユーザーがターゲット・コンピューターに移行されるかを示しています。

表 12. 事例 1. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのユーザー名が同じ場合

ユーザー名	User A	User B	User C
User A (ログオン)	はい[1]		
User B		はい[2]	
User C			はい[3]

[1]. フォアグラウンド・ログオン・ユーザー「User A」の設定は、ターゲット・コンピューターに正しく移行されます。
[2]. バックグラウンド・ユーザー「User B」の設定は、パスワード「User B」がユーザー名と同じ、つまり「User B」の場合にターゲット・コンピューターに正しく移行されます。このパスワードが異なる場合、「User B」の移行はスキップされます。
[3]. 「User C」がターゲット・コンピューター上に作成され、「User C」の設定がソース・コンピューターからコピーされます。

表 13. 事例 2. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのユーザー名が異なる場合

ユーザー名	User A	User B (ログオン)	User C	User D
User A (ログオン)	いいえ[4]	はい[5]		
User B		いいえ[6]		
User C			いいえ[7]	
User D				いいえ[8]

[4]. ソース・コンピューターの「User A」の設定は、ターゲット・コンピューターの「User A」に移行されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。
[5]. 「User A」の設定が「User B」に移行されます。これは、「User B」が現在ターゲット・コンピューターにログオンしているためです。
[6]. ソース PC 上の「User B」の設定は移行されません。これは、ソース PC の「User A」の設定がターゲット PC の「User B」に適用されるためです。
[7]. 「User C」はターゲット PC 上に作成されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。
[8]. 「User D」はターゲット PC に移行されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。

付録 D. SMA 4.2 またはそれ以前のバージョンとの互換性

この付録では、SMA 5.0 と SMA 4.2 以前のバージョンとの互換性情報を提供します。

SMA 5.0 のアーキテクチャーは、SMA 4.2 以前のバージョンと比較して、全面的に設計し直されました。そのため、SMA 4.2 を使用して作成された SMA プロファイル (移行ファイル) は、SMA 5.0 では使用できません。

SMA 5.0 では、そのコマンド・ファイルとアプリケーション・ファイルに XML ファイル・フォーマットを採用していますが、SMA 4.2 を使用して作成されたコマンド・ファイルとアプリケーション・ファイルでも、SMA 5.0 で使用できます。SMA 5.0 の XML ファイルの代わりに古い SMA 4.2 バージョンのコマンド・ファイルまたはアプリケーション・ファイルを指定すると、SMA 5.0 によってそれらのファイルが自動的に SMA 5.0 のデータに変換されます。

SMA 4.2 の以下のコマンドは、使用されなくなりました。

- 「capture_ntfs_attribute」([MISC] セクション)
- 「removable_media」([MISC] セクション)
- 「createselfextractingexe」([MISC] セクション)

以下のコマンドは SMA 5.0 で追加されたものです。

- 「time_zone」(<Desktop> セクション)
- 「desktop_settings (Desktop theme/Color scheme/Visual effect)」 (<Desktop> セクション)

コマンド・ファイル

SMA 5.0 コマンドとして処理できる SMA 4.2 コマンドについて、次の表で簡単に説明します。

表 14. コマンド・ファイルのコマンド

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.0
パスワード	[password_start] plain_password = xxxx [password_end]	<Password> <PlainPassword>xxxx</PlainPassword> </Password>
移行ファイル	[profile_path_and_name_start] output_profile = c:¥migrate.sma [profile_path_and_name_end]	<ArchiveFile> <filename>c:¥migrate.sma</filename> </ArchiveFile>
PC から PC への移行	[misc_settings_end] using_peer_to_peer_migration = 1 [misc_settings_end]	<TransferMode> <mode>P2P</mode> </TransferMode> <P2P> <connection_id>xxxx<connection_id> </P2P>

表 14. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.0
デスクトップ設定	[desktop_start] accessibility = 0 active_desktop = 1 colors = 1 desktop_icons = 1 display = 1 icon_font = 0 keyboard = 0 mouse = 0 pattern = 0 screen_saver = 1 sendto_menu = 0 shell = 0 sound = 0 start_menu = 0 taskbar = 1 wallpaper = 1 window_metrics = 0 [desktop_end]	<Desktop> <accessibility<false</accessibility> <active_desktop>true</active_desktop> <colors>true</colors> <desktop_icons>true</desktop_icons> <display>true</display> <icon_metrics>false</icon metrics) <keyboard>false</keyboard> <mouse>false</mouse> <pattern>false</pattern> <screen_saver>true</screen_saver> <sendto_menu>false</sendto_menu> <shell>false</shell> <sound>false</sound> <start_menu>false</start_menu> <taskbar>true</taskbar> <wallpaper>true</wallpaper> <window_metrics>false</window_metrics> <time_zone>true</time_zone> <desktop_settings>true</desktop_settings> </Desktop> **注:** 以前のバージョンとは異なり、SMA 5.0 では「time_zone」および「desktop_settings (Desktop theme/Color scheme/Visual effect)」の移行がサポートされます。
ネットワーク設定	[network_start] ip_subnet_gateway_configuration = 0 dns_configuration = 0 wins_configuration = 0 computer_name = 0 computer_description = 0 domain_workgroup = 0 shared_folders_drives = 1 mapped_drives = 1 dialup_networking = 0 microsoft_networking = 0 odbc_datasources = 0 [network_end]	<Network> <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subn et_gateway_configuration> <dns_configuration>false</dns_configuration> <wins_configuration>false</wins_configuration> <computer_name>false</computer_name> <computer_description>false</computer_description> <domain_workgroup>false</domain_workgroup> <shared_folders_drivers>true</shared_folders_driv es> <mapped_drives>true</mapped_drives> <dialup_networking>false</dialup_networking> <microsoft_networking>false</microsoft_networking> <odbc_datasources>false</odbc_datasources> </Network>
アプリケーション	[applications_start] Adobe Acrobat Reader Lotus Notes Microsoft Internet Explorer [applications_end]	<Applications> <Application>Adobe Acrobat Reader</Application> <Application>Lotus Notes</Application> <Application>Microsoft Internet Explorer</Applica tion> </Applications>
レジストリー	[registry_start] HKLM,"software¥microsoft¥currentversi on", "value"[registry_end]	<Registry> <hive>HKLM</hive> <keyname>sofware¥microsoft¥currentversion</key name> <value>value</value> </Registry>
ドライブの除外	[exclude_drive_start] d: [exclude_drive_end]	<ExcludeDrives> <Drive>d</Drive> </ExcludeDrives>
ファイルの組み込み	[includefile_start] c:¥data¥*.cpp [includefile_end] [includepath_start] c:¥data [includepath_end] [includefiledescription_start] *.cpp,c:¥data,c:¥NewData,P,NEWER, 05/01/2005 [includefiledescription_end]	<IncDescription> <Description>c:¥data¥*.cpp /s</Description> <DataCompare> <Operand>NEWER</Operand> <Date>05/01/2005</Date> </DateCompare> <SizeCompare> <Operand></Operand> <Size></Size> </SizeCompare> <Dest>c:¥NewData</Dest> <Operation>P/Operation> </IncDescription>

表 14. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.0
ファイルの除外	[excludefile_start] c:¥data¥*.cpp [excludefile_end] [excludepath_start] c:¥data [excludepath_end] [excludefiledescription_start] *.cpp,c:¥data,c:¥NewData,OLDER, 05/01/2005 [excludefiledescription_end] [excludefilesandfolders_start] %:¥data¥text%¥*.cpp [excludefilesandfolders_end]	<ExcDescription> <Description>c:¥data¥*.cpp /s</Description> <DataCompare> <Operand>OLDER</Operand> <Date>05/01/2005</Date> </DateCompare> <SizeCompare> <Operand></Operand> <Size></Size> </SizeCompare> </ExcDescription>
ユーザーの組み込み	[userprofiles_start] GetAllUserProfiles = 1 Administrator [userprofiles_end]	<IncUsers> <UserName>$(all)</UserName> <UserName>Administrator</UserName> </IncUsers>
ユーザーの除外	[excludeuserprofiles_start] localuser2 SMADOM1¥domainuser2 [excludeuserprofiles_end]	<ExcUsers> <UserName>localuser2</UserName> <UserName>SMADOM1¥domainuser2</UserName> </ExcUsers>
プリンター	[misc_settings_start] printers = 0 defaultprinteronly = [misc_settings_end]	<Printer> <PrinterName>IBM Network Printer</PrinterName> </Printer>
その他	[misc_settings_start] bypass_registry = quota=0 stop_if_quota_exceeded = 0 capture_ntfs_attribute = user_exit = C:¥EXIT.EXE overwrite_existing_files = 1 temp_file_location = c:¥templog_fi le_location = c:¥log removable_media = 0 AutoReboot = 2 resolve_icon_links = 1 createselfextractingexe = 0using_peer_to_peer_migration = 1 [misc_settings_end]	<MISC> <bypass_registry>true</bypass_registry> <quota></quota> <user_exit_after_apply>c:¥EXIT.EXE</user_exit_af ter_apply> <overwrite_existing_files>true</overwrite_existi ng_files> <temp_file_location>c:¥temp</temp_file_location> <log_file_location>c:¥log</log_file_location> <AutoReboot>2</AutoReboot> <resolve_icon_links>true</resolve_icon_links> <span_size>124</span_size> </MISC> **注:** 「capture_ntfs_attribute」、「removable_media」、および「createselfextractingexe」は SMA 5.0 では使用されなくなりました。

アプリケーション・ファイル

SMA 4.2 のアプリケーション・ファイルを SMA 5.0 で使用するには、それらのファイルを SMA5.0_Install_Directory/apps フォルダーにコピーします (SMA5.0_Install_Directory は SMA 5.0 の導入先ディレクトリー)。次の表には、SMA 5.0 アプリケーション・ファイル記述として処理される SMA 4.2 アプリケーション・ファイル記述をリストしています。

表 15. 付録: アプリケーション・ファイル・コマンド

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.0
アプリケーション情報	[General] Family= Application Name SMA_Version= 4.2 APP1= Application_1 (=shortname) APP2= Application_2	<Applications> <Family>Application name</Family> <SMA_Version>5.0</SMA_Version> <APP>Application_1</APP> <APP>Application_2</APP>
	[App_Info.shortname] Name= Application Name Version= 5.0 Detect_1= hive, "Registry keyname"	<Application ShortName="Application_1"> <AppInfo> <Name>Application Name</Name> <Version>5.0</Version> <Detects> <Detect> <hive>hive</hive> <keyname>Registry keyname</keyname> </Detect> <Detects> </AppInfo>
%Install Directory% SMA 変数の設定	[Install_Directories.shortname] WinXP= HKLM, "SOFTWARE¥SMA ", "INSTALLDIR"	<Install_Directories> <Install_Directory> <OS>WinXP</OS> <Registry> <hive>HKLM</hive> <keyname>SOFTWARE¥SMA</keyname> <value>INSTALLDIR</value> </Registry> </Install_Directory> </Install_Directories>
ファイルの組み込み	[Files_From_Folders.shortname] %Install Directory%, Data, *.txt	<Files_From_Folders> <Files_From_Folder>%InstallDirectory%¥D ata¥*.txt</Files_From_Folder> </Files_From_Folders>
レジストリーの組み込み	[Registry.shortname] HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat", "(Default)"	<Registries> <Registry> <hive>HKCU</hive> <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</key name> <value>(Default)</value> </Registry> </Registries>
レジストリーの除外	[Registry.shortname] HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat", "(Default)"	<Registry_Excludes> <Registry> <hive>HKCU</hive> <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</key name> <value>(Default)</value> <Registry> </Registry_Excludes>
SourceBatchProcessing	SMA 4.2 では SourceBatchProcessing はサポートされません。	<SourceBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]]> </SourceBatchProcessing>
PreTargetBatchProcessing	[PreTargetBatchProcessing] copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] [/PreTargetBatchProcessing]	<PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]]> </PreTargetBatchProcessing>

表 15. 付録: アプリケーション・ファイル・コマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.0
TargetBatchProcessing	[TargetBatchProcessing] copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] </TargetBatchProcessing>	<TargetBatchProcessing> <![CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]]> </TargetBatchProcessing>

アプリケーション・ファイルの変換

SMA には、SMA 4.2 のアプリケーション・ファイルを SMA 5.0 のアプリケーション・ファイルに変換するツールが組み込まれています。

SMA をデフォルトの場所に導入すると、AppFileTransfer.exe が d:¥Program Files¥IBM ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハード・ディスクのドライブ名です。

AppFileTransfer.exe コマンドでは、次の構文が使用されます。

```
AppFileTransfer "SMA42ApplicationFile" "SMA50ApplicationFile"
```

たとえば、SMA 4.2 の Lotus_Notes.smaapp を SMA 5.0 の Lotus_Notes.xml に変換するには、コマンド・プロンプトで次のストリングを入力します。

```
d:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥AppFileTransfer C:¥Apps¥Lotus_Notes.smaapp C:¥Ap
ps¥Converted¥Lotus_Notes.xml
```

Lotus_Notes.xml が C:¥Apps¥Converted フォルダー内に作成されます。

付録 E. ヘルプおよび技術援助の入手

ヘルプ、サービス、技術支援、または Lenovo 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、Lenovo がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。この付録では、Lenovo および Lenovo 製品に関する追加情報を入手するためのアクセス先、問題が発生した場合の処置の取り方、および保守が必要な場合の連絡先を示しています。

依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックしてコンピューターがオンになっていることを確認します。
- コンピューターの資料に記載されているトラブルシューティングのための提案を適用します。
- コンピューターに付属の診断ツールを使用します。診断ツールに関する情報は、ご使用のコンピューターの「*ハードウェア保守マニュアル*」および「*使用上の注意と問題判別*」にあります。
- 技術情報、ヒント、助言、および新規のデバイス・ドライバーを調べたり、情報の要求を出したい場合は、Support Web サイト (http://www.lenovo.com/think/support) にアクセスしてください。

多くの問題は、コンピューターやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。ご使用のコンピューターに付属の資料には、ユーザーが実行できる診断テストについても記載しています。大部分の PC システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順およびエラー・メッセージとエラー・コードの説明を含む情報が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

Lenovo システムおよびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。Lenovo は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けています。これらのページにアクセスするには、http://www.lenovo.com/think/support に進み、説明に従ってください。

ヘルプおよび情報を WWW から入手する

Lenovo 製品、サービス、およびサポートの最新情報は、Lenovo Web サイト http://www.lenovo.com/think/support にあります。

付録 F. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品, プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

Intellectual Property Licensing
Lenovo Group Ltd.
500 Park Offices Drive, Hwy. 54
Research Triangle Park, NC 27709
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されるすべての情報は、特定の環境において得られたものであり、例として提示されます。他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

付録 G. 商標

以下は、Lenovo Corporation の商標です。

Lenovo

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM (ライセンスに基づき使用しています。)
Approach
Lotus
Lotus Notes
Lotus Organizer
Freelance Graphics
SmartSuite
Word Pro
1-2-3

Microsoft、Windows、Outlook および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、LANDesk、および Intel SpeedStep は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

［カ行］

[サ行]

[タ行]

[ナ行]

[ハ行]

[マ行]

[ヤ行]

[ラ行]

A

C

G

I

L

M

N

P

S

W